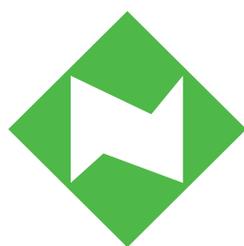


公第2卷 (通算第13卷)



公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院年報

平成25年4月～平成26年3月

vol. 2

平成25年度 日生病院年報の発刊にあたって



院長 笠山 宗正

日生病院年報（公第2巻：平成25年4月～平成26年3月）をお届けいたします。どうぞ、ご高覧くださいませようお願い申し上げます。

日本生命済生会は、設立母体である日本生命の社是である「共存共栄」「相互扶助」の精神を実践するため、「済生利民」を基本理念として医療と福祉を通じて社会貢献を果たすべく、大正13年に設立されました。日生病院は日本生命済生会の附属病院として昭和6年に大阪市西区に開院し、昭和57年に現在の地に移転後も一貫して地域の皆様一人ひとりの生活と心を重視した医療や福祉の実践活動を続けてきました。

院長、看護部長、事務長が交代となった平成25年度は、診療内容をさらに充実させるため、① 総合内科に呼吸器内科専門医2名を招聘し呼吸器疾患の専門的治療を開始、② 神経内科を従来の循環器・神経内科から分離新設し専門医1名を増員、③ 救急診療科に専任の専攻医1名を配置するとともに夜間休日の救急受け入れ態勢を見直し、④ 欠員であった病理診断科に常勤医師を招聘、などの取り組みを行いました。

先進医療に対しても積極的に推進し、産婦人科の「腹腔鏡下仙骨膕固定術」が厚生労働省の認定する高度先進医療として全国で2番目に認定されたほか、乳がんのリンパ節転移の診断の向上のため遺伝子増幅検出装置OSNAを導入しました（大阪府下で3番目）。予防医学センターにおいては、新しい健診システムを導入し事務処理の省力化と迅速化に取り組みました。

さらに、勉強会や講演会を通じて近隣医療機関との連携強化を図るとともに、市民健康セミナーや院内広報誌を一新したほか、「ニッセイ夏休み子ども医療体験」や「自然に学ぶ！自然で遊ぶ！健康キッズ」の開催などの社会活動にも積極的に取り組みました。

患者様に対して最優の医療を提供することは病院で働く職員の最大の使命ですが、患者様満足（CS）は職員満足（ES）と表裏一体との観点から、職員にとっても誇りが持てる素晴らしい病院づくりをめざして努力してまいります。これからも当院に対しまして一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第I章 軌跡

1. 日生病院理念と基本方針、患者様の権利について	1
2. 施設概要	2
3. 学会認定状況	3
4. 主要医療機器	4
5. 日本生命済生会組織図	5
6. 会議、委員会	6
7. 平成25年度 業績概要	7
8. 日本生命済生会の沿革	8
9. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長	11

第II章 病院統計

1. 全体統計	12
1) 一日平均外来患者数	12
2) 一日平均入院患者数	13
3) 救急患者数	14
4) 病床稼働率	15
5) 病院従業員数	16
6) 退院患者医療評価指標	17
2. 医事統計	22
1) 診療科別医療収入	22
2) 医療行為別医療収入（外来）	24
3) 医療行為別医療収入（入院）	25

第III章 部門別概要

1. 診療部門	26
循環器内科	26
消化器内科	28
総合内科	30
血液・化学療法内科	34
神経内科	36
救急診療科	37
神経科・精神科	38
小児科	40
消化器・一般外科	42
乳腺外科	44
整形外科	46
皮膚科	48
泌尿器科	52

産婦人科	54
眼科	56
耳鼻咽喉科	58
放射線科	61
麻酔・緩和医療科	62
病理診断科	65
臨床研修部	66
2. センター部門	67
がん治療センター	67
低侵襲医療センター	68
糖尿病センター	69
消化器内視鏡センター	71
3. 診療支援部門	72
輸血部	72
外来化学療法室	73
リハビリテーション室	74
中央臨床検査部	76
栄養管理室	79
診療情報管理室	82
薬剤部	83
治験管理室	85
医療安全対策室	87
感染対策室	88
あったかサポートセンター	89
4. 看護部門	95
看護部	95
5. 予防医学部門	103
ニッセイ予防医学センター	103
6. 訪問看護部門	106
日生訪問看護ステーション	106

第IV章 諸活動

1. 診療科別教育	107
2. 全体教育	108
3. 日生医学賞、日生医学奨励賞	114
4. 地域活動	115
5. ボランティアの活動	115
6. CS・ESへの取組	116
7. 院内行事	116

■ 日生病院理念と基本方針

理念

日生病院は（公財）日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者様の立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 社会に学び、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 上記5項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

■ 患者様の権利について

医療は患者様と医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日生病院では、患者様中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者様の権利を大切にいたします。

1. 患者様は、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者様は、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者様は、十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方針などを自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者様は、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者様は、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

なお、患者様におかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

施設概要

1. 名称 公益財団法人日本生命済生会附属日生病院
2. 所在地 大阪市西区立売堀6-3-8
3. 開設年月日 昭和57年3月11日
4. 構造 病院本館／鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階（搭屋1階）
病院別館／鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階
予防医学センター・寮／地上5階
5. 設備 空調設備／セントラル空調方式一部個別方式
熱源設備／ガス吸収式冷温水発生機・空冷ヒートポンプチラー
電気設備／契約電力1500kw
6. 竣工年月日 昭和57年2月1日
工事期間／昭和54年12月6日～昭和57年2月1日
7. 許可病床数 350床

〈病院本館〉

7F	ミニ・コンビニ、カフェ	555㎡	
病棟等（主な入院診療科）			
6F	消化器内科 総合内科 神経科・精神科 小児科	産婦人科 (LDR、新生児室)	1,979㎡
5F	血液・化学療法内科 総合内科	循環器内科 神経内科	1,979㎡
4F	整形外科 眼科 皮膚科	消化器・一般外科 乳腺外科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 内科	2,016㎡
3F	消化器・一般外科 乳腺外科 産婦人科 泌尿器科	手術室	2,900㎡
外来			
2F	眼科/泌尿器科/皮膚科/耳鼻咽喉科/神経科・精神科 健診精査内科/麻酔・緩和医療科/糖尿病センター 栄養指導室/中央検査部/生理検査室/中央採血室 MRI・RI検査室/医局		3,942㎡
1F	内科（循環器内科、消化器内科、総合内科、血液・化学療法内科、神経内科、救急診療科） 小児科/産婦人科/消化器・一般外科/乳腺外科/整形外科 リハビリテーション室/消化器内視鏡センター/放射線科 治験管理室/医事サービス部/あったかサポートセンター 低侵襲医療センター/がん治療センター/時間外診察室		3,881㎡
B1F	リニアック治療室/薬剤部/栄養管理室		4,756㎡
計			22,011㎡

〈病院別館〉

5F	別館病棟	409㎡
4F	管理部門・会議室	499㎡
3F	管理部門	499㎡
2F	管理部門	777㎡
1F	講堂・訪問看護	929㎡
計		3,114㎡

〈予防医学センター〉

2F	ドック・健診スペース	1,102㎡
1F	受付・事務	847㎡
計		1,949㎡

■ 学会認定状況

- ・日本内科学会
- ・日本整形外科学会
- ・日本血液学会
- ・日本超音波医学会
- ・日本循環器学会
- ・日本皮膚科学会
- ・日本眼科学会
- ・日本病理学会
- ・日本消化器外科学会
- ・日本IVR学会
- ・日本高血圧学会
- ・日本呼吸器学会
- ・日本外科学会
- ・日本泌尿器科学会
- ・日本耳鼻咽喉科学会
- ・日本アレルギー学会
- ・日本産科婦人科学会
- ・日本麻酔科学会
- ・日本小児科学会
- ・日本臨床腫瘍学会
- ・日本糖尿病学会
- ・日本心血管インターベンション治療学会
- ・日本静脈経腸栄養学会
- ・日本医学放射線学会
- ・日本ペインクリニック学会
- ・日本リウマチ学会
- ・日本臨床細胞学会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本内分泌学会
- ・日本乳癌学会
- ・日本消化器病学会
- ・日本神経学会
- ・日本肝臓学会
- ・日本消化器内視鏡学会
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

(平成26年3月31日現在)

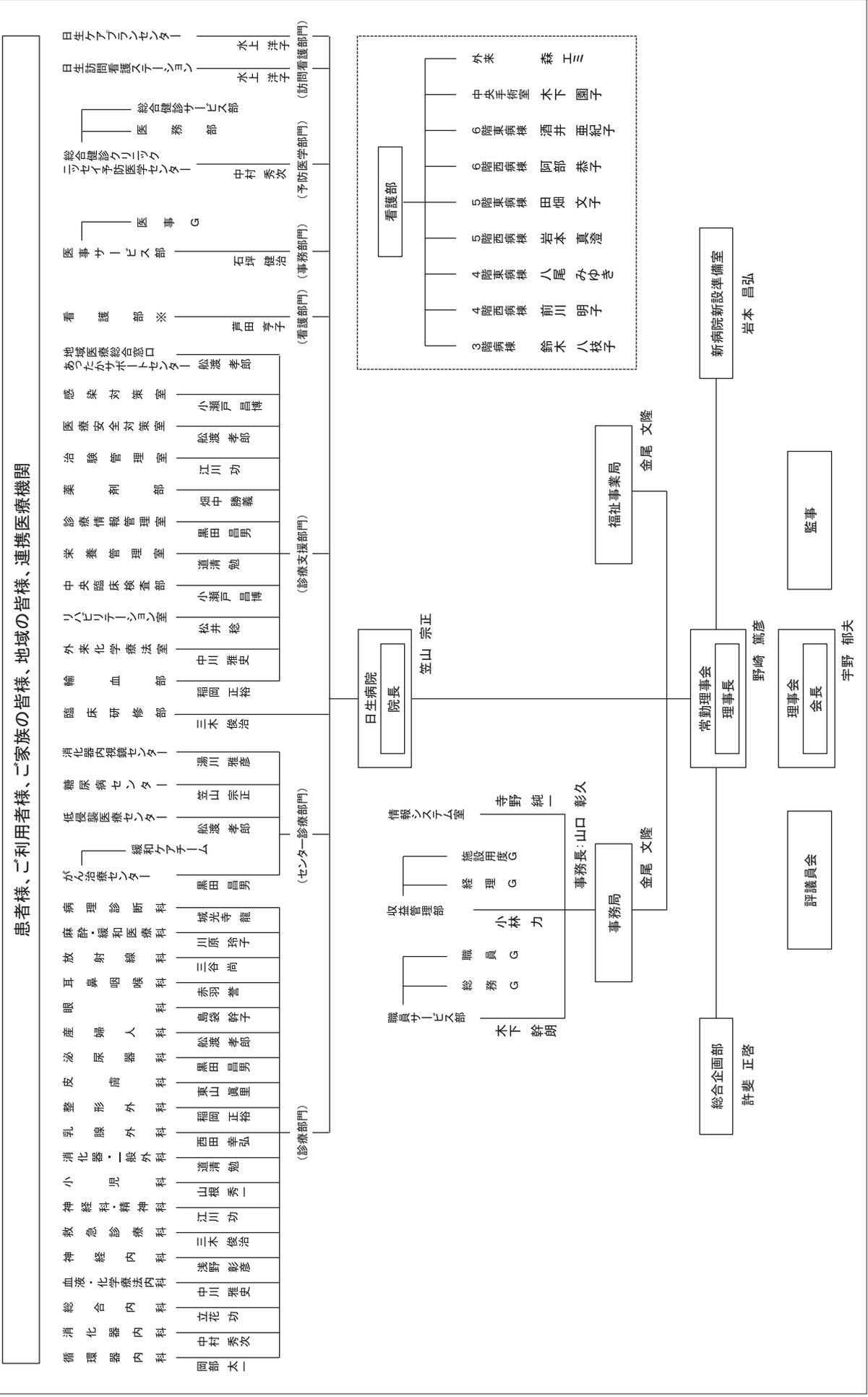


主要医療機器 (取得金額1,000万円以上)

品名	設置部署	数量	品名	設置部署	数量
超音波内視鏡	内視鏡	1	全身用磁気共鳴装置 (MRI)	RI・MRI	1
ステレオ定位乳腺バイオプシーシステム	乳腺外科	1	デジタルガンマカメラ	RI・MRI	1
体外衝撃波結石破碎装置	泌尿器科	1	超音波診断装置SSD-2000	超音波	1
ノーバスオムニマルチカラーレーザー光凝固装置	眼科	1	超音波診断装置SSA-370A	生理検査	1
フリードメインOCT RS-3000	眼科	1	超音波診断装置SONOS4500	生理検査	1
前眼部OCT CASIA	眼科	1	超音波診断装置SONOS-7500システム	生理検査	1
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼科	1	超音波診断装置 VIVID E9 BASIC	生理検査	1
医用ライナック LMR-4	放射線科	1	血液検査分析器 HSトランスポートーション	血液検査	1
診断用X線テレビ装置MEDIX-230XB	放射線科	1	実験台及び什器備品 一式5台	化学血清	1
骨密度測定装置DPX-L	放射線科	1	血液ガス電解質分析装置ABL-615	化学血清	1
X線テレビ装置DBA-300A	放射線科	1	ニューマック手術台システム	手術室	1
FCR5000	放射線科	1	手術顕微鏡OPMI-6S	手術室	1
寝台昇降型X線テレビ装置	放射線科	1	眼科用手術顕微鏡 OPMI CS-XY	手術室	1
位置決めX線装置	放射線科	1	高圧蒸気滅菌器	手術室	1
FCR5000 PLUS	放射線科	1	全身麻酔装置	手術室	1
多目的血管連続撮影装置 INNOVA3100	放射線科	1	蒸気滅菌器	手術室	1
16列マルチスライスCT	放射線科	1	麻酔ワークステーション (監視モニター)	手術室	1
放射線治療装置LMR-4点検整備	放射線科	1	トランスマックハッチウェイシステム	手術室	1
乳房X線撮影装置LORAND M-IV	放射線科	1	全身麻酔器 エスティバ 5/ST	手術室	1
放射線治療システム (リニアアクセラレーター)	放射線科	1	アルファマック分離手術台	手術室	1
IMRT対応部品	放射線科	1	ステラッド100S低温プラズマ滅菌器	手術室	1
心臓カテーテル検査装置 MCS-9000	放射線科	1	S/5麻酔ワークステーション	手術室	1
320列CT装置 Aquilion ONE	放射線科	1	形成外科用手術顕微鏡 M525 F40	手術室	1
デジタルガンマカメラGCA-901A	RI・MRI	1	手術顕微鏡 OPMI LUMERA	手術室	1
ガンマカメラGCA-7200A	RI・MRI	1	超音波診断装置SSH-160A/HG	6階西	1

公益財団法人日本生命済生会 組織図

H26.3現在



■ 会議、委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護センター・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・部長会

院長を中心に、病院各科・各部の部長以上をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、部長会ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

現在、次の委員会が設置され、活動している。

委員会名	委員長
ACLS委員会	川原 玲子
あったかサポートセンター運営委員会	船渡 孝郎
安全衛生委員会	立花 功
医療安全管理委員会	船渡 孝郎
医療ガス安全管理委員会	川原 玲子
医療機器・デイスポ検討委員会	笠山 宗正
医療従事者業務見直しWG	黒田 昌男
院内感染対策委員会	小瀬戸 昌博
栄養給食委員会	道清 勉
外来機能改善委員会	船渡 孝郎
化学療法運営委員会	中川 雅史
がん治療センター運営委員会	黒田 昌男
教育委員会	立花 功
クリティカルパス委員会	黒田 昌男
研修管理委員会	笠山 宗正
研修推進委員会	三木 俊治
サービス・広報委員会	山口 彰久
手術室運営委員会	川原 玲子
消化器内視鏡センター運営委員会	湯川 雅彦
情報管理委員会	黒田 昌男
褥瘡対策委員会	東山 眞里

委員会名	委員長
診療情報提供委員会	山根 秀一
診療録管理委員会	浅野 彰彦
治験審査委員会	東山 眞里
TQM推進委員会	江川 功
低侵襲医療センター運営委員会	船渡 孝郎
DPC・質向上委員会	黒田 昌男
当直・救急検討委員会	道清 勉
糖尿病センター運営委員会	笠山 宗正
7：1看護体制発展推進委員会	笠山 宗正
日生医学賞顕彰委員会	浅野 彰彦
年報ワーキング	立花 功
病院機能向上委員会	笠山 宗正
病棟運営委員会	笠山 宗正
防災管理委員会	立花 功
放射線安全委員会	笠山 宗正
薬事管理委員会	笠山 宗正
輸血療法委員会	稲岡 正裕
臨床検査運営委員会	水口 洋一
倫理委員会	中村 秀次
臨床工学技士ワーキング	小瀬戸 昌博

■ 平成25年度 業績概要

総収入	8,233百万円 (7,498百万円)*	従業員数	643人
新入院患者数	7,461人	平均在院日数	12.6日
1日平均入院患者数	277人	入院単価	49,689円
病床稼働率	79.1%		
外来延患者数	222,067人	外来単価	10,943円
1日平均外来患者数	910人		
紹介率	42.1%	逆紹介率	43.1%

* () 病院単独

■ (公財) 日本生命済生会 (日生病院) の沿革

大正13年 7月	財団法人「日本生命済生会」設立	昭和46 4	給与体系、退職金規定改正、60才定年制施行
14 4	健康相談所（無料診療所）を開設 大地震に救護班派遣	47 4	臨床研修指定病院の認定受ける
昭和5 6	緒方病院の土地、建物を譲り受け （大阪市西区新町）	48 2	「日生病院医学雑誌」第一巻第1号を刊行
6 6	日生病院（内科、外科、理学的診療科）開院	48 3	紀要「地域福祉研究」第一集刊
7 4	看護婦養成所を設立	48 4	放射線学会「専門医修練機関」認定
7 7	産婦人科、小児科を新設	48 9	病歴図書部を新設
17 1	耳鼻咽喉科を新設	48 10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」開発で機械振興会賞を受賞
22 1	眼科新設（その後皮膚泌尿器科、歯科、整形外科新設）	49 7	創立50周年記念式典、50年史の編纂（54年発刊）
22 4	インターン制度の開始 （第一期生9名受入れ）	51 1	RI検査室を新設
23 9	健康保険、労災保険病院の指定受ける	53 3	「(新) 病院建築基本構想委員会」設置
24 7	結核病棟を設置（昭和48年8月、閉鎖）	53 4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ昇格
30 12	第二種社会福祉事業（無料低額診療）を開始	54 4	医療事務をコンピュータ化
31 1	日生病院、本館、別館につづき新館竣工（350床へ）	57 4	新病院（現在地）の竣工、開院
31 6	健康精密検査室（人間ドック）を開設	58 3	日本生命と第一回特別委員会（5カ年計画策定）
32 8	総合病院の認可受ける	59 3	全科で午後外来診療を開始
33 4	済生会組織、三部門体制へ （現行体制スタート）	59 4	社会事業局を福祉事業部に改組
33 10	甲表採用、三基準認可	60 4	病理部を再設置
34 10	神経科新設	62 12	HBS社（医療経営コンサルト）の診断を受ける
35 4	学校、准看護学院から高等看護学院 （正看護婦養成）へ	63 10	横井先生、第5回世界超音波医学学術 連合会議からパイオニア賞を受賞
36 6	日本生命済生会労働組合の結成	平成元 2	夕食を午後6時配膳
40 8	各診療科に部長制採用	元 10	専門外来（10科）開始
42 10	中央検査室を「臨床検査センター」へ 拡大、充実	元 11	自動再診受付機を設置
43 8	第一回「社会福祉カウンセリング講座」 開講	2 10	学校、創立30周年記念式典
44 4	冲中重雄氏（虎の門病院長）を顧問委嘱	3 4	4週6休制試行開始
45 9	第一回「篤志解剖者慰霊祭」執行	3 10	地域の「健康講座」に講師派遣
		4 6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
		5 2	「病院運営会議」を再開

平成5	4	MRIの稼働開始	平成13	6	公開学術講演会開催 (講師：北村国立循環器病センター総長)
5	6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得	13	7	第一回日生病院病診連携フォーラム開催
5	10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成	14	1	開放型病院資格取得
6	3	内科外来等で予約診療開始	15	4	医療安全対策室設置
6	7	創立70周年記念式典、諸行事実施(7～ 11月)、70年史の編纂開始	15	4	予防医学センター設置
6	10	脳ドック検診開始	16	2	内科二次救急指定病院取得
6	10	新看護体系「2：1(A)」の承認	17	3	電子カルテシステム稼働
6	11	無菌治療室設置、使用開始	18	4	血液・化学療法内科新設
7	2	保温保冷配膳車導入	18	7	DPC導入(入院医療費)
7	8	日生医学賞・医学奨励賞創設、第一回 表彰式実施	19	2	土曜日閉院 4週8休制開始
7	8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞 受賞	19	3	7対1入院基本料算定開始
8	5	総合案内・看護相談の試行実施	19	3	日生看護専門学校閉校
8	10	「歯科口腔外科」標榜	19	11	がん治療センター、 低侵襲医療センター開設
9	2	経営改善推進本部・部会の発足	20	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン
9	3	歯科臨床教育病院の新規指定	20	7	生活習慣病センター開設
9	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト (医療経済研究機構)に選ばれ、参加 (全国17モデル病院)	20	10	乳腺外科新設
10	2	「日生病院だより」創刊号発行	21	3	第一回日生病院市民公開講座開催
10	5	総合診療科機能発足	21	4	大阪府がん診療拠点病院に指定
10	7・8	DRG/PPS分析結果報告会開催	22	8	無料乳がん検診開始
10	11	院外処方箋発行開始	23	4	消化器内視鏡センター開設
10	11	薬剤管理指導料全科算定認可	24	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子 宮体がん根治手術」(産婦人科)が承認 される
11	3	医療材料院外SPD(物品管理システム) 始動	24	4	公益財団法人へ移行
11	7	インフラ工事開始 (12年4月：3階新病棟オープン)	24	4	地域医療総合窓口 あったかサポートセンター創設
12	3	日生訪問看護ステーションを開設	24	4	生活習慣病センターから糖尿病センター へ組織名称変更
12	4	日生ケアプランセンター設置	24	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次 元画像解析」(眼科)が承認される
13	4	病院機能評価認定証取得	24	8	320列マルチスライスCT導入
13	4	「日生病院の理念」制定、 「患者様の権利」院内掲示			

(平成25年度沿革)

25年4月1日	神経内科を循環器内科・神経内科から分離新設
25年4月1日	呼吸器内科の専門的診療開始
25年4月1日	新病院新設準備室の新設
25年4月1日	予防医学センターにて「新健診システム」の導入
25年5月1日	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨隆固定術」(産婦人科)が承認される
25年8月25日	無料乳がん検診の実施 (「母と子の共励会」協賛、「大阪府」及び「大阪市社会福祉協議会」後援)
25年9月25日	乳癌リンパ節転移判定装置 OSNA (One-step Nucleic Acid Amplification) 法による 遺伝子増幅検出装置を導入
25年10月	当院TQM活動が医療雑誌「メディカルクオール10月号」に掲載
25年11月9・10日	フォーラム「医療の改善活動」全国大会で予防医学センターが最優秀賞を受賞
25年12月6日	日本呼吸器学会施設認定取得
25年12月15日	ニッセイ緑の財団との共催イベント「自然に学ぶ!自然に遊ぶ!健康キッズ」開催
25年12月19日	「重症者等療養環境特別加算」の対象病床を2床から5床に増床 (26年1月21日 5床から6床に増床)
26年1月	広報誌「日生病院あったかサポート通信『Saisei Rimin (済生利民)』」を発刊
26年1月9日	業務改革プロジェクトの立ち上げ
26年1月22日	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設

■ 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日生病院歴代院長

設立時の常任理事	小河 滋次郎	大正13年～14年
日本生命済生会 会 長	弘世 現	昭和35年～平成3年
	川瀬 源太郎	平成3年～12年
	小林 幹司	平成12年～17年
	宇野 郁夫	平成17年～
日本生命済生会 理 事 長	手塚 太郎	大正14年～昭和7年
	弘世 助太郎	昭和7年～11年
	成瀬 達	昭和11年～26年
	弘世 現	昭和26年～35年
	若林 源蔵	昭和35年～43年
	浜田 勝巳	昭和43年～55年
	浅井 啓三	昭和55年～61年
	鳥井 静夫	昭和61年～平成4年
	弟子丸 兆生	平成4年～6年
	平島 一	平成6年～8年
	沼田 輝夫	平成8年～14年
	小林 三紘	平成14年～20年
	野崎 篤彦	平成20年～
	日 生 病 院 院 長	成尾 勝馬
清水 寛一		昭和12年～21年
勝部 育郎		昭和21年～23年
新海 輝一		昭和23年～46年
諏訪 信吾		昭和46年～49年
上野 元男		昭和49・51～52年
乾 久朗		昭和49年～51年
中井 俊夫		昭和52年～平成2年
山本 昌弘		平成2年～12年
佐藤 文三		平成12年～16年
宗田 滋夫		平成16年～20年
寺川 直樹		平成20年～25年
笠山 宗正		平成25年～



理事長 野崎 篤彦



院長 笠山 宗正

■ 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	62人 (89)	60人 (86)	56人 (83)	56人 (88)	56人 (81)	59人 (88)	56人 (84)	56人 (86)	58人 (92)	61人 (94)	56人 (83)	52人 (84)	57人 (86)
消化器内科	56 (58)	59 (60)	54 (56)	58 (61)	57 (56)	63 (60)	56 (56)	60 (59)	59 (60)	59 (61)	58 (59)	58 (56)	58 (58)
総合内科	113 (111)	119 (112)	118 (109)	120 (113)	113 (106)	132 (118)	124 (113)	122 (118)	134 (128)	132 (128)	126 (119)	124 (117)	123 (116)
血液・化学療法内科	25 (27)	25 (28)	24 (25)	27 (26)	25 (23)	29 (26)	25 (24)	26 (26)	27 (26)	25 (30)	26 (25)	28 (26)	26 (26)
神経内科	25 (0)	23 (0)	25 (0)	25 (0)	23 (0)	25 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	29 (0)	24 (0)	27 (0)	25 (0)
救急診療科	13 (7)	14 (7)	12 (7)	12 (8)	12 (6)	15 (9)	15 (8)	15 (11)	14 (10)	20 (18)	16 (11)	16 (10)	14 (9)
内科(計)	294 (292)	300 (293)	289 (280)	298 (296)	286 (272)	323 (301)	302 (285)	305 (300)	318 (316)	326 (331)	306 (297)	305 (293)	303 (295)
神経科・精神科	63 (65)	63 (64)	61 (61)	67 (63)	56 (62)	70 (65)	61 (60)	67 (68)	69 (70)	68 (68)	63 (60)	63 (65)	64 (64)
小児科	37 (43)	39 (41)	32 (39)	33 (42)	32 (37)	31 (40)	34 (44)	39 (48)	46 (45)	38 (39)	39 (38)	37 (40)	36 (41)
消化器・一般外科	18 (23)	20 (23)	19 (21)	17 (21)	19 (19)	21 (22)	19 (21)	18 (18)	20 (22)	21 (22)	19 (20)	22 (20)	19 (21)
乳腺外科	17 (19)	20 (17)	18 (17)	23 (19)	20 (17)	18 (19)	22 (20)	20 (20)	22 (19)	19 (19)	18 (19)	17 (18)	20 (19)
外科(計)	35 (42)	40 (40)	37 (38)	40 (40)	39 (36)	39 (41)	41 (41)	38 (38)	42 (41)	40 (41)	37 (39)	39 (38)	39 (40)
整形外科	64 (68)	64 (69)	58 (68)	59 (77)	54 (66)	63 (74)	58 (73)	55 (68)	61 (73)	59 (69)	55 (63)	58 (66)	59 (70)
皮膚科	110 (107)	118 (113)	117 (109)	116 (117)	111 (109)	116 (110)	110 (110)	110 (112)	114 (116)	115 (119)	107 (109)	112 (120)	113 (112)
泌尿器科	47 (53)	51 (50)	47 (48)	49 (49)	46 (45)	56 (53)	47 (50)	49 (50)	55 (55)	53 (57)	51 (55)	50 (52)	50 (51)
産婦人科	82 (67)	88 (71)	87 (65)	90 (75)	82 (63)	86 (76)	89 (73)	84 (70)	88 (75)	92 (75)	90 (72)	87 (71)	87 (71)
眼科	56 (57)	59 (61)	57 (59)	57 (59)	54 (52)	56 (64)	55 (55)	57 (58)	59 (60)	55 (59)	61 (60)	60 (62)	57 (59)
耳鼻咽喉科	60 (64)	60 (65)	56 (58)	52 (63)	53 (56)	55 (58)	53 (58)	57 (62)	60 (64)	56 (63)	60 (62)	64 (66)	57 (62)
放射線科	16 (18)	18 (13)	19 (16)	19 (15)	18 (11)	18 (14)	22 (18)	18 (16)	22 (20)	23 (18)	26 (18)	21 (14)	20 (16)
麻酔・緩和医療	22 (25)	22 (26)	24 (23)	24 (25)	22 (22)	25 (24)	24 (23)	23 (24)	25 (23)	24 (23)	23 (23)	22 (22)	23 (24)
その他	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	885 (901)	923 (907)	886 (865)	905 (921)	853 (829)	939 (921)	895 (889)	903 (915)	959 (959)	951 (959)	918 (897)	918 (910)	910 (904)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

[医 事 G]

2. () 内は前年同月

3. H25.4 循環器内科・神経内科を循環器内科と神経内科に分離

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	34人 (46)	30人 (43)	31人 (45)	29人 (42)	34人 (45)	27人 (48)	26人 (48)	28人 (41)	33人 (49)	31人 (41)	35人 (49)	31人 (42)	31人 (45)
消化器内科	24 (22)	25 (21)	22 (22)	21 (27)	22 (25)	19 (25)	19 (24)	24 (26)	20 (28)	20 (26)	20 (28)	25 (24)	22 (25)
総合内科	39 (32)	46 (31)	44 (29)	49 (32)	39 (40)	36 (38)	37 (33)	40 (36)	34 (34)	45 (33)	49 (32)	42 (35)	42 (34)
血液・化学療法内科	23 (23)	28 (20)	28 (17)	29 (20)	29 (24)	26 (25)	26 (23)	26 (25)	30 (24)	26 (27)	25 (24)	28 (18)	27 (22)
神経内科	9 (0)	8 (0)	10 (0)	13 (0)	17 (0)	16 (0)	17 (0)	16 (0)	14 (0)	14 (0)	15 (0)	15 (0)	14 (0)
救急診療科	0 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	0 (0)	4 (0)	3 (1)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)
内科(計)	129 (123)	139 (115)	138 (113)	145 (121)	144 (134)	124 (136)	129 (128)	137 (129)	134 (135)	140 (127)	147 (133)	143 (119)	139 (126)
神経科・精神科	18 (17)	18 (12)	17 (15)	17 (13)	18 (12)	17 (16)	19 (16)	18 (10)	20 (11)	20 (13)	19 (16)	19 (15)	18 (14)
小児科	1 (5)	2 (3)	2 (5)	1 (5)	2 (5)	3 (5)	2 (6)	3 (5)	2 (4)	3 (4)	3 (6)	4 (4)	2 (5)
消化器・一般外科	16 (19)	14 (25)	18 (28)	18 (22)	16 (22)	23 (21)	19 (21)	16 (21)	16 (19)	11 (18)	12 (14)	15 (17)	16 (21)
乳腺外科	4 (4)	4 (4)	7 (4)	5 (3)	7 (5)	6 (6)	6 (5)	5 (6)	6 (6)	9 (3)	7 (2)	3 (4)	6 (4)
外科(計)	20 (23)	18 (29)	25 (32)	23 (25)	23 (27)	29 (27)	25 (26)	21 (27)	22 (25)	20 (21)	19 (16)	18 (21)	22 (25)
整形外科	24 (22)	20 (24)	22 (25)	27 (31)	23 (30)	20 (26)	24 (29)	30 (31)	30 (28)	24 (24)	26 (32)	25 (27)	25 (28)
皮膚科	12 (14)	10 (15)	11 (9)	9 (12)	9 (10)	10 (10)	10 (6)	11 (7)	7 (8)	8 (6)	12 (9)	9 (12)	10 (10)
泌尿器科	12 (13)	10 (12)	10 (14)	12 (10)	8 (10)	13 (12)	14 (10)	9 (12)	7 (15)	11 (14)	10 (16)	7 (13)	10 (13)
産婦人科	37 (34)	25 (30)	35 (28)	33 (37)	37 (33)	29 (33)	35 (35)	29 (34)	33 (33)	29 (33)	32 (33)	37 (38)	33 (33)
眼科	8 (5)	8 (6)	7 (8)	7 (6)	5 (3)	4 (5)	8 (5)	10 (6)	5 (6)	4 (4)	8 (7)	6 (6)	7 (6)
耳鼻咽喉科	14 (15)	12 (14)	12 (15)	11 (17)	10 (18)	13 (13)	15 (12)	15 (13)	16 (12)	12 (9)	15 (13)	14 (10)	13 (13)
放射線科	0 (0)												
麻酔・緩和医療	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	1 (2)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (1)
合計	276 (271)	263 (260)	279 (265)	284 (278)	279 (284)	264 (282)	282 (274)	281 (275)	278 (276)	270 (257)	290 (280)	284 (268)	277 (273)

(注) 1. () 内は前年同月

[医 事 G]

2. H25.4 循環器内科・神経内科を循環器内科と神経内科に分離

3 救急患者数

	人 数													(内、入 院 数)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計
循環器内科	69 (16)	57 (14)	49 (18)	41 (5)	69 (21)	52 (14)	56 (22)	54 (18)	85 (27)	69 (24)	59 (20)	44 (13)	704 (212)	37 (10)	27 (8)	20 (3)	21 (3)	42 (14)	22 (9)	28 (14)	28 (10)	35 (13)	26 (11)	29 (10)	23 (7)	338 (112)
消化器内科	38 (14)	33 (9)	31 (10)	32 (9)	51 (16)	50 (12)	27 (11)	33 (11)	40 (10)	43 (13)	30 (11)	51 (16)	459 (142)	21 (5)	11 (5)	13 (4)	19 (5)	19 (6)	19 (4)	15 (7)	11 (3)	18 (3)	19 (6)	14 (5)	24 (8)	203 (61)
総合内科	101 (30)	98 (19)	102 (29)	77 (24)	81 (20)	76 (12)	83 (24)	83 (24)	79 (24)	106 (27)	97 (29)	90 (23)	1,073 (285)	42 (16)	38 (13)	41 (17)	33 (14)	32 (12)	39 (9)	39 (12)	34 (14)	34 (13)	43 (16)	36 (17)	29 (14)	440 (167)
血液・化学療法内科	23 (7)	19 (3)	22 (5)	28 (7)	18 (3)	24 (4)	17 (5)	17 (3)	15 (5)	18 (3)	28 (5)	31 (7)	260 (57)	14 (6)	12 (2)	9 (2)	15 (4)	10 (2)	9 (2)	10 (3)	11 (1)	8 (3)	9 (2)	15 (3)	14 (5)	136 (35)
神経内科	6 (1)	24 (5)	8 (0)	23 (12)	22 (5)	23 (3)	23 (4)	14 (4)	18 (6)	30 (8)	19 (4)	18 (6)	228 (58)	5 (1)	5 (2)	3 (0)	7 (5)	9 (3)	10 (2)	8 (1)	7 (2)	8 (3)	9 (4)	7 (1)	8 (4)	86 (28)
救急診療科	130 (6)	185 (5)	147 (12)	188 (10)	158 (9)	154 (6)	70 (24)	56 (20)	115 (21)	201 (12)	40 (11)	44 (16)	1,488 (152)	4 (2)	4 (2)	6 (4)	11 (4)	9 (2)	0 (0)	18 (10)	11 (8)	7 (3)	8 (5)	8 (3)	6 (5)	92 (48)
内科 (計)	367 (74)	416 (55)	359 (74)	389 (67)	399 (74)	379 (51)	276 (90)	257 (80)	352 (93)	467 (87)	273 (80)	278 (81)	4,212 (906)	123 (40)	97 (32)	92 (30)	106 (35)	121 (39)	99 (26)	118 (47)	102 (38)	110 (38)	114 (44)	109 (39)	104 (43)	1,295 (451)
神経科・精神科	7 (2)	7 (0)	6 (1)	10 (3)	9 (1)	9 (4)	11 (2)	6 (2)	7 (1)	8 (0)	13 (2)	7 (0)	100 (18)	3 (1)	2 (0)	0 (0)	5 (2)	3 (0)	2 (2)	3 (0)	1 (1)	1 (0)	4 (0)	4 (1)	1 (0)	29 (7)
小児科	7 (1)	13 (0)	14 (1)	11 (0)	12 (0)	16 (1)	15 (0)	17 (1)	18 (1)	24 (2)	11 (0)	20 (1)	178 (8)	5 (0)	12 (0)	8 (1)	5 (0)	7 (0)	8 (1)	9 (0)	12 (1)	11 (1)	14 (1)	7 (0)	14 (0)	112 (5)
消化器・一般外科	23 (5)	32 (7)	28 (5)	23 (4)	21 (3)	17 (6)	20 (2)	28 (6)	18 (2)	32 (4)	18 (2)	35 (4)	295 (50)	16 (4)	19 (5)	19 (5)	13 (3)	17 (3)	13 (6)	14 (2)	17 (3)	12 (2)	7 (1)	11 (2)	18 (4)	176 (40)
乳腺外科	4 (2)	1 (0)	3 (1)	10 (0)	3 (0)	4 (1)	7 (1)	2 (0)	16 (1)	10 (0)	3 (1)	2 (0)	65 (7)	3 (1)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	5 (1)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	23 (4)
外科 (計)	27 (7)	33 (7)	31 (6)	33 (4)	24 (3)	21 (7)	27 (3)	30 (6)	34 (3)	42 (4)	21 (3)	37 (4)	360 (57)	19 (5)	20 (5)	21 (5)	15 (3)	19 (3)	14 (6)	16 (3)	18 (3)	17 (3)	10 (1)	12 (3)	18 (4)	199 (44)
整形外科	13 (4)	21 (5)	18 (3)	14 (6)	13 (5)	12 (4)	23 (9)	23 (5)	22 (4)	25 (6)	21 (9)	31 (8)	236 (68)	8 (4)	9 (1)	13 (2)	9 (3)	3 (2)	7 (2)	13 (7)	13 (3)	13 (1)	13 (5)	10 (4)	14 (5)	125 (39)
皮膚科	96 (0)	72 (2)	91 (1)	82 (1)	83 (0)	53 (0)	33 (2)	38 (1)	25 (0)	20 (0)	27 (0)	25 (0)	645 (7)	16 (0)	19 (2)	17 (1)	21 (0)	13 (0)	14 (0)	16 (1)	15 (0)	11 (0)	12 (0)	17 (0)	12 (0)	183 (4)
泌尿器科	11 (1)	16 (5)	14 (1)	9 (2)	10 (3)	15 (4)	12 (2)	6 (3)	16 (5)	13 (4)	13 (2)	20 (2)	155 (34)	8 (0)	6 (4)	4 (0)	6 (2)	5 (2)	9 (4)	7 (2)	3 (3)	4 (2)	6 (4)	2 (1)	4 (2)	64 (26)
産婦人科	231 (0)	198 (2)	208 (1)	213 (1)	218 (3)	175 (2)	199 (6)	173 (2)	201 (6)	217 (2)	185 (3)	224 (2)	2,442 (30)	49 (0)	45 (1)	61 (0)	52 (1)	55 (2)	48 (1)	53 (3)	43 (2)	41 (2)	43 (1)	34 (2)	51 (2)	575 (17)
眼 科	3 (2)	4 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	5 (1)	3 (0)	3 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	28 (5)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	16 (1)
耳鼻咽喉科	14 (3)	26 (3)	19 (2)	11 (1)	19 (2)	13 (2)	20 (3)	17 (2)	14 (2)	22 (0)	20 (3)	18 (0)	213 (23)	8 (1)	7 (3)	11 (2)	3 (0)	9 (2)	9 (1)	11 (1)	9 (1)	7 (1)	6 (0)	10 (2)	6 (0)	96 (14)
放射線科	0 (0)	9 (0)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (0)	0 (0)												
麻酔・緩和医療	1 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	24 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	23 (0)
合 計	777 (94)	817 (79)	773 (90)	778 (85)	792 (91)	702 (76)	621 (117)	572 (103)	692 (116)	840 (105)	585 (102)	665 (98)	8,614 (1,156)	242 (52)	220 (48)	229 (41)	228 (46)	238 (50)	216 (43)	250 (64)	219 (52)	217 (48)	224 (56)	206 (52)	228 (56)	2,717 (608)

(注) 各欄下段の () の数値は救急車で搬送された患者数

[医事G、救急当直委員会]

4 病床稼働率

	定床	定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均	前年度累計平均
3階	60床	1日平均患者数 稼働率	44人 73.3%	37人 61.7%	45人 75.0%	45人 75.0%	46人 76.7%	45人 75.0%	46人 76.7%	43人 71.7%	44人 73.3%	42人 70.0%	49人 81.7%	45人 75.0%	44人 73.3%	44人 73.3%
4階(西)	60	1日平均患者数 稼働率	47 78.3	45 75.0	47 78.3	50 83.3	45 75.0	42 70.0	45 75.0	49 81.7	45 75.0	44 73.3	47 78.3	45 75.0	46 76.7	46 76.7
4階(東)	51	1日平均患者数 稼働率	44 86.3	42 82.4	43 84.3	45 88.2	42 82.4	42 82.4	44 86.3	46 90.2	44 86.3	42 82.4	47 92.2	44 86.3	44 86.3	41 80.4
5階(西)	44	1日平均患者数 稼働率	40 90.9	41 93.2	40 90.9	42 95.5	41 93.2	39 88.6	40 90.9	40 90.9	41 93.2	40 90.9	42 95.5	40 90.9	40 90.9	39 88.6
5階(東)	49	1日平均患者数 稼働率	39 79.6	41 83.7	42 85.7	42 85.7	43 87.8	39 79.6	42 85.7	41 83.7	43 87.8	42 85.7	42 85.7	42 85.7	41 83.7	40 81.6
6階(西)	42 [*]	1日平均患者数 稼働率	40 95.2	40 95.2	38 90.5	40 95.2	38 90.5	35 83.3	38 90.5	40 95.2	38 90.5	39 92.9	40 90.9	39 88.6	39 91.5	37 88.1
6階(東)	27	1日平均患者数 稼働率	22 81.5	16 59.3	23 85.2	20 74.1	23 85.2	19 70.4	23 85.2	20 74.1	21 77.8	19 70.4	21 77.8	24 88.9	21 77.8	21 77.8
小計	333	1日平均患者数 稼働率	276 82.9	262 78.7	278 83.5	284 85.3	277 83.2	261 78.4	279 83.8	278 83.5	276 82.9	267 80.2	288 86.0	280 83.6	275 82.7	268 80.5
小児	10 [*]	1日平均患者数 稼働率	1 10.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	1 12.5	3 37.5	2 17.5	3 30.0
未熟児	7	1日平均患者数 稼働率	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3
計	350	1日平均患者数 稼働率	276 78.9	263 75.1	279 79.7	284 81.1	279 79.7	264 75.4	282 80.6	281 80.3	278 79.4	270 77.1	290 82.9	284 81.1	277 79.1	273 78.0

※：H26.2.3から 6階(西) 42床→44床へ、小児 10床→8床へ 病床数変更

[医 事 G]

5 病院従業員数（平成25年4月1日時点）

		職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート	
			男	女					
医 師	25年度	64名	51名	13名	9名	11名	3名	39名	
	24年度	59	48	11	10	11	4	39	
薬 劑 師	25年度	12	6	6				3	
	24年度	12	5	7				3	
放射線技師	25年度	12	9	3					
	24年度	12	9	3					
臨床検査技師	25年度	22	9	13				3	
	24年度	23	9	14				2	
理学療法士	25年度	6	5	1				1	
	24年度	6	5	1				1	
作業療法士	25年度	1		1					
	24年度	1		1					
管理栄養士	25年度	1		1				2	
	24年度	1		1				2	
ケースワーカー	25年度	3		3				1	
	24年度	2		2					
視能訓練士・眼鏡士	25年度	2		2				3	
	24年度	2		2				4	
臨床心理士	25年度	0						1	
	24年度	0						1	
臨床工学技士	25年度	3	1	2					
	24年度	3	1	2					
看護師	25年度	273	6	267			1	15	
	24年度	281	6	275				14	
准看護師	25年度	0						9	
	24年度	1		1				10	
看護助手	25年度	0						17	
	24年度	0						19	
事務員	25年度	36	21	15				12	
	24年度	36	21	15				12	
一般技能労務職	25年度	4	2	2			1	4	
	24年度	4	2	2			1	4	
小 計	25年度	439	110	329	9	11	5	110	
	24年度	443	106	337	10	11	5	111	
ニッセイ予防医学センター	医 師	25年度	6	4	2				
		24年度	5	3	2				1
	放射線技師	25年度	5	2	3				8
		24年度	5	2	3				8
	臨床検査技師	25年度	2		2				9
		24年度	2		2				1
	臨床心理士	25年度	0						1
		24年度	0						1
	看 護 師	25年度	6		6				6
		24年度	6		6				7
事 務 員	25年度	7	5	2				7	
	24年度	6	4	2				6	
一般技能労務職	25年度	1	1						
	24年度	1	1						
小 計	25年度	27	12	15	0	0	0	31	
	24年度	25	10	15	0	0	0	24	
訪問看護	看護師	25年度	4		4				6
		24年度	4		4				7
小 計	看護師	25年度	4		4	0	0	0	6
		24年度	4		4				7
総 計	25年度	471	123	348	9	11	5	147	
	24年度	473	117	356	10	11	5	142	

[総 務 G]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。
平成18年退院患者から厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10(2003年版)準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。
平成18年退院患者から日本病院会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計をした。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計をした。

	算定式	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	269	273	272	269	280	283	278	278	273	277
病床稼働率(%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	76.9	78.0	77.7	76.9	80.0	80.9	79.4	79.4	78.0	79.1
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	15.3	14.7	14.6	14.1	14.2	13.2	13.3	13.3	12.3	12.6
実退院患者数(人)		5,900	6,359	6,350	6,486	6,740	7,283	7,119	7,396	7,490	7,435
転科数		176	249	158	140	176	206	164	209	208	192
総退院患者数		6,076	6,608	6,508	6,626	6,916	7,489	7,283	7,605	7,698	7,627
実退院患者平均在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	16.2	15.7	15.6	15.0	15.5	14.1	14.6	13.4	13.2	13.5
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.5	2.9	2.7	2.4	2.5	2.2	2.1	2.1	2.3	2.8
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.2	2.6	2.4	2.2	2.4	2.2	1.8	1.9	2.1	2.4
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	5.5	11.4	8.9	7.2	5.8	9.6	6.6	7.7	8.1	9.3
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	0.04	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	18.9	20.6	23.4	19.1	17.0	18.8	16.8	16.6	14.2	16.6
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	-	-	0.2	-	-	-	-
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	32.4	34.9	35.9	38.0	40.5	40.8	38.8	38.1	39.3	41.5
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	36.1	38.1	43.1	43.6	41.1	36.1	40.2	44.9	45.2	47.3

② 診療科別・月別・退院患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検	
総数	計	7,435	610	598	627	651	667	563	668	626	619	542	578	686	205	19
	男	3,106	233	253	253	275	303	225	278	262	251	231	255	287	112	11
	女	4,329	377	345	374	376	364	338	390	364	368	311	323	399	93	8
循環器内科	計	706	68	54	55	50	70	52	55	64	59	46	68	65	23	2
	男	451	34	34	36	36	41	27	37	41	35	30	49	51	11	1
	女	255	34	20	19	14	29	25	18	23	24	16	19	14	12	1
消化器内科	計	1,066	86	93	86	99	96	78	99	85	82	74	86	102	29	1
	男	622	58	54	49	55	62	46	53	52	47	43	47	56	19	-
	女	444	28	39	37	44	34	32	46	33	35	31	39	46	10	1
総合内科	計	751	54	64	72	62	77	59	62	64	57	58	63	59	44	4
	男	362	19	31	40	30	45	29	24	28	32	27	29	28	22	3
	女	389	35	33	32	32	32	30	38	36	25	31	34	31	22	1
血液・化学療法内科	計	276	17	26	21	31	23	18	23	14	30	25	17	31	34	9
	男	168	9	16	11	18	19	6	15	11	18	15	13	17	22	5
	女	108	8	10	10	13	4	12	8	3	12	10	4	14	12	4
神経内科	計	141	7	5	9	15	10	16	12	11	18	15	9	14	5	1
	男	66	3	3	3	6	4	10	5	7	7	7	4	7	1	-
	女	75	4	2	6	9	6	6	7	4	11	8	5	7	4	1
救急診療科	計	89	3	3	6	10	11	2	14	10	8	7	7	8	4	1
	男	43	1	2	1	3	7	-	7	5	4	5	5	3	2	1
	女	46	2	1	5	7	4	2	7	5	4	2	2	5	2	-
神経科・精神科	計	126	11	11	12	9	12	10	10	10	9	13	8	11	-	-
	男	35	2	3	3	2	3	2	4	1	1	6	3	5	-	-
	女	91	9	8	9	7	9	8	6	9	8	7	5	6	-	-
小児科	計	156	7	10	12	5	12	19	13	18	11	15	16	18	-	-
	男	91	4	4	5	2	4	12	7	13	8	11	10	11	-	-
	女	65	3	6	7	3	8	7	6	5	3	4	6	7	-	-
消化器・一般外科	計	455	35	39	40	39	38	46	37	41	38	25	36	41	26	1
	男	255	20	25	22	23	25	24	21	23	22	15	14	21	17	1
	女	200	15	14	18	16	13	22	16	18	16	10	22	20	9	-
乳腺外科	計	162	9	9	15	14	18	11	16	12	21	13	16	8	6	-
	男	5	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
	女	157	9	9	13	13	18	11	15	12	21	13	15	8	6	-
整形外科	計	268	22	25	21	19	21	17	25	18	27	22	15	36	3	-
	男	96	8	10	8	4	10	8	8	5	9	5	10	11	-	-
	女	172	14	15	13	15	11	9	17	13	18	17	5	25	3	-
皮膚科	計	273	23	22	27	28	27	20	22	26	13	16	29	20	1	-
	男	152	12	10	15	19	17	9	9	14	7	13	15	12	-	-
	女	121	11	12	12	9	10	11	13	12	6	3	14	8	1	-
泌尿器科	計	328	32	37	22	31	23	28	37	25	26	25	17	25	16	-
	男	273	26	28	14	28	20	26	31	18	23	23	14	22	12	-
	女	55	6	9	8	3	3	2	6	7	3	2	3	3	4	-
産婦人科	計	1,613	159	117	136	138	147	123	139	130	136	125	109	154	4	-
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,613	159	117	136	138	147	123	139	130	136	125	109	154	4	-
眼科	計	601	45	52	58	62	43	28	63	67	46	36	47	54	-	-
	男	243	18	19	23	23	19	10	30	28	19	14	20	20	-	-
	女	358	27	33	35	39	24	18	33	39	27	22	27	34	-	-
耳鼻咽喉科	計	375	28	26	29	33	35	32	35	25	34	25	34	39	8	-
	男	226	18	12	18	22	26	15	25	13	16	17	21	23	5	-
	女	149	10	14	11	11	9	17	10	12	18	8	13	16	3	-
麻酔・緩和医療科	計	49	4	5	6	6	4	4	6	6	4	2	1	1	2	-
	男	18	1	2	3	3	1	1	1	3	3	-	-	-	1	-
	女	31	3	3	3	3	3	3	5	3	1	2	1	1	1	-

③ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数（2013年度）

コード	国際分類大項目分類	総数	循環器内科	消化器内科	総合内科	血液・腫瘍内科	神経科・精神科	小児科	外科	乳腺外科	整形外科	神経内科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	救急診療科
	総数	計7,630 男3,208 女4,422	733 465 268	1,089 636 453	809 391 418	292 179 113	129 35 94	156 91 65	469 266 203	163 6 157	276 100 176	147 69 78	281 156 125	335 276 59	1,618 0 1,618	606 244 362	378 229 149	52 19 33	97 46 51
I	感染症及び寄生虫症	計290 男155 女135	9 3 6	57 31 26	52 37 15	4 3 1	0 0 0	20 9 11	4 2 2	0 0 0	0 0 0	4 3 0	118 60 58	1 1 0	5 0 5	0 0 0	3 1 2	0 0 0	13 5 8
II	新生物（悪性新生物）	計1,892 男766 女1,126	9 7 2	263 177 86	105 56 49	200 127 73	0 0 0	0 0 0	178 111 67	147 6 141	7 1 6	4 1 3	24 13 11	205 174 31	602 0 602	0 0 0	116 83 33	32 10 22	0 0 0
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計76 男31 女45	6 1 5	3 2 1	13 3 10	43 20 23	0 0 0	4 3 1	2 1 1	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	3 1 2
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	計272 男135 女137	25 15 10	4 1 3	205 102 103	2 1 1	1 1 0	2 2 0	1 1 0	0 0 0	1 1 0	6 2 4	1 0 1	3 1 2	2 0 2	0 0 0	5 2 3	0 0 0	14 6 8
V	精神及び行動の障害	計133 男33 女100	3 0 3	2 0 2	4 0 4	0 0 0	118 30 88	0 0 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	2 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 0	0 0 0	2 0 2
VI	神経系の疾患	計134 男84 女50	22 15 7	0 0 0	6 3 3	2 2 0	6 1 5	0 0 0	0 0 0	0 0 0	3 2 1	53 28 25	0 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0	36 28 8	2 2 0	3 3 0
VII	眼及び付属器の疾患	計601 男241 女360	0 0 0	0 0 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	599 239 360	0 0 0	0 0 0	0 0 0
VIII	耳及び乳様突起の疾患	計94 男35 女59	6 1 5	2 0 2	6 1 5	0 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	8 1 7	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 32 37	69 0 0	0 0 2
IX	循環器系の疾患	計640 男413 女227	518 354 164	21 14 7	30 15 15	2 0 2	2 1 1	0 3 6	9 0 0	0 0 0	0 0 0	47 23 24	3 0 3	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	7 3 4
X	呼吸器系の疾患	計520 男293 女227	58 33 25	17 11 6	191 93 98	24 20 4	0 0 0	67 41 26	6 5 1	1 0 1	1 0 1	8 2 6	1 1 0	2 2 0	0 0 0	0 0 0	124 72 52	0 0 0	20 13 7
XI	消化器系の疾患	計667 男372 女295	33 15 18	326 203 123	54 25 29	5 2 3	2 2 0	4 110 95	205 0 0	0 0 0	1 0 1	4 2 2	0 0 0	2 0 2	11 0 11	0 0 0	4 0 4	2 2 0	14 9 5
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	計160 男98 女62	2 1 1	3 2 1	14 7 7	1 1 0	0 0 0	6 4 2	1 0 1	0 0 0	1 1 0	0 0 0	124 78 46	2 2 0	0 0 0	0 0 0	4 1 3	0 0 0	2 1 1
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	計214 男82 女132	4 3 1	4 2 2	59 20 39	1 0 1	0 0 0	3 1 2	0 0 0	0 0 0	132 50 82	5 3 2	3 1 2	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	3 2 1	0 0 0
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	計452 男80 女372	12 4 8	7 1 6	26 9 17	4 2 2	0 0 0	4 3 1	3 2 0	0 0 0	0 0 0	1 1 0	0 0 0	77 56 21	310 0 310	0 0 0	0 0 0	0 0 0	8 2 6
XV	妊娠、分娩及び産じょく	計667 男0 女667	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	667 0 667	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
XVI	周産期に発生した病態	計37 男19 女18	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	37 19 18	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	計6 男4 女2	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2 2 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	3 1 2	0 0 0	0 0 0
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計113 男50 女63	15 6 9	3 3 0	27 12 15	2 1 1	0 0 0	6 5 1	10 7 3	14 0 14	0 0 0	4 1 3	2 1 1	3 3 0	1 0 1	0 0 0	9 6 3	13 3 10	4 2 2
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	計177 男63 女114	7 3 4	3 1 2	9 4 5	2 0 2	0 0 0	0 4 0	5 4 1	0 0 0	120 42 78	0 0 0	4 1 3	1 0 1	10 0 10	7 5 2	4 2 2	0 0 0	5 1 4
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計485 男254 女231	4 4 0	374 188 186	7 3 4	0 0 0	0 0 0	0 0 0	44 19 25	1 0 1	9 3 6	0 0 0	0 0 0	38 37 1	8 0 8	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
XXII	特殊目的用コード	計0 男0 女0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0

④ 悪性新生物統計

	算定式	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成24年度 (2012.4 -2013.3)	平成25年度 (2013.4 -2014.3)
悪性新生物： 比率 (%)	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	15.5	17.2	15.7	15.3	14.0	15.3	14.7	16.1	14.8	14.7	16.0
悪性新生物： 新発患者数		352	413	432	445	454	503	548	553	465	445	423

○ 2013年4月～2014年3月—初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	53	6
乳房の悪性新生物	50	15
結腸の悪性新生物	30	29
気管支および肺の悪性新生物	26	4
膀胱の悪性新生物	23	14
胃の悪性新生物	22	38
びまん性非ホジキンリンパ腫	19	13
子宮頸部の悪性新生物	18	23
子宮頸部の上皮内癌	17	49
肝および肝内胆管の悪性新生物	13	23

⑤ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼科患者数	退院患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率	
総数	死亡 剖検	205 (20)	14 (2)	17 (3)	16 (1)	11 (-)	15 (1)	19 (2)	16 (1)	13 (1)	23 (2)	17 (1)	21 (2)	23 (4)	23 (2)	7435 -	2.8	2.4	9.8
循環器内科	死亡 剖検	23 (2)	3 (1)	1 (-)	2 (-)	1 (-)	5 (1)	3 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	- (-)	4 (-)	706 -	3.3	3.3	8.7
消化器内科	死亡 剖検	29 (1)	4 (-)	2 (-)	3 (-)	2 (-)	1 (-)	4 (-)	- (-)	1 (-)	4 (-)	4 (1)	2 (-)	2 (-)	- (-)	1066 -	2.7	2.5	3.4
総合内科	死亡 剖検	44 (4)	4 (1)	2 (-)	4 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	4 (-)	5 (1)	3 (1)	4 (-)	8 (1)	6 (-)	4 (-)	751 -	5.9	5.1	9.1
血液・ 化学療法内科	死亡 剖検	34 (10)	1 (-)	7 (3)	3 (1)	2 (-)	2 (-)	3 (1)	3 (1)	- (-)	2 (-)	2 (-)	2 (-)	7 (3)	3 (2)	276 -	12.3	10.9	26.5
神経内科	死亡 剖検	5 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)	- (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	141 -	3.5	3.5	20
救急診療科	死亡 剖検	4 (1)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (1)	1 (-)	- (-)	89 -	4.5	2.2	25							
神経科・ 精神科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	126 -	-	-	-
小児科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	156 -	-	-	-
消化器・ 一般外科	死亡 剖検	26 (1)	- (-)	4 (-)	2 (-)	2 (-)	4 (-)	4 (-)	3 (-)	1 (-)	5 (1)	- (-)	- (-)	1 (-)	5 (-)	455 -	5.7	4.8	3.8
乳腺外科	死亡 剖検	6 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	3 (-)	1 (-)	- (-)	162 -	3.7	3.1	-
整形外科	死亡 剖検	3 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	3 (-)	268 -	1.1	1.1	-
皮膚科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	273 -	0.4	0.4	-
泌尿器科	死亡 剖検	16 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	3 (-)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	1 (-)	328 -	4.9	4	-
産婦人科	死亡 剖検	4 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	1613 -	0.2	0.2	-
眼科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	601 -	-	-	-
耳鼻咽喉科	死亡 剖検	8 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	375 -	2.1	1.6	-
麻酔科・ 緩和医療科	死亡 剖検	2 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	49 -	4.1	2	-								

(注) 1. 粗死亡率 $\frac{\text{死亡患者数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

2. 精死亡率 $\frac{\text{入院48時間以後死亡数}}{\text{退院患者総数}} \times 100$

医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計																		
循環器内科	14,037	50,190	64,227	13,858	45,273	59,131	12,417	44,489	56,906	13,462	41,314	54,776	12,231	53,385	65,616	11,565	40,674	52,239	12,809	41,924	54,733
消化器内科	11,427	31,440	42,867	11,491	32,312	43,803	10,509	29,484	39,993	11,791	30,146	41,937	11,556	30,966	42,522	11,584	22,730	34,314	11,464	26,761	38,225
総合内科	29,768	46,542	76,310	32,851	55,042	87,893	29,718	50,172	79,890	34,270	55,628	89,898	32,755	45,170	77,925	33,171	42,574	75,745	34,759	42,502	77,261
血液・ 化学療法内科	21,915	40,915	62,830	22,878	49,584	72,462	17,109	44,502	61,611	23,858	52,989	76,847	21,022	50,918	71,940	23,042	41,966	65,008	22,042	39,325	61,367
神経内科	3,872	9,261	13,133	3,724	8,576	12,300	4,106	10,250	14,356	3,646	13,966	17,612	3,366	17,626	20,992	3,251	17,112	20,363	3,620	17,099	20,719
救急診療科	2,348	560	2,908	3,133	2,773	5,906	2,437	2,834	5,271	2,728	4,156	6,884	2,934	3,604	6,538	3,004	282	3,286	3,360	4,798	8,158
内科(計)	83,367	178,908	262,275	87,935	193,560	281,495	76,296	181,731	258,027	89,755	198,199	287,954	83,864	201,669	285,533	85,617	165,338	250,955	88,054	172,409	260,463
神経科・ 精神科	6,867	13,410	20,277	6,908	12,927	19,835	6,567	11,428	17,995	7,345	13,966	21,311	6,315	13,704	20,019	6,642	12,294	18,936	6,837	14,721	21,558
小児科	7,456	1,839	9,295	7,322	2,616	9,938	6,477	2,721	9,198	6,837	971	7,808	6,735	2,289	9,024	5,840	3,830	9,670	7,509	3,410	10,919
消化器・ 一般外科	9,887	26,717	36,604	10,558	25,235	35,793	8,813	28,953	37,766	9,214	35,756	44,970	10,733	29,658	40,391	10,214	38,633	48,847	11,866	37,609	49,475
乳腺外科	13,487	6,137	19,624	13,732	5,806	19,538	11,737	10,544	22,281	13,736	7,560	21,296	13,259	11,477	24,736	11,134	8,932	20,066	13,344	10,058	23,402
外科(計)	23,374	32,854	56,228	24,290	31,041	55,331	20,550	39,497	60,047	22,950	43,316	66,266	23,992	41,135	65,127	21,348	47,565	68,913	25,210	47,667	72,877
整形外科	6,670	31,180	37,850	6,629	33,115	39,744	5,739	38,126	43,865	6,618	38,629	45,247	5,898	32,591	38,489	6,015	29,216	35,231	6,168	40,324	46,492
皮膚科	24,000	12,663	36,663	21,223	12,600	33,823	19,077	12,913	31,990	25,881	10,555	36,436	21,552	10,089	31,641	17,707	11,255	28,962	26,177	11,566	37,743
泌尿器科	14,192	16,677	30,869	14,351	18,091	32,442	13,232	15,931	29,163	14,313	20,132	34,445	13,869	15,264	29,133	14,262	16,950	31,212	14,528	19,272	33,800
産婦人科	22,365	85,275	107,640	22,447	67,793	90,240	20,084	83,063	103,147	24,196	77,942	102,138	21,139	90,163	111,302	18,987	64,072	83,059	22,689	88,247	110,936
眼科	7,052	17,829	24,881	7,288	16,551	23,839	6,757	15,468	22,225	6,868	18,099	24,967	7,544	10,278	17,822	6,706	9,567	16,273	7,150	19,693	26,843
耳鼻咽喉科	7,259	21,822	29,081	7,102	19,204	26,306	6,853	15,124	21,977	7,911	16,582	24,493	6,697	13,890	20,587	6,309	16,856	23,165	7,055	19,638	26,693
放射線科	5,383	1,462	6,845	5,762	1,489	7,251	6,554	977	7,531	6,042	2,115	8,157	6,208	1,356	7,564	5,710	919	6,629	7,588	1,705	9,293
麻酔・ 緩和医療科	993	2,370	3,363	382	2,429	2,811	784	2,906	3,690	636	3,076	3,712	582	3,071	3,653	527	2,359	2,886	552	2,688	3,240
その他	25	0	25	33	0	33	35	0	35	36	0	36	23	0	23	26	0	26	28	0	28
計	209,003	416,288	625,291	211,669	411,418	623,087	189,003	419,886	608,889	219,387	443,583	662,970	204,417	435,500	639,917	195,694	380,222	575,916	219,546	441,342	660,888
百分率	33%	67%	100%	34%	66%	100%	31%	69%	100%	33%	67%	100%	32%	68%	100%	34%	66%	100%	33%	67%	100%

(注) H25.4 循環器内科・神経内科を循環器内科と神経内科に分離

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累計	対前年 差額
外来	入院	計	外来	入院	計														
12,039	50,862	62,901	11,205	49,027	60,232	12,692	45,238	57,930	11,873	48,222	60,095	10,826	50,722	61,548	149,014	561,321	710,335	1,000,344	▲ 290,009
11,080	29,536	40,616	9,475	26,465	35,940	11,038	29,252	40,290	10,459	24,787	35,246	11,294	36,541	47,835	133,167	350,420	483,587	514,157	▲ 30,570
32,734	43,673	76,407	31,435	39,177	70,612	32,571	53,137	85,708	30,982	47,914	78,896	31,710	48,143	79,853	386,722	569,675	956,397	821,002	135,395
19,648	38,005	57,653	19,189	46,036	65,225	19,893	42,791	62,684	21,399	47,115	68,514	20,396	47,773	68,169	252,390	541,918	794,308	692,038	102,270
3,148	15,082	18,230	3,175	15,174	18,349	3,610	14,110	17,720	3,242	13,195	16,437	4,435	15,240	19,675	43,195	166,692	209,887	0	209,887
3,277	3,310	6,587	2,743	3,455	6,198	3,837	4,562	8,399	3,060	3,959	7,019	3,035	3,357	6,392	35,894	37,650	73,544	28,920	44,624
81,926	180,468	262,394	77,222	179,334	256,556	83,641	189,090	272,731	81,015	185,192	266,207	81,696	201,776	283,472	1,000,382	2,227,676	3,228,058	3,056,461	171,597
6,952	12,146	19,098	6,628	15,036	21,664	6,403	15,661	22,064	6,095	12,890	18,985	6,417	14,689	21,106	79,975	162,872	242,847	200,871	41,976
7,076	3,326	10,402	6,952	3,178	10,130	6,676	3,712	10,388	7,372	3,484	10,856	7,647	5,067	12,714	83,897	36,443	120,340	156,519	▲ 36,179
10,786	31,495	42,281	10,461	29,791	40,252	10,860	20,525	31,385	9,559	17,656	27,215	9,286	28,313	37,599	122,235	350,341	472,576	565,882	▲ 93,306
12,992	6,840	19,832	12,755	11,379	24,134	11,613	13,150	24,763	11,620	8,132	19,752	10,962	4,767	15,729	150,373	104,781	255,154	224,098	31,056
23,778	38,335	62,113	23,216	41,170	64,386	22,473	33,675	56,148	21,179	25,788	46,967	20,248	33,080	53,328	272,608	455,122	727,730	789,981	▲ 62,251
5,482	38,875	44,357	5,131	38,778	43,909	5,645	29,295	34,940	5,019	31,284	36,303	5,744	34,626	40,370	70,759	416,040	486,799	542,151	▲ 55,352
20,086	11,987	32,073	20,011	8,176	28,187	23,321	8,776	32,097	17,168	12,811	29,979	20,933	9,705	30,638	257,136	133,096	390,232	359,254	30,978
12,845	15,680	28,525	13,831	12,558	26,389	14,160	16,344	30,504	12,736	15,747	28,483	12,802	13,484	26,286	165,120	196,131	361,251	418,902	▲ 57,651
18,775	74,666	93,441	18,167	79,124	97,291	20,042	76,170	96,212	20,319	73,725	94,044	21,259	91,348	112,607	250,469	951,589	1,202,058	1,161,190	40,868
7,149	21,597	28,746	6,174	11,962	18,136	5,930	11,732	17,662	7,079	17,182	24,261	7,457	14,353	21,810	83,153	184,311	267,464	254,211	13,253
6,685	19,819	26,504	6,540	23,728	30,268	6,910	16,460	23,370	7,090	18,391	25,481	8,215	20,269	28,484	84,625	221,782	306,407	302,732	3,675
5,133	1,724	6,857	5,879	1,741	7,620	6,303	1,660	7,963	7,168	1,962	9,130	6,890	1,073	7,963	74,620	18,183	92,803	72,423	20,380
423	3,037	3,460	494	2,325	2,819	489	1,557	2,046	647	1,748	2,395	373	2,040	2,413	6,881	29,606	36,487	31,791	4,696
36	0	36	32	0	32	53	0	53	28	0	28	32	0	32	386	0	386	226	160
196,343	421,662	618,005	190,277	417,107	607,384	202,043	404,134	606,177	192,916	400,204	593,120	199,712	441,509	641,221	2,430,010	5,032,855	7,462,865	7,346,710	116,155
32%	68%	100%	31%	69%	100%	33%	67%	100%	33%	67%	100%	31%	69%	100%	33%	67%	100%		

[医 事 G]

2 医療行為別医療収入(外来)

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
初診料	4,659	4,935	4,392	4,791	4,727	4,182	4,549	3,993	3,882	4,238	4,221	4,406	52,974	54,610	▲ 1,636
再診料	10,159	10,548	9,685	10,748	10,150	9,740	10,716	9,770	10,070	9,880	9,483	10,081	121,031	123,287	▲ 2,256
指導料	17,377	17,681	16,353	18,954	17,984	16,578	19,173	18,750	17,871	19,002	17,150	18,901	215,774	184,771	31,003
投薬料	4,352	4,556	2,331	3,392	2,723	3,175	3,911	3,300	1,796	2,407	2,751	2,475	37,169	43,453	▲ 6,284
注射料	49,989	47,575	38,733	50,908	45,198	44,377	50,561	41,221	42,839	47,171	42,380	42,589	543,539	528,036	15,503
処置料	3,352	3,455	3,257	3,624	3,432	3,122	3,930	3,649	3,288	3,418	3,409	3,256	41,192	38,504	2,688
手術料	4,866	4,359	3,975	3,822	4,135	4,379	4,238	5,042	4,360	3,314	3,835	3,843	50,169	58,041	▲ 7,872
検査料	65,629	68,014	61,956	69,946	65,892	63,258	69,803	62,196	61,183	65,630	63,150	64,752	781,408	761,197	20,211
画像診断料	25,885	27,091	26,061	28,518	27,159	24,984	27,065	25,434	22,334	24,227	24,111	25,338	308,207	314,195	▲ 5,988
理学療法料	384	425	360	345	229	229	286	286	276	234	239	268	3,562	3,651	▲ 89
処方箋料	7,353	7,602	6,895	7,557	7,239	6,947	7,582	6,949	7,214	7,248	6,770	7,187	86,543	88,982	▲ 2,439
自費	8,948	8,802	8,086	9,603	8,425	7,820	9,294	9,231	7,171	7,402	7,663	8,619	101,885	97,909	3,976
その他	6,050	6,626	6,919	7,179	7,125	6,903	8,438	6,523	7,992	7,871	7,755	7,998	86,556	73,788	12,768
計	209,003	211,669	189,003	219,387	204,417	195,694	219,546	196,343	190,277	202,043	192,916	199,712	2,430,010	2,370,424	59,586

[医 事 G]

3 医療行為別医療収入(入院)

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
診察料	226	250	197	186	269	230	269	268	235	275	197	268	2,871	3,174	▲ 303
指導料	4,637	4,811	4,599	5,124	4,678	4,443	4,808	4,084	4,440	4,057	4,094	4,912	54,686	56,516	▲ 1,830
投薬料	5,743	5,353	5,606	4,687	4,481	5,805	5,483	5,454	5,694	4,962	4,981	5,741	63,990	68,762	▲ 4,772
注射料	7,384	7,001	7,646	6,175	7,131	5,658	8,188	11,227	10,495	11,130	6,586	7,936	96,559	67,966	28,593
処置料	540	2,142	986	2,117	1,655	1,391	1,354	2,429	1,391	1,746	1,623	1,093	18,466	23,489	▲ 5,023
手術料	94,877	93,198	97,735	100,528	98,115	79,084	104,002	98,669	91,004	82,831	90,703	98,245	1,128,992	1,159,767	▲ 30,775
検査料	7,616	7,627	6,771	7,657	7,025	6,204	7,799	7,905	7,843	7,523	7,272	8,138	89,380	91,500	▲ 2,120
画像診断料	1,482	1,252	1,303	1,498	1,221	1,124	1,588	1,475	1,541	1,807	1,560	1,358	17,208	17,657	▲ 449
理学療法料	5,291	5,552	5,750	5,794	5,257	4,663	5,532	4,864	4,691	4,711	4,787	5,014	61,906	60,998	908
入院料	49,352	46,960	49,592	49,250	48,637	47,039	57,815	54,570	57,579	59,526	49,266	58,851	628,437	593,879	34,558
DPC入院料	194,880	196,394	192,915	211,054	210,738	185,187	195,014	186,033	187,270	180,597	187,839	203,136	2,331,058	2,298,600	32,458
食事療養費	13,131	12,431	13,353	14,020	13,684	12,390	13,620	13,464	13,638	13,306	13,389	13,661	160,085	158,774	1,311
自費	28,997	26,379	31,911	32,739	30,717	25,501	33,524	28,946	28,983	29,449	25,417	31,569	354,132	349,989	4,143
その他	2,132	2,070	1,521	2,755	1,893	1,503	2,346	2,272	2,305	2,214	2,489	1,587	25,084	25,214	▲ 130
計	416,288	411,418	419,886	443,583	435,500	380,222	441,342	421,662	417,107	404,134	400,204	441,509	5,032,855	4,976,286	56,569

[医 事 G]

1 診療部門

循環器内科

スタッフ 部長：岡部太一
 副部長：中川 厚
 医 長：徳岡孝仁
 専攻医：田中 克（循環器）（9月～）、吉川秀人
 非常勤医師：濱田偉文、長谷川浩司



1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症等の診断・治療を行っている。

虚血性心疾患に対しては平成24年7月より冠動脈320列CTが導入され、被曝量の軽減や心房細動などの不整脈症例においても検査可能となり、冠動脈疾患の検出に役立っている。平成25年度も昨年同様、冠動脈造影検査500件以上、経皮的冠動脈形成術（PCI）も120件前後の治療を行い、良好な成績を上げている。また急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても可能なかぎり積極的に対応している。

また閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術（PTA）や、下肢静脈インターベンション、下大静脈フィルター挿入、ペースメーカー植え込み術も例年通り行っている。

カテーテルによる不整脈治療（カテーテル心筋症焼灼術）については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学 循環器内科の協力のもと対応している。

平成24年12月より経食道心臓超音波検査を導入、これまでも感染性心内膜炎の診断や各種弁膜症の手術適応決定及び心原性脳塞栓症の原因となる左房内血栓の有無の評価に威力を発揮している。

虚血性心疾患を中心に診療を行っているが、常勤の循環器専門医2名の指導のもと循環器一般診療についても幅広く診療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）
 - ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜日全日、水曜・木曜 午前、尚、緊急時には適時対応）
 - ・薬剤負荷心筋シンチ（金曜 午前）
 - ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜・水曜・木曜 午後）
 - ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
 - ・経食道心臓超音波検査（適時、原則1泊入院で）
 - ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

3) 検査実績

- 心臓カテーテル検査件数：431件
- PCI（冠動脈インターベンション治療）：141件（内、緊急23件）
- PTA（経皮的動脈形成術）：9件
- IVR（その他のカテーテル治療）：5件
- ペースメーカー治療：12件
- ABL（カテーテル電気焼灼術）/EPS：3件
- 心臓超音波検査：2546件
- 頸動脈超音波検査：778件
- 下肢動脈超音波検査：70件
- 下肢静脈超音波検査：255件
- 腎動脈超音波検査：24件
- トレッドミル負荷心電図：238件
- アデノシン負荷心筋シンチ：38件
- ホルター心電図検査：258件
- ABI/PWV検査：725件

4. 認定医・専門医など

- 日本内科学会認定内科医 3名
- 日本内科学会総合内科専門医 1名
- 循環器専門医 2名
- 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医 1名

5. 論文・学会発表など

- 論文発表
- 1. 岡部太一, 吉川秀人, 徳岡孝仁, 中川 厚, 濱田偉文, 吉龍正雄：経時的に房室ブロックを来した大動脈弁感染性心内膜炎の1例. 日生医誌, 41：97-102, 2013
 - 2. 中川 厚, 吉川秀人, 田中克, 徳岡孝仁, 岡部太一：光干渉断層イメージング（Optical Coherence Tomography：OTC）にて冠攣縮を観察し得た安静時狭心症の1例. 日生医誌, 41：103-108, 2013.
- 学会・研究会発表
- 1. 岡部太一：肺高血圧症が残存し、治療に難渋したASD術後の1例. 第7回OSAKA PH Clinical Conference, 4月, 2013, 大阪.
 - 2. 中川 厚：冠動脈起始異常を伴う不安定狭心症の1例. 第11回OCC（大阪冠疾患研究会）/K-VIC case Conference in Spring 2013. 6月, 2013, 大阪.
 - 3. 吉川秀人, 岡部太一, 田中 克, 徳岡孝仁, 中川 厚, 濱田偉文：多彩な合併症を呈した三尖弁感染性心内膜炎の1例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 12月, 2013, 大阪.

4. 岡部太一：深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症－診断と治療、予防について－。第九回北摂心エコー研究会，6月，2013，大阪。
5. 田中 克，藤阪智弘，谷川 淳，森田英晃，鈴木秀治，宗宮浩一，星賀正明，石坂信和，小西隼人，大門雅広，勝間田敬弘：Dダイマー高値・好酸球数増多を認め，MDCTで偶発的にStanford A型大動脈解離を認めた1例。第115回日本循環器学会近畿地方会，6月，2013，京都。
6. 渡辺智彦，田中克，横山 亮，武田義弘，森田英晃，宗宮浩一，星賀正明，石坂信和：リパロキサパン内服下でのPCI施行後に広範囲な出血をきたした1例。第115回日本循環器学会近畿地方会，6月，2013，京都。
7. 濱田 偉文：冠動脈疾患への脂質異常の関与。大阪市西部地区病診連携懇話会，6月，2013，大阪。
8. 横井一範：劇症型の心不全を呈したコアグラゼ陰性ブドウ球菌（CNS）感染性心内膜炎の1例。第41回北摂循環器セミナー，6月，2013，大阪。
9. 田中 克：繰り返すインフルエンザ心筋炎の1例。第39回東京循環器病研究会，7月，2013，東京。
10. 吉川秀人：多彩な合併症を呈した三尖弁感染性心内膜炎の1例。第46回北摂臨床懇話会，7月，2013，大阪。
11. 田中 克，谷川 淳，田崎龍之介，藤阪智弘，柴田兼作，武田義弘，森田英晃，宗宮浩一，星賀正明，石坂信和：特発性冠動脈解離による急性心筋梗塞で診断に至った線維筋異型性の1例。第61回日本心臓病学会学術集会，9月，2013，熊本。
12. 岡部太一：深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症－診断と治療、予防について－。大阪市中央区東医師会学術講演会，9月，2013，大阪。
13. 吉川秀人：診断に苦慮した若年性高血圧の1例。第1回JMN循環器臨床懇話会，10月，2013，大阪。
14. 中川 厚：回旋枝起始異常を伴った狭心症のPCI。第1回JMN循環器臨床懇話会。10月，2013，大阪。
15. 岡部太一：深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症－診断と治療、予防について－。西区医師会学術講演会，10月，2013，大阪。
16. 田中 克：インフルエンザウイルスによる反復性急性劇症型心筋炎の1例。北大阪心臓イメージングサークル，11月，2013，大阪。
17. 中川 厚：脂質異常治療の最新の話。ニッセイクリニカルカンファレンス，11月，2013，大阪。
18. 吉川秀人：多彩な合併症を呈した三尖弁感染性心内膜炎の1例。ニッセイクリニカルカンファレンス，11月，2013，大阪。
19. 岡部太一：高血圧は沈黙の殺人者，でもヒトはどうして血圧は上がるのか？第52回大阪医療薬学研究会。11月，2013，大阪。
20. 横井一範，岡部太一，吉川秀人，徳岡孝仁，中川 厚，濱田偉文：短期間に房室ブロックを呈し治療に難渋した大動脈弁位重症感染性心内膜炎の1例。第115回日本循環器学会近畿地方会，11月，2013，大阪。
21. 李 剛至，平井佳宏，田中 克，木澤 隼，藤田修一，谷川 淳，森田英晃，宗宮浩一，星賀正明，石坂信和：右室流出路狭窄を伴う非閉塞性肥大型心筋症の1例。第115回日本循環器学会近畿地方会，11月，2013，大阪。

22. 岡部太一：生活習慣病は沈黙の殺人者－高血圧と高脂血症・肥満と喫煙。西区高齢者生きがいと健康づくり推進会議主催健康講座，12月，2013，大阪。
23. 岡部太一：深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症－診断と治療、予防について－。大阪市中
24. 田中 克：不整脈とその対応。ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー，1月，2014，大阪
25. 中川 厚：ステント治療後に追加拡張して冠動脈穿孔を生じ，Graft MasterにてBail outし得た狭心症の1例。Nobori Forcus Group Meeting，1月，2014，大阪。

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	岡部		岡部		岡部	岡部 (予約)		交代 (初診)	岡部	中川厚 (予約)
2診	中川厚						濱田	中川厚		吉川 (初診)
3診		徳岡			長谷川 ハースメーカー	吉川			徳岡	田中

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		心臓カテーテル	心臓カテーテル	心臓カテーテル	心臓カテーテル
午後				部長回診 カンファレンス	

表3 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予
頸動脈エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予
ホルター心電図	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予			
末梢血管エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		
トレッドミル		○ 診				○ 診		○ 診		
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診	○ 診		○ 診			
負荷心筋シンチ										○ 診

●：紹介状・予約が必要 ○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	23,411	24,495	22,375	21,156	13,965 ※
入院	15,220	20,804	19,359	16,420	11,229 ※

※H25.4～循環器内科・神経内科から神経内科を分離新設

表5 2013年4月～2014年4月入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症又は慢性虚血性心疾患	268	7
心不全	97	29
肺炎/(誤嚥性肺炎13件を含める)	39	23
アテローム粥状硬化症	26	13
心房細動および粗動	20	14
睡眠障害	14	3
2型糖尿病	13	43
本態性高血圧症	12	20
急性心筋梗塞	10	24
感染症と推定される下痢および胃腸炎	9	11
心筋症	9	20
発作性頻拍症	9	9
その他の不整脈	9	11
静脈炎および血栓性静脈炎	9	18

スタッフ 部長：中村秀次
 担当部長：湯川雅彦（消化器内視鏡センター長兼任）
 副部長：居平典久、村本 理
 専攻医：三上高司、伊藤 翔



1. 診療活動

4月から新たに専攻医1名が加わり6名の常勤スタッフで、消化器疾患を主とした診療を行っている。消化器癌の早期発見に主眼を置き、外科・放射線科との連携のもと早期診断・早期治療に努めている。上部内視鏡検査では、拡大内視鏡、色素内視鏡を積極的に用いて診断精度の向上をはかっている。大腸内視鏡検査においては、軸保持短縮法による挿入法を用いて苦痛の軽減に努め、診断法としてはピットパターン診断を取り入れて、高い診断精度を目指している。また、小腸病変に対してカプセル内視鏡を導入した。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術を行っている。膵・胆管疾患に対しては、内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。膵癌、胆管癌に対しては、TS-1、Gemcitabineを中心とした化学療法を行い、また進行胃癌に対しても積極的に全身化学療法を行った。肝疾患に対しては、病診連携を通じて慢性肝炎の抗ウイルス治療を積極的に行っている。B型慢性肝炎に対してエンテカビル投与を行い、C型慢性肝炎に対してPegIFN・Ribavirin・Telaprevir 3者併用療法に加え、冬からはPegIFN・Ribavirin・Simeprevir 3者併用療法を導入し、7例に実施した。肝硬変に対しては、肝発癌抑制を目指したIFN治療、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法を積極的に行い、肝硬変患者のQOLおよび生存率の向上を目指している。肝細胞癌に対しては、放射線科医との緊密な連携の元、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法(TACE)等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例、TACE無効例、血管侵襲例、転移例に対しては、分子標的治療薬を積極的に導入し、今年度は4例に対してSorafenibの治療を行った。肝細胞癌に対して、局所療法、分子標的治療、全身化学療法、肝動注療法による集学的治療を行いQOLおよび生存率の向上を目指している。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール (表1)
- 2) 検査スケジュール (表2)

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績 (表3)
- 2) 入院診療実績 (表3、4)

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	3名
日本内科学会総合内科専門医	2名
日本消化器病学会認定専門医	4名
日本消化器内視鏡学会専門医	2名
日本肝臓学会認定肝臓専門医	2名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. Murai J, Soga S, Saito H, Otsuki M, Kitada T, Saisho Y, Nakamura H, Kasayama S, Koga M: Study on the mechanism causing elevation of serum CA19-9 levels in diabetic patients. *Endocr J*, 60 : 885-891, 2013.
2. Takashima T, Enomoto H, Ninomiya T, Kim SR, Okushin H, Sugano M, Imoto S, Yano Y, Ooka T, Seo Y, Kasugai H, Muramatsu A, Jomura H, Shimomura S, Shindo M, Nakamura H, Aizawa N, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S: Hepatitis C virus relapse was suppressed by long-term self-injection of low-dose interferon in patients with chronic hepatitis C after pegylated interferon plus ribavirin treatment. *Hepato Res*, 44 : 597-607, 2013.
3. Enomoto H, Aizawa N, Nakamura H, Sakai Y, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Aoki T, Yuri Y, Yoh K, Hashimoto K, Ishii A, Takashima T, Iwata K, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S: An increased ratio of glycated albumin to HbA1c is associated with the degree of liver fibrosis in hepatitis B virus-positive patients. *Gastroenterol Res Pract*, 2014 : 351396.
4. Hayashi S, Takeuchi M, Hatsuda K, Ogata K, Kurata M, Nakayama T, Ohishi Y, Nakamura H: The impact of nutrition and glucose intolerance on the development of tuberculosis in Japan. *Int J Tuberc Lung Dis*, 18 : 84-88, 2014.

- 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周二, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次: ヘモグロビン濃度はインスリン抵抗性と関連する-人間ドック受診者における横断研究-. 日本人間ドック学会誌, 28: 524-529, 2013.
- 篠田和子, 大黒慶子, 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周二, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次: 高輝度膈の臨床的意義に関する検討-メタボリックシンドローム, インスリン抵抗性, 血清アマラーゼおよび血清エラスターゼ I, 膵内分泌機能との関連について-. 日本人間ドック学会誌, 28: 635-640, 2013.

学会・研究会発表

- 中村秀次: 潰瘍性大腸炎の治療戦略. 第81回 なにわ Doctor's Network, 6月, 2013, 大阪.
- 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 三上高司, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるHbA1c(NGSP)を用いたGlycated albumin/HbA1c ratioの肝予備能の指標としての有用性. 第49回日本肝臓学会総会, 6月, 2013, 東京.
- 榎本平之, 中村秀次, 今西宏安, 斉藤正紀, 岩田恵典, 会澤信弘, 高嶋智之, 楊 和典, 長谷川国大, 石井昭生, 坂井良行, 岩田一也, 池田直人, 田中弘教, 飯島尋子, 西口修平: Hepatoma-derived growth factorの発現抑制による肝癌増殖抑制効果: Sorafenibとの関係を含めての検討. 第49回日本肝臓学会総会, 6月, 2013, 東京.
- 中村秀次, 村本 理, 稲次洋平, 三上高司, 湯川雅彦: 肝硬変患者におけるGlycated albumin/HbA1c ratioと血清アルブミン値およびBTRとの関連性. 第17回日本肝臓学会大会, 10月, 2013, 東京.
- 榎本平之, 中村秀次, 西口修平: 肝癌症例におけるHepatoma-derived growth factor (HDGF)の血中濃度測定に関する検討. 第17回日本肝臓学会大会, 10月, 東京.
- 村本 理: 肝細胞癌の診断と治療. 西部大阪肝疾患病診連携会 市民公開講座, 11月, 2013, 大阪.
- 田中 智, 村本 理, 居平典久, 三上高司, 伊藤翔, 湯川雅彦, 中村秀次, 吉良俊彦, 道清勉: 肝内胆管癌術後3年目に肝不全をきたした一例. 大阪肝疾患クリニカルカンファレンスOLD-CC, 11月, 2013, 大阪.
- 三上高司, 居平典久, 村本 理, 伊藤 翔, 湯川雅彦, 中村秀次: 自己免疫性肝炎・原発性胆汁性肝硬変オーバーラップ症候群の1例. 内科病診連携クリニカルカンファレンス, 11月, 2013, 大阪.
- 居平典久, 村本 理, 中村秀次: 肝硬変患者におけるHbA1c ratio, Glycated albuminを用いたGHRおよびCLD-HbA1cの有用性. 第40回日本肝臓学会西部会, 12月, 2013, 岐阜.
- 村本 理: 当院におけるB型慢性肝炎治療の現状. 西部大阪肝疾患病診連携会, 2月, 2014, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
5診	居平		村本	伊藤	三上	村本	中村	中村	村本	回診
6診	湯川 (初診)	三上 (初診)	稲次		中村		湯川		居平	

表2 検査スケジュール

	月	火	水	木	金
午前		胃カメラ	胃カメラ		胃カメラ
午後	肝生検 大腸ファイバー	大腸ファイバー	造影超音波検査 大腸ファイバー	ERCP RFA 16:30 カンファレンス 抄読会	大腸ファイバー 13:30 回診

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	14,223	14,526	13,752	14,297	14,165
入院	5,916	7,595	6,552	9,024	7,924

表4 症例数 (2013年4月~3月)

(1) 入院患者の疾患 (上位のみ)

	疾患名	件数	平均在院日数
1	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	128	2
2	腸の憩室性疾患	77	3
3	肝および肝内胆管の悪性新生物	71	24
4	腸のその他の疾患	61	3
5	潰瘍性大腸炎	35	6
6	慢性ウイルス性肝炎	24	23
7	胆石症	21	15
8	アルコール性肝疾患	13	26
9	膵の悪性新生物	10	32
10	急性膵炎	10	13

(2) 内視鏡件数

	件数
上部消化管内視鏡検査	2,546
下部消化管内視鏡検査	1,075
内視鏡的治療	170
ERCP (EST)	73
食道静脈瘤結紮術 (EVL)	11

(3) 肝炎・肝癌の治療

	件数
C型慢性肝炎のIFN療法: PegIFN/Ribavirin療法 (Triple療法)	27 (7) *
B型慢性肝炎の抗ウイルス療法	71
肝癌の肝動脈化学塞栓療法 (TACE)	57
肝癌のラジオ波焼灼療法 (RFA)	7
肝癌に対する分子標的治療 (Sorafenib)	4

*: IFN単独 9名, PegIFN/Rib 11名. Telaprevir 2名, Simeprevir 5名.

(4) 膵・胆管癌の治療

	件数
進行膵癌・胆管癌に対する全身化学療法	2

総合内科

スタッフ 副院長兼部長：立花 功

担当部長：小瀬戸昌博(中央臨床検査部長兼任)

副部長：高橋 良(～8月)、田村慶朗(9月～)、森田真也

副医長：宇都佳彦

専攻医：北居宏美、早川友朗、新居卓朗

(兼任) 佐藤文三(名誉院長)、笠山宗正(院長)、三木俊治(救急診療科・臨床研修部)、住谷 哲(予防医学センター)、泉由紀子(予防医学センター)、鈴木真優美(予防医学センター)、仁科周平(救急診療科)



1. 診療内容

当科は内分泌・糖尿病、膠原病・リウマチ疾患を対象に診療を行ってきた。その内容は糖尿病の患者教育、経口薬やインスリンを初めとする注射薬による血糖コントロール、ケトアシトシスや糖尿病合併症治療、クッシング症候群や甲状腺機能異常など内分泌疾患の診断・治療、そしてSLE、強皮症、皮膚筋炎など膠原病の診断・治療、生物学的製剤による慢性関節リウマチ治療である。

H24年度までも肺炎など、一部呼吸器疾患の診療は行っていたが、H25年4月より立花、高橋の2名の呼吸器専門医が着任し、新たに肺がん、間質性肺炎、COPDなど呼吸器疾患の専門診療を開始し、12月に呼吸器学会施設認定を取得した。9月に高橋が退職し、代わって田村が呼吸器専門医として着任した。また肺がんの外來化学療法を開始した。

2. 診療体制

1) 外來診察スケジュール(表1)

内科外來6～11診と糖尿病センターの診察室で外來診療を行った。

2) 病棟体制(表2)

病床数は48、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医3名、常勤医3名で、研修医または専攻医が担当医、専攻医または常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール(表3)

X線透視下気管支鏡検査：放射線部(水曜日午後)

3. 診療実績

1) 外來診療実績(表4)

院外からの紹介患者数がH24年度573件からH25年度819件と増加し、外來患者延べ患者数もH24年度

に比べ1377名増加した。

2) 入院診療実績(表4、5)

呼吸器専門医や専攻医の増員に伴い、平成25年度は肺がんを初めとする呼吸器疾患を中心に入院患者が増加し、延べ人数はH24年度に比べ2851名増加した。

3) 検査実績

平成25年度は気管支鏡検査数が65件と前年度に比べ52件増加した。気管支鏡検査は全例短期の検査入院で施行している。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	12名
日本内科学会総合内科専門医	5名
日本内分泌学会専門医	4名
日本糖尿病学会専門医	3名
日本リウマチ学会専門医	3名(非常勤含む)
日本アレルギー学会専門医	2名(非常勤含む)
日本呼吸器学会専門医	3名
気管支鏡専門医	1名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. Shimoda T, Obase Y, Kishikawa R, Iwanaga T, Miyatake A, Kasayama S: The fractional exhaled nitric oxide and serum high sensitivity C-reactive protein levels in cough variant asthma and typical bronchial asthma. *Allergol Int*, 62: 251-257, 2013.
2. Kitamura T, Otsuki M, Tamada D, Tabuchi Y, Mukai K, Morita S, Kasayama S, Shimomura I, Koga M: Glycated albumin is set lower in relation to plasma glucose levels in patients with Cushing's syndrome. *Clin Chim Acta*, 424C: 164-167, 2013.

3. Kasayama S, Otsuki M, Tanemura M, Fujita K, Miyatake A : Association of subclinical hypothalamic-pituitary-adrenal axis suppression with bone loss in asthmatic patients taking inhaled corticosteroids. *Ann Allergy Asthma Immunol*, 111 : 229-231, 2013.
 4. Koga M, Suzuki S, Matsuo K, Tanahashi Y, Azuma H, Kasayama S : Calculation of HbA1c and glycated albumin from serially measured self-monitored blood glucose in patients with type 1 diabetes mellitus. *Clin Chim Acta*, 425 : 188-191, 2013.
 5. Hirata T, Saisho Y, Morimoto J, Kasayama S, Koga M, Maruyama T : The ratio of glycated albumin to HbA1c is correlated with diabetes duration according to decreases in insulin secretion in patients with autoimmune type 1 diabetes and type 2 diabetes. *J Genet Syndr Gene Ther*, 4 : 168, 2013.
 6. Morita S, Kasayama S, Deguchi R, Hirai K, Mukai M, Utsu Y, Sumitani S, Sato B, Koga M : Glycated albumin, rather than HbA1c, reflects diabetic retinopathy in patients with type 2 diabetes mellitus. *J Diabetes Metab*, 4 : 6, 2013.
 7. Sumitani S, Morita S, Deguchi R, Hirai K, Mukai K, Utsu Y, Miki S, Sato B, Nakamura H, Kasayama S : Improved β -cell function rather than increased insulin sensitivity is associated with reduction in hemoglobin A1c in newly diagnosed type 2 diabetic patients treated with metformin. *J. Diabetes Mellitus*, 4 : 44-49, 2014.
 8. Kurebayashi S, Motomura T, Goya K, Nakao M, Hashimoto K, Morimoto Y, Kitamura T, Fukuhara A, Sato B, Kasayama S, Shimomura I, Koga M, Otsuki M : Sitagliptin significantly decreases the ratio of glycated albumin to HbA1c in patients with type 2 diabetes mellitus. *J. Diabetes Metab*, 5 : 3, 2014.
 9. 笠山宗正 : Jemd27. むくみ+肥満+皮膚線条(副腎皮質機能亢進:Cushing症候群). あなたも名医!患者さんのむくみ、ちゃんと診ていますか?(松尾汎編), 116-122項, 日本医事新報社, 東京, 2013.
 10. 山元麻生, 出口令子, 藤本康介, 宇都佳彦, 森田真也, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 仁科拓也, 濱田偉文 : MIBG心筋シンチグラフィを用いて診断に至った純粋自律神経不全症の1例. *日生医誌*, 41 : 34-38, 2013.
 11. 豊田新一郎, 小瀬戸昌博, 宇都佳彦, 森田真也, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正 : 経過中に混合性自己免疫性溶血性貧血を発症し, その治療中に免疫性血小板減少性紫斑病を発症した全身性エリテマトーデスの1例. *日生医誌*, 41 : 39-42, 2013.
 12. 住谷 哲 : 海外文献紹介:Effect of Metformin Versus Glipizide on Cardiovascular Outcomes in Patients with Type 2 Diabetes and Coronary Artery Disease. *Diabetes Frontier*, 24 : 764-766, 2013.
- 学会・研究会発表
1. 佐藤文三 : 医療安全を目指して-日生病院での取り組み. 星唱会講演会, 4月, 2013, 兵庫.
 2. 鈴木真優美 : 勤労者の喫煙習慣および検診結果から見た慢性閉塞性肺疾患(COPD)と全身炎症. 第10回あわぎ産業医セミナー, 4月, 2013, 大阪.
 3. 住谷 哲, 出口暁子, 森田真也, 宇都佳彦, 出口令子, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史 : 未治療2型糖尿病患者における炭水化物摂取量はグリコアルブミン/HbA1c比と相関する. 第110回日本内科学会講演会, 4月, 2013, 東京.
 4. 出口令子, 森田真也, 山元麻生, 藤本康介, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 佐藤文三, 稲田 浩, 藤田敬之助, 笠山宗正 : 先天性副腎過形成(21水酸化酵素欠損症)患者の成人後の身長・体重に関連する因子の検討. 第86回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2013, 仙台.
 5. 住谷 哲, 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正 : 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性-HbA1c低下はインスリン感受性の改善よりも β 細胞機能の改善と関連する-. 第86回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2013, 仙台.
 6. 森田真也, 向井康祐, 出口令子, 佐藤文三, 福井辰成, 黒田昌男, 石河 淳, 中川雅史, 笠山宗正 : 副腎腫瘍の経過観察中に褐色細胞腫および形質細胞腫と診断しえた1例. 第86回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2013, 仙台.
 7. 向井康祐, 森田真也, 林 和彦, 出口令子, 平井孝一, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 北野昌彦 : ニューモシスチス肺炎を合併し術前にメチラポン投与を行ったクッシング病患者の下垂体腺腫摘出後のACTH-コルチゾールの推移. 第86回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2013, 仙台.
 8. 川崎貴裕, 加藤保宏, 福井 潤, 森田貴義, 小林久美子, 小瀬戸昌博, 藤原弘士 : 後腹膜・殿筋内・上腕筋内の動脈性出血をきたしたSLEの一例. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 4月, 2013, 京都.

9. 立花 功：COPD（慢性全身性炎症症候群）におけるテトラスパニンCD9の役割. 第53回日本呼吸器学会学術講演会, 4月, 2013, 東京.
10. 藤本康介, 清水 綾, 出口令子, 宇都佳彦, 森田真也, 鈴木真優美, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 小瀬戸昌博：間質性肺炎で発見された抗Synthetase症候群の1例. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 5月, 2013, 横浜.
11. 古賀正史, 村井 潤, 斎藤 博, 笠山宗正：網膜症を有する2型糖尿病患者のグリコアルブミン/HbA1c比は高値である. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
12. 平田 匠, 税所芳史, 森本二郎, 古賀正史, 笠山宗正, 丸山太郎：1型糖尿病・2型糖尿病の糖尿病罹病期間はともにGA/HbA1c比と正相関する. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
13. 森田真也, 藤本康介, 出口令子, 宇都佳彦, 住谷 哲, 三木俊治, 佐藤文三, 古賀正史, 笠山宗正：最近1年間のグリコアルブミンの平均値は糖尿病網膜症に独立して関連する因子である. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
14. 住谷 哲, 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史：初回治療2型糖尿病患者において高用量メトホルミン投与はグリコアルブミン/HbA1c比を低下させる（EMINENT Study：第3報）. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
15. 上田晋一郎, 中村裕子, 野崎秀一, 村井 潤, 斎藤 博, 笠山宗正, 古賀正史：2型糖尿病の経過中に劇症1型糖尿病様の発症様式を呈した例において発症時のHbA1cの上昇の程度はインスリン分泌能と相関する. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
16. 出口暁子, 角南ちえ子, 出口令子, 住谷 哲, 笠山宗正：持続皮下インスリン注入療法（CSII）導入後の食事指導における問題点. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
17. 出口令子, 山本慶子, 森田真也, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 中村秀次, 佐藤文三, 笠山宗正：Body mass indexは平均血小板容積（MPV）に独立して関連する因子である. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
18. 立花 功：閉塞性肺疾患とCOPD. 第51回ニッセイ医学セミナーUpdate, 5月, 2013, 大阪.
19. 豊田新一郎, 森田真也, 出口令子, 宇都佳彦, 高橋 良, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 立花 功, 佐藤文三, 笠山宗正：Hardy手術・定位放射線治療・トリロスタン内服により治療され20年の経過後に続発性副腎機能低下症をきたしたCushing病の一例. 第7回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス（OEMCC）, 6月, 2013, 大阪.
20. 新居卓朗, 高橋 良, 豊田新一郎, 仁科周平, 早川友朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 森田真也, 鈴木真優美, 小瀬戸昌博, 三木俊治, 笠山宗正, 立花 功：敗血症性肺塞栓・DICを呈した三尖弁感染性心内膜炎の1例. 第111回日本結核病学会近畿地方会・第81回日本呼吸器学会近畿地方会, 7月, 2013, 大阪.
21. 立花 功：呼吸生理とCOPDの診断・治療について. 第1回北大阪呼吸リハビリテーション講習会, 7月, 2013, 大阪.
22. 立花 功：ふえるCOPD：肺の慢性炎症. 第14回あわぎフォーラム, 7月, 2013, 大阪.
23. 立花 功：病院へ行こう－医療の果たす役割－ニッセイ夏休みこども医療体験2013, 8月, 2013, 大阪.
24. 立花 功：職場における呼吸器病診断のポイント. 第48回阪大第三内科関連産業医会, 8月, 2013, 大阪.
25. 早川友朗：認知症のある高齢1型糖尿病患者におけるCGMの使用経験. インスリン治療「ホップ・ステップ・ジャンプ」, 9月, 2013, 大阪.
26. 笠山宗正：こわい低ナトリウム血症－そのしくみと対策－. 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター医療安全研修会, 9月, 2013, 大阪.
27. 住谷 哲：クリニカルカンファレンス：症例呈示. あわぎ糖尿病 病診連携懇話会, 10月, 2013, 大阪.
28. 森田真也：クリニカルカンファレンス：症例呈示. あわぎ糖尿病 病診連携懇話会, 10月, 2013, 大阪.
29. 新居卓朗, 小瀬戸昌博, 仁科周平, 早川友朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 森田真也, 高橋 良, 住谷 哲, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正：前立腺癌, 高血圧症, 腹部大動脈瘤にて外来治療中, 突然の下腿浮腫が出現し紹介された88歳男性. 第49回OID カンファレンス, 10月, 2013, 大阪.
30. 北井宏美, 森田真也, 仁科周平, 新居卓朗, 早川友朗, 宇都佳彦, 高橋 良, 小瀬戸昌博, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正, 北野元裕：大腿骨頭すべり症を契機に診断された下垂体機能低下症の2例. 第14回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 10月, 2013, 京都.
31. 立花 功：胸部X線画像読影の進め方. 日本医師会生涯教育講座, 10月, 2013, 大阪.
32. 佐藤文三：高齢化社会と医療制度の動向. 大阪ロータリー講演会, 11月, 2013, 大阪.
33. 豊田新一郎：胃癌術後7年, 急速に進行したDIC・呼

吸苦の1例. 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス, 11月, 2013, 大阪.

34. 田村慶朗：呼吸器内科でよく使用されるクリティカルパスについて. 日生病院第9回クリティカルパス大会プログラム, 11月, 2013, 大阪.
35. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 北井宏美, 早川友朗, 新居卓朗, 仁科周平, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 立花 功, 笠山宗正：リラゲルチド投与により症状の改善が認められた冠攣縮性狭心症合併2型糖尿病の1例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2013, 京都.
36. 北井宏美, 森田真也, 平井孝一, 新居卓朗, 早川友朗, 宇都佳彦, 高橋 良, 稲次洋平, 居平典久, 立花 功, 佐藤文三, 笠山宗正：巨大胆嚢周囲膿瘍と胆嚢動脈瘤を合併した2型糖尿病の1例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2013, 京都.
37. 早川友朗, 森田真也, 新居卓朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 高橋 良, 小瀬戸昌博, 立花 功, 佐藤文三, 笠山宗正：強化インスリン療法から経口糖尿病薬への変更が血糖安定に有効だった2型糖尿病の一例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2013, 京都.
38. 村井 潤, 曾我純子, 斎藤 博, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史：糖尿病患者で血清CA19-9が高値をきたす機序および血清CA19-9高値例の対応. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2013, 京都.
39. 佐藤文三：故松本圭史先生を偲ぶ. 日本ステロイドホルモン学会学術総会, 11月, 2013, 大阪.
40. 佐藤文三：医師の倫理観と患者信頼度. 花野井中学校 特別講義, 12月, 2013, 大阪.
41. 佐藤文三：癌と向き合う. 大阪医専 特別講義, 12月, 2013, 大阪.
42. 仁科周平, 豊田新一郎, 高橋 良, 新居卓朗, 宇都佳彦, 森田真也, 田村慶朗, 小瀬戸昌博, 笠山宗正, 立花 功：急速にDIC・呼吸器症状が悪化したPTTMの1例. 第82回日本呼吸器学会；第112回日本結核病学会, 12月, 2013, 大阪.
43. 仁科周平, 森田真也, 新居卓朗, 早川卓朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 田村慶朗, 住谷 哲, 笠山宗正, 立花 功：家庭で食生活を送っているにも関わらず脚気に至った1例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 12月, 2013, 大阪.
44. 豊田新一郎, 森田真也, 新居卓朗, 早川友朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 田村慶朗, 立花 功, 佐藤文三, 笠山宗正：手術後再発に対して定位放射線治療とトリロスタンで管理したクッシング病患者における下垂体機能低下症発症の時間経過. 第24回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2月, 2014, 福岡.

45. 立花 功：呼吸生理とCOPDの診断・治療について. 第2回北大阪呼吸リハビリテーション講習会, 3月, 2014, 大阪.
46. 立花 功：慢性炎症でつながる糖尿病とCOPD. 第2回あわぎ糖尿病病診連携懇話会, 3月, 2014, 大阪.
47. 小瀬戸昌博：関節リウマチの話～関節の痛みが気になる方へ～ 第1回日本生命済生会（日生病院）市民健康セミナー, 3月, 2014, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
6診			田村 (初診)	北井 (初診)						回診
7診	笠山	宇都			吉田	小瀬戸 (初診)	宇都	田村		泉
10診	立花	森田	三木	新居	佐藤	佐藤	三木	早川	森田	鈴木
11診	小瀬戸	末村	佐藤	佐藤	立花 (初診)	立花	笠山	笠山	小瀬戸	
糖尿病			笠山		笠山			住谷		

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後		抄読会	気管支鏡検査	症例検討会	病棟回診

表3 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡						○ 診				

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	26,172	25,698	25,492	27,590	28,967
入院	13,301	10,521	11,329	12,352	15,203

表5 2013年3月～2014年3月一入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
2型糖尿病	113	19
呼吸器感染症（肺炎、誤嚥性肺炎など）	78	21
気管支および肺の悪性新生物	72	17
全身性結合組織疾患	24	17
間質性肺疾患	19	25
慢性閉塞性肺疾患	18	20
下垂体疾患（下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など）	15	6
慢性ウイルス肝炎	13	4
関節リウマチ	13	32
副腎障害	11	7

スタッフ 部長：中川雅史
副部長：川上 学
石河 純
医 長：加藤るり



1. 診療内容

急性白血病・慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。特に、再発・難治性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自己末梢血幹細胞移植は20年の実績、94例のべ101回の症例経験を有する。その他、悪性リンパ腫を疑われ、生検の結果上皮性と判明した原発不明癌、化学療法の効果が期待できるP-NETや胸腺腫・大腸癌などの悪性腫瘍に対しての化学療法も行い、腫瘍内科としての診療も並行して行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール (表1)

主として内科外来7・8診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や輸血などの診療も外来化学療法室や内科処置室において行われた。

2) 病棟体制

部長を含め3～4名の常勤医と、不定期ではあるが1名の研修医にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺・骨髄生検は、内科外来処置室および入院病床で行われ、顕微鏡所見はそれぞれの主治医や検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表3)

外来患者数はのべ6,355名、1日平均26名、紹介患者数は月平均20名とほぼ安定していた。また、外

来化学療法数は935件、1日平均3.8件と院内診療科中トップの実績であった。外来輸血施行数は、赤血球輸血が520単位、濃厚血小板輸血が1605単位、1週間平均ではそれぞれ10.5単位(約5件)、33単位(約3件)であり、入院期間の短縮と在宅での療養生活に大いに寄与した。

2) 入院診療実績 (表3、4)

H25年6月までは、部長以下3名の常勤医で入院診療に当たったが、7月より加藤医師の着任により入院患者数の増加を得、通年で9,843名、1日平均27名の実績であった。また、月平均の新入院患者数は23名、疾患の内訳としては、悪性リンパ腫が最も多く、1年間の新規診断悪性リンパ腫は40例に達した。また、自己末梢血幹細胞移植は5例に施行され、開設以来実績は94例に達した。

3) 検査実績

平成25年度中に、骨髄穿刺は入院外来併せて219件施行された。全例、当科医師によって検鏡による診断がなされた。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医	3名
日本内科学会総合内科専門医	1名
日本血液学会専門医	4名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. Kawakami M, Taniguchi K, Yoshihara S, Ishii S, Kaida K, Ikegame K, Okada M, Watanabe S, Nishida T, Hamada H, Nakagawa M, Ogawa H : Irreversible neurological defects in the lower extremities after haploidentical stem cell transplantation : possible association with nelarabine. Am j Hematol, Oct ; 88 (10)853-857, 2013.
2. 川上 学, 小川啓恭 : 血液疾患に伴う肺感染症とその対策 血液疾患に伴う合併症対策. 80-87頁, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2013.

3. 中川雅史：抗がん剤の基礎知識No1. メディカルレポートVol.15, NISSAY Webサイト, 2013.
4. 中川雅史：抗がん剤の基礎知識No2. メディカルレポートVol.16, NISSAY Webサイト, 2013.

学会・研究会発表

1. 豊田新一郎, 吉岡佐紀, 川上 学, 加藤るり, 石河純, 中川雅史：CD20陰性でdiffuse Large B-cell lymphomaとplasmablastic lymphomaの鑑別に難渋した一例. 第100回近畿血液地方会, 6月, 2013, 大阪.
2. Mitsui H, Kamae T, Kuyama J, Nakatani E, Fujii N, Sugawara H, Shibayama M, Shibano M, Azenishi Y, Nakagawa M, et al：Prognostic analysis of angioimmunoblastic T cell lymphoma (AILT) cases from OLSG registry. The 75th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 10月, 2013, Sapporo, Japan.
3. Kohara T, Shibayama H, Nakatani E, Takae H, Tsukaguti M, Tokumine Y, Uoshima N, Soima T, Hattori H, Nakagawa M, et al：SIL-2R at the diagnosis is an independent prognostic factor for FL (OSLG cohort analysis). The 75th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 10月, 2013, Sapporo, Japan.
4. Kawakami M, Ishiko J, Nkagawa M：Treatment result for elderly patients with acute myeloid leukemia in a single instition. The 75th Annual Meeting of the Japanese society of Hematology, 10月 2013, Sapporo, Japan.
5. 中川雅史, 血球減少：骨髓異形成症候群を中心に, 病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス ショートレクチャー, 11月, 2013, 大阪.
6. 藤倉航平, 石河 純, 加藤るり, 川上 学, 中川雅史：急激にpolyneuropathyが進行し, 呼吸筋麻痺により人工呼吸器管理を要した, 原発性マクログロブリン血症の一例. 第202回日本内科学会近畿地方会, 12月, 2013, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
7診			中川 (予約)						交代 (初診)	
8診	加藤	川上	石河	中川	中川	中川	川上	川上	中川	中川 (予約)

表2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週1回)
・抄読会	(月2回)
・血液標本検討会	(適宜)
・内科合同カンファレンス	(月1回)
・内科・地域合同症例検討会	(年1回)

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	6,639	6,766	6,772	6,365	6,355
入院	9,065	9,079	9,639	8,168	9,843

表4 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
悪性リンパ腫	82	40
骨髄性白血病	33	45
骨髄異形成症候群	29	21
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	26	29
肺炎	18	14
その他の無形成性貧血	14	27
紫斑病およびその他の出血性病態	13	47
リンパ性白血病	10	28
悪性免疫増殖性疾患	4	73
無顆粒球症	4	14

神 経 内 科

スタッフ 部長：浅野彰彦
副部長：仁科拓也
医 員：佐藤智彦（6月～）



1. 診療内容

神経内科部門は2013年4月より循環器・神経内科から分離独立した。当初は浅野部長と仁科副部長の2名体制であったが、6月より佐藤医員が加わって3名体制となった。

めまいや痺れといった身近な症状の相談から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応している。

脳梗塞後遺症や難病疾患の在宅療養においては、地域の先生や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応するように今後とも努力していく所存です。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

日勤帯のどの時間帯も神経内科医師が対応できるようにと考えているが、水曜午後のみ休診となっていた。新年度の早い時点で水曜午後の診療も開始する予定である。

2) 病棟体制

特に担当医は決めずにお互いをカバーしながら対応している。

3) 検査スケジュール

神経内科医師が担当する予約検査は特に定めていないが、必要な検査は中央臨床検査部と各病棟などと連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

循環器・神経内科より分離独立した初年度のため前年度の比較は出来ないが、3名体制となっからは順調に実績数を伸ばしている。

2) 入院診療実績（表2、3）

外来同様、循環器・神経内科より分離独立した初年度のため前年度の比較は出来ないが、3名体制となっからは順調に実績数を伸ばしている。

3) 検査実績

神経内科独自の実績として報告すべきものではありません。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の教育機関としての認定を受けている。
日本内科学会認定医 1名

日本内科学会総合内科専門医 1名
日本神経学会専門医 1名
日本循環器学会専門医 1名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. 仁科拓也：目で見えるトレーニング 第2週 内科系専門医試験のための臨床実地問題. 251-252項, 医学書院, 東京, 2013.

学会・研究会発表

1. 佐藤智彦, 仁科拓也, 浅野彰彦：経過中にCreutzfeldt-Jakob病を疑い, 鑑別に苦慮した一例. 日本神経学会第99回近畿地方会, 12月, 2013, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
佐藤	仁科	浅野	仁科	仁科		浅野 (初診)	佐藤	浅野	浅野

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	(23,411)	(24,495)	(22,375)	(21,156)	6,180※
入院	(15,220)	(20,804)	(19,359)	(16,420)	5,010※

※H25.4～ 神経内科を循環器内科・神経内科から分離新設

表3 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
脳梗塞	33	38
パーキンソン病	14	46
一過性脳虚血発作	13	27
前庭機能障害	8	18
レビー小体型認知症	6	62
てんかん	5	61
脱水症	3	47
肺炎、病原体不詳	4	32
2型糖尿病	2	26
続発性パーキンソン症候群	2	27
アルツハイマー病	2	15
自律神経系の障害	2	28
本態性高血圧症	2	17
心不全	2	36
脳血管疾患の続発・後遺症	2	61
喘息	2	21
その他の動脈瘤	2	9

救急診療科

スタッフ 部長：三木俊治
 部長代理：中川 厚(循環器・神経内科副部長兼任)
 宇都佳彦(総合内科兼任)
 専攻医：仁科周平



★吉川秀人 ★伊藤 翔 ★新居卓朗 (★内科専攻医)
 ●生長久仁子 ●永田彩織 ●藤田祐亮 ●横井一範 ●吉岡佐紀 ●藤倉航平
 (●初期研修医1年目)

1. 診療内容

内科初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、初期研修医のプライマリケア、内科2次救急に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムの一環となっている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール (表1)

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表2)

2) 入院診療実績 (表2)

4. 認定医・専門医など

日本内科学会総合内科専門医 2名
 日本循環器学会専門医 1名
 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1名
 日本内科学会認定内科医 3名
 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 1名

表1 外来診察スケジュール

月	火		水		木		金		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
伊藤	三木	仁科	三木	三木	仁科	新居	仁科	仁科	三木

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	—	—	2,309	2,274	3,525
入院	—	—	186	58	946

※H23.4 救急診療科 新設

スタッフ 部長：江川 功
副部長：高橋 励
医 長：木藤友実子



1. 診療内容

当科ではうつ病、パニック障害、適応障害などの一般的な加療のほか、身体表現性障害、全般性不安障害などの神経症圏の疾患を対象としているが、最近は時代を反映して認知症の患者の診察が増えている。また専門外来も一般診療時間内で行っており、慢性疲労症候群、睡眠障害等に対応している。外来の心理分野では、認知症スクリーニング、人格障害スクリーニング、うつ病の重症度評価などを行っている。また患者の希望に応じ一部症例ではカウンセリングも施行している。

入院はうつ病が中心であるが、神経症圏、てんかん、及び認知症や軽症の統合失調症の患者も入院を受け入れている。

院内の他科入院患者の診察依頼はせん妄、適応障害、身体化病態などへの対応が中心となっている。また今後も増加すると思われる緩和ケアや企業のメンタルヘルス等にも力をいれており、活動の幅は今後も広がっていくと思われる。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

精神科外来において2診体制で行っている。

時に診察日以外でも特別に3診で予約診療を行うこともあった。

2) 病棟体制

大体15～20人位が入院しており、基本的には外来主治医が入院中も主治医として対応することとしているが、一部例外もある。

3) 検査スケジュール（表2）

脳波検査、日中睡眠ポリグラフ検査（月～金）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来受診者数は1人1人の診察時間がそれなりにかかることもあり、現在の3人体制ではある程度新患は病診連携により紹介患者に絞っている。

2) 入院診療実績（表3、4）

総合病院での入院受け入れが減っていることも反映して、入院数は年々増加している。今後も少しずつ増加することが考えられる。

4. 認定医・専門医など

精神神経学会専門医 2名
精神保健指定医 1名
睡眠学会認定医 1名

5. 論文・学会発表など

学会・研究会発表

1. 高橋 励：講義「精神症状」. 大阪府立急性期・総合医療センター緩和ケア研修会, 7月, 2013, 大阪.
2. 高橋 励：「ストレスと身体表現の関係 -心身医学から脳科学へ」. ニッセイ=ニュー=クリエーション安全衛生委員会健康セミナー, 9月, 2013, 大阪.
3. 高橋 励：コメンテータ, 及び口演「てんかんと精神症状、精神疾患」. 北摂てんかんセミナー, 9月, 2013, 大阪.
4. 高橋 励：講義と演習「コミュニケーション」. 日生病院緩和ケア研修会, 9月, 2013, 大阪.
5. 高橋 励：「抗うつ薬の治療継続性」. 田辺三菱製薬社内講演会, 10月, 2013, 大阪.
6. 高橋 励：「Aripiprazoleの広域にわたる臨床効果の背景-神経ネットワークからの考察」. 大塚製薬社内講演会, 12月, 2013, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
1診	江川		高橋	高橋	江川	江川	江川	江川	高橋	
2診	高橋		木藤		高橋		木藤		木藤	木藤

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波	○ 診				○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	
心理テスト	○ 診	○ 診			○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	14,704	16,039	15,808	15,708	15,618
入院	5,537	5,481	5,306	5,049	6,661

表4 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
うつ病エピソード	61	53
不安障害	16	31
双極性感情障害	9	66
身体表現性障害	8	24
認知症	7	68
重度ストレスへの反応および適応障害	3	24
解離性 [転換性] 障害	3	43
神経症性障害	3	87
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	2	52
末梢神経系のその他の障害	2	72
持続性妄想性障害	2	41

小 児 科

スタッフ 部長：山根秀一
副部長：中西康詞（8月～）
非常勤：池原千衣子
非常勤：倭 和美（6月～）



1. 診療内容

当科では、感染症を中心とした一般小児科診療と、院内出生児の診療を行っている。呼吸管理等の集中治療の必要な児や小児循環器等の高度の専門性を要する患児の治療および、リスクの高い新生児の濃厚な治療は人員の関係もあり行えていない。各医師の専門性から、アレルギーや小児血液・腫瘍、小児内分泌の患児への対応もおこなっている。

平成25年度は当初、小児科常勤医の一時的な減員から、診療の縮小を余儀なくされたが、8月からは徐々に元の態勢へと復帰した。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

平成25年5月までは、小児科常勤医欠員のため外来のコマ数を減少して行った。6月からはコマ数を戻し、最終的には表1の通りとなった。

2) 病棟体制（表2）

病床数は一般病棟9床、新生児病棟7床である。常勤1名の間は、新生児の入院診療を中止した。また、一般病棟入院児の重症度を例年よりも低減し、病床自体の制限も行い、登録医の先生方にもご迷惑をおかけした。9月頃からは例年の通りとしたが、新生児診療に関しては例年よりも重症度が低い児についても、高次医療機関に紹介する傾向となっている。

3) 検査スケジュール（表3）

検査は一般診療の枠内で行っている。食物抗原負荷試験（水）、（木）、成長ホルモン分泌試験（木）等である。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来患者数は常勤医減の影響もあり、8,902名と前年から1,190名減となった。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院患者数は延べ780人と前年から延べ982人減と

なった。新生児の入院数は38件と前年の40件減であった。前述の通常勤医の減員の影響もあるが、当院における新生児管理の技量向上や、ワクチンの推進による小児疾患の軽症化の影響もあるかもしれない。

3) 検査実績

食物抗原負荷試験を15件行った。

4. 専門医・指導医など

日本小児科学会専門医 常勤1名、非常勤2名
日本アレルギー学会専門医（小児科） 常勤1名
血液専門医・小児血液がん暫定指導医 非常勤1名

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	中西	中西 (予約 乳幼児 健診)	山根	池原 (予約 予防 注射)	池原	山根 (予約 アレルギー)	山根	池原 (予約 アレルギー)	中西	倭 (予約 1ヶ月 健診)
	山根		倭		倭		倭		倭	

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前					
午後	入院カンファ	勉強会/ 入院カンファ	入院カンファ	入院カンファ	入院カンファ

表3 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
食物アレルギー 抗原負荷						○ 診				
成長ホルモン負荷								○ 診		

○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	12,371	10,470	11,067	10,092	8,902
入院	1,914	2,331	2,204	1,762	780

表5-1 2013年4月～2014年3月—小児科入院患者（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
急性細気管支炎	16	5
肺炎	20	4
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	6	4
喘息発作重積状態	6	4
けいれん（痙攣）、他に分類されないもの	5	4
インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	4	3
その他の細菌性腸管感染症	3	3
感染症と推定される下痢および胃腸炎	3	2
部位不明のウイルス感染症	3	5
結節性多発（性）動脈炎および関連病態	3	9
尿路系のその他の障害	3	5

表5-2 2013年4月～2014年3月—新生児入院患者

疾患名	件数	平均在院日数
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	16	4
胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害	6	7
新生児の呼吸窮（促）迫	3	6
新生児吸引症候群	3	9
妊娠期間短縮および低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	2	12
周産期に発生した間質性気腫および関連病態	1	7
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	1	1
周産期に特異的なその他の感染症	1	6
その他の新生児出血	1	4
多系統におよぶその他の明示された先天奇形症候群	1	5
脳のその他の先天奇形	1	6
その他の一過性新生児内分泌障害	1	10
胎児および新生児の溶血性疾患	1	9

スタッフ 部長：道清 勉
副部長：黄 泰平（～12月）
副部長：森田哲史
副医長：吉良俊彦



1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。頻度の多い疾患としては、胃癌、大腸癌などの悪性疾患、胆のう炎、虫垂炎、イレウスなどの急性腹症、胆石症や単径ヘルニアなどの良性疾患などである。その術式は、低侵襲治療として、腹腔鏡手術を積極的に導入しており、平成25年4月からは、早期胃癌には完全鏡視下の腹腔鏡下幽門側胃切除術を行っている。また、大腸癌に対しては、周囲への浸潤のない進行度であれば、原則として、腹腔鏡補助手術を行っている。虫垂炎や胆石症に対しても、腹腔鏡手術を第一選択として行っている。

手術以外には、緩和治療、化学療法も行っている。緩和診療科と協力して、大量胸水、腹水に対して、CART治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表のような予定で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

表2の通りである。

研修医1名と常勤医4名が病棟診療を担当した。緊急の業務は、外来診察の担当でない者、検査担当でない者、手術担当でない者が病棟代理として担当した。

3) 検査スケジュール（表3）

上部内視鏡検査：毎週月曜日、木曜日の午前
下部内視鏡検査：毎週月曜日、水曜日の午後

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来患者数は表4の通りである。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院患者数は表4の通りである。

手術症例の内訳は、全身麻酔211例、腰椎・硬膜外麻酔5例、局所麻酔12例であった。

主な悪性腫瘍手術は、胃癌20例、結腸癌20例（内10例が腹腔鏡手術）、直腸癌13例（内4例が腹腔鏡手術）、肝癌4例、であった。結腸癌の腹腔鏡補助手術が増加している。4月からは、早期胃癌に対して、完全鏡視下の腹腔鏡下幽門側胃切除術を6例に行った。

主な良性疾患手術は、胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋症が48例（内41例が腹腔鏡手術）、ソケイヘルニア43例、虫垂炎20例（内13例が腹腔鏡手術）、痔核5例であった。胆嚢の手術では、クリップなどの異物を遺残させない上質の腹腔鏡下胆嚢摘出術を可能な限り行っている。急性虫垂炎に対しても腹腔鏡手術の適応を増やし、低侵襲手術を一層発展させた。

3) 検査実績

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

緊急の腹部エコー以外、超音波検査は技師さんに依頼している。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医	4名
日本外科学会指導医	1名
日本消化器外科学会専門医	2名
日本消化器外科学会指導医	1名
日本消化器病学会専門医	1名
日本大腸肛門病学会専門医	1名

5. 論文・学会発表など

論文発表

- 吉良俊彦, 道清 勉, 横井一範, 森田哲史, 黄 泰平：
開腹併用下に腸切開せずに経肛門的に摘出し得た直腸内異物の1例. 日生医誌, 41:109-112, 2013.

学会・研究会発表

- 吉岡佐紀, 森田哲史, 吉良俊彦, 黄 泰平, 道清 勉：
化学療法後治癒切除できた膀胱浸潤小腸癌の1例. 第593回大阪外科集談会, 5月, 2013, 大阪.

2. 吉良俊彦, 藤川正博: 校正印刷従事者に発生した若年性胆管癌の一例. 第25回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 6月, 2013, 宇都宮.
3. 道清 勉: 完全鏡視下で行う腹腔鏡下胃癌手術. 第14回あわぎフォーラム, 7月, 2013, 大阪.
4. 横井一範, 吉良俊彦, 森田哲史, 黄 泰平, 道清 勉: 開腹併用下に腸切開せずに経肛門的に摘出し得た直腸内異物の1例. 第594回大阪外科集談会, 7月, 2013, 大阪.
5. 藤田祐亮, 吉良俊彦, 森田哲史, 黄 泰平, 道清 勉: 鼠径ヘルニア手術を契機に発見された腹膜偽粘液腫の一例. 第595回大阪外科集談会, 9月, 2013, 大阪.
6. 永田彩織, 道清 勉, 吉良俊彦, 森田哲史, 黄 泰平: 小腸間膜GISTの1例. 第596回大阪外科集談会, 11月, 2013, 大阪.
7. 藤倉航平, 吉良俊彦, 森田哲史, 道清 勉: 腸重積を起こした直腸癌に対し待機的手術を行った1例. 第597回大阪外科集談会, 1月, 2014, 大阪.
8. 生長久仁子, 森田哲史, 吉良俊彦, 道清 勉: 成人で発症した子宮内膜症を伴ったNuck管水腫の1例. 第598回大阪外科集談会, 3月, 2014, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	道清	道清 (予約)								
2診	黄	(内視鏡 検査)	(手術)	南	(交代)	道清	(回診)		(手術)	
3診	森田		交代		森田		吉良		交代	

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝術後回診	早朝術後回診	早朝術後回診		早朝術後回診
午後				部長回診	

表3 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
上部内視鏡	○ 紹・予						○ 紹・予			
下部内視鏡		○ 紹・予				○ 紹・予				

○: 当院診察が必要

表4 外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	7,030	6,284	5,763	5,088	4,729
入院	8,924	7,305	7,162	7,578	5,869

表5 2013年4月～2014年3月一入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
胆石症	44	12
結腸の悪性新生物	41	22
急性虫垂炎	41	10
胃の悪性新生物	35	20
鼠径ヘルニア	35	10
悪性新生物治療後の経過観察検査	32	1
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	18	2
消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	18	14
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	16	17
直腸の悪性新生物	21	16

結腸の悪性新生物

疾患名	件数	平均在院日数
S状結腸の悪性新生物	14	26
盲腸の悪性新生物	7	17
上行結腸の悪性新生物	7	22
横行結腸の悪性新生物	6	19
虫垂の悪性新生物	4	11
下行結腸の悪性新生物	3	34

直腸の悪性新生物

疾患名	件数	平均在院日数
直腸の悪性新生物	11	16
直腸S状結腸移行部の悪性新生物	10	16

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
副部長：橘高信義



1. 診療活動

1) 紹介

平成20年10月より開設致した。平成22年4月より大阪大学乳腺内分泌外科より医局員の派遣を得て、2名体制となる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

乳癌検診に関しては、マンモグラフィーと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に細胞診等を施行し1週間後には結果を出すシステムである。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の外来化学療法センターにて、術前・術後ともに通院での外来化学療法を行う。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応する。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し、必要に応じて再建術にも対応する。再建術は大阪大学形成外科医局の協力のもと医員を得て一期的同時再建を施行している。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検でより確実な診断を目指す。診断部門では微細な石灰化に対する診断としてマンモトーム生検も実施している。

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 統計

外来化学・分子標的療法は80～100例/月、超音波・マンモグラフィーは約160例/月、手術数は60例（うち一期的同時再建1例）、ステレオガイド下マンモトーム生検は12例/年。

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会認定医	2名
がん治療認定医	2名
日本消化器外科学会認定医	2名
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	
マンモグラフィ読影認定医	2名
日本外科学会専門医	2名
日本消化器病学会専門医	1名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. 西田幸弘：乳癌術後補助内分泌療法. 日生医誌, 41：1-9, 2013.

学会・研究会発表

1. 西田幸弘：乳がんの勉強会 ～内分泌療法を中心に～. 社内教育研修, 6月, 2013, 大阪.
2. 西田幸弘, 橘高信義, 松浦三月, 大島千春, 北口幸代：乳癌晩期再発症例の検討. 日本乳癌学会学術総会, 6月, 2013, 浜松.
3. 西田幸弘, 橘高信義：Life threateningな肺転移に対し内分泌療法のみでCRとなった乳癌の1例. 日本臨床腫瘍学会学術総会, 8月, 2013, 仙台.
4. 西田幸弘：HER2陽性乳癌を考える. HER2陽性乳癌を考える会, 8月, 2013, 大阪.
5. 西田幸弘：乳がん領域における骨粗鬆症. 社内講演会, 9月, 2013, 大阪.
6. 西田幸弘：乳がんの薬物治療. 社内勉強会, 9月, 2013, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
手術	手術	西田	西田	橋高	橋高 (検査・手術)	橋高	橋高	西田	西田

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	手術				
午後	手術		検査マンモトーム	回診 検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	3,383	3,961	4,333	4,573	4,766
入院	869	1,182	1,267	1,587	2,094

表4 2013年4月～2014年3月一入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
乳癌	137	14
乳腺微細石灰化症	14	3

整 形 外 科

スタッフ 部長：稲岡正裕
担当部長：松井 稔（リハビリテーション室長兼任）
医 長：友永真人
緒方正明



1. 診療内容

当科は脊椎外科・関節外科・外傷を3本柱として診療を行ってきた。脊椎外科では腰部脊柱管狭窄症・頸椎症性脊髄症に対して手術や外来での保存療法がおこなわれてきた。

関節外科では膝および股関節の関節症や関節リウマチに対して人工関節手術や外来での保存療法をおこなってきた。特に人工関節の進歩はめざましく、耐用性にすぐれたセラミックやクロスリンクポリエチレンなどを使用し長寿命が期待できる手術を行っている。また、最小侵襲手術などをとりいれ患者様の負担を最小限にしている。

外傷では高齢者の骨折が依然として増加しており、手術だけでなく圧迫骨折の入院加療にも対応してきた。ロコモティブシンドロームが世間に認知されつつあり、この領域の診療は今後も必要不可欠で力を入れていくべき分野と考えられる。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携して早期退院・早期社会復帰を目標に治療に当たっている。そのため手術患者に対しては手術前からリハビリテーションをおこなうだけでなく、術後もできるかぎり早期から集中して運動療法をおこなってきた。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は28、常勤医3名が担当し診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

脊髄造影（金曜日午後）

関節造影（木曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

スタッフが5名から4名に減少したこともあり、外来患者数は減少した。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院患者数も外来患者数と同様に減少したが、人工関節などのメジャーな手術数は増加した。

3) 検査実績

脊髄造影 52例

4. 認定医・専門医など

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医	1名
日本整形外科学会認定リウマチ医	1名
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医	2名
日本整形外科学会認定整形外科専門医	2名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. 稲岡正裕：特別支援学校教職員の腰痛の現状－10年間の調査の比較－. Journal of Spine Research, 4：1045-1050, 2013.

学会・研究会発表

1. 緒方正明：術後8日で母指屈曲障害を生じ再手術に至った橈骨遠位端骨折の1例. 第118回中部日本整形外科災害外科学会, 4月, 2013, 大阪.
2. 緒方正明, 稲岡正裕, 松井 稔, 友永真人：マイクロネイルを用いた手術を施行した橈骨遠位端骨折の2症例. 第48回大阪骨折研究会, 12月, 2013, 大阪.
3. 松井 稔：股関節外科学～人工股関節置換術について～. 第56回日ニッセイ医学セミナーUpdate, 9月, 2013, 大阪.
4. 松井 稔：人工股関節置換術の合併症対策. 第14回大阪港整形外科勉強会, 1月, 2014, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	稲岡 (初診・ 紹介)		松井 (初診)	特 診 関節外来 松井 (予約)	手術		稲岡 (再診)		松井 (再診)	特 診 脊椎外来 稲岡 (予約)
2診	緒方 (再診・ 初診)	手術	友永 (再診)	松井 (予約) 辻 (1・3火 予約)	交代 (初診)	手術	友永 (初診)	造影検査 (回診)	緒方 (初診)	造影検査
2診	交代		交代		交代		交代		交代	

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前					抄読会
午後				部長回診	術前カンファ

表3 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
脊髄造影										○
関節造影								○		

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	17,144	18,471	17,803	17,031	14,359
入院	10,638	9,998	9,502	10,041	9,009

表5 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
その他の脊椎障害	62	31
膝関節症	28	35
大腿骨骨折	26	40
肩および上腕の骨折	20	18
前腕の骨折	14	22
腰椎および骨盤の骨折	13	45
下腿の骨折、足首を含む	11	29
整形外科的経過観察ケア	9	5
股関節症	8	42
その他の変形性脊柱障害	8	29
背部痛	8	17
肋骨、胸骨および胸椎骨折	8	52
多部位の骨折	8	51

スタッフ 部長：東山真里
副部長：大川たをり
医 長：高橋玲子
専攻医：岡田みどり



1. 診療活動

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、尋常性白斑などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月12日の「皮膚の日」に患者対象の学習会を皮膚科医師と看護師で開催。スキンケア・熱傷・皮膚病と内臓疾患の関連などにつき講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）全身型紫外線照射装置（UVA、UVB、ナローバンドUVB）、エキシマライト*、凍結療法、表在超音波装置

2. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】月平均新患者数は10名で再診は延べ300名余り。(1) 1. 外用療法 2. 光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射－全身型、エキシマライト） 3. 内服療法（レチノイド、シクロスポリンA） 4. 生物学的製剤も導入。これらより個々の患者に最適な治療を選択 (2) 扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因につき精査。(3) 重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスチキヌマブなどの生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏功。入院、外来とも可能。(4) 乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。2013年より関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。(5) 療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。定期的に学習会も開催。【アトピー外来】重症例では光線療法やネオオーラル療法も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活

指導に力を入れている。【エキシマ外来】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。

【皮膚外科外来】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。

3. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

外来診察 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診察。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午後）、木（午前）、予約制。アトピー外来は木・金（午前）。

手術：水曜午前は局所麻酔、金曜午後は形成外科医の協力のもと全麻・腰麻を含む手術

2) 病棟体制

病棟担当医は専攻医1名、常勤医2名で、専攻医または常勤医が主治医となって診療を行った。新入院患者数は年間272名、1日平均10名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、蜂窩織炎、薬疹多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍、自己免疫性水疱症など

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。
表在エコー検査は随時。

4. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2013年の外来患者数は1日平均113名。紹介患者数45名/月。

年間手術件数197件（全身、腰椎、麻酔手術含む）

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 検査実績

皮膚生検数 350件/年

5. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 2名

6. 論文・学会発表など

論文発表

1. 東山真里：これ1冊でわかる皮膚科治療. 五十嵐敦之 他編, 凍結療法, 218-222, 分光堂, 東京, 2013.
2. 東山真里：生物製剤による乾癬治療. 日本医事新報, 4674：22-27, 日本医事新報社, 東京, 2013.
3. 東山真里：皮膚疾患患者・家族のためのより良いコミュニケーションのために「乾癬」. *Clinical Derma*, 15：9-10, 2013.
4. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山真里：陰圧閉鎖療法を用いて治療した糖尿病に合併した背部皮下膿瘍の1例. *皮膚の科学*, 12：97-102, 2013.
5. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山真里, 福本隆也, 浅田秀夫：成人に発症した蚊刺過敏症の1例. *皮膚の科学*, 12：117-121, 2013.
6. 林 美沙, 中川幸延, 遠山知子, 平野亜由子, 佐藤彩子, 東山真里, 瀬口道秀, 杉本麗子：インフリキシマブが奏効した乾癬に伴うぶどう膜炎の2例. *日皮会誌*, 123：1787-1796, 2013.

学会・研究会発表

1. 岡田みどり, 林 美沙, 高橋玲子, 東山真里：当院で経験した高齢者の帯状疱疹. 第29回日本臨床皮膚科医会総会, 4月, 2013, 名古屋.
2. 東山真里：新時代における乾癬治療－病病・病診連携の必要性和実際 生物学的製剤を視野に入れた乾癬治療－より良い病診連携のポイントとは？. 第29回日本臨床皮膚科医会総会イブニングセミナー, 4月, 2013, 名古屋.
3. 東山真里：生物製剤を視野に入れた乾癬治療－適応症例と導入前後の注意点. 大阪乾癬治療講演会, 4月, 2013, 大阪.
4. 岡田みどり, 林 美沙, 高橋玲子, 東山真里, 横見明典：Hyperkeratotic capillary-venous malformationの1例. 第437回日本皮膚科学会大阪地方会, 5月, 2013, 大阪.
5. 東山真里：糖尿病と皮膚疾患の関係－糖尿病性壊疽にご用心. 第3回日生病院糖尿病センター公開セミナー, 5月, 2013, 大阪.
6. 東山真里：手足症候群の治療と対策－癌治療. 院内勉強会, 5月, 2013, 大阪.
7. 高橋玲子, 岡田みどり, 大川たをり, 東山真里, 林美沙：イソニアジドの予防投与にて急性増悪を認めた

尋常性乾癬の1例. 第18回ギンナン皮膚科談話会, 6月, 2013, 大阪.

8. 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里：特異な経過を辿った高齢者の落葉状天疱瘡の1例. 第205回大阪皮膚科症例検討会, 6月, 2013, 大阪.
9. 林 美沙, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里：エキシマライトが有効であった汎発性環状肉芽腫の1例. 第112回日本皮膚科学会総会, 6月, 2013, 横浜.
10. 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり, 林 美沙：アダリブマブ治療6年目に肺結核を合併した尋常性乾癬の1例. 第106回 近畿皮膚科集談会, 7月, 2013, 大阪.
11. 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり：森田真也, 鈴木真優美, 林美沙：乾癬に対するアダリムマブ治療中に肺感染症を合併した5例. 第28回日本乾癬学会, 東9月, 2013, 東京.
12. 東山真里：これからの生物学的製剤に何を求めるのか？・患者会相談医の立場より－これからの生物学的製剤に何を求めるのか？. 第28回日本乾癬学会モーニングセミナー, 9月, 2013, 東京.
13. 大川たをり, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里：日光暴露のより増悪した家族性良性天疱瘡. 第206回大阪皮膚科症例検討会, 9月, 2013, 大阪.
14. 東山真里・乾癬治療の新展開－有効・安全に生物学的製剤を使うには. 草津栗東エリアステラーラ講演会, 10月, 2013, 草津.
15. 東山真里：乾癬治療のゴールを目指して. 大阪乾癬患者の会学習会, 10月, 2013, 大阪.
16. 東山真里：皮膚病と内臓疾患～皮膚は健康の鏡～あなたは大丈夫ですか. 皮膚の日講演会, 11月, 2013, 大阪.
17. 東山真里：乾癬治療におけるトータルマネジメントの重要性. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会ランチョンセミナー, 11月, 2013, 金沢.
18. 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり, 東山真里：Sister Mary Joseph結節の1例. 第64回日本皮膚科学会中部支部総会, 11月, 2013, 名古屋市.
19. 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり：ステラーラが奏効した乾癬性紅皮症. 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 12月, 2013, 大阪.
20. 東山真里：乾癬治療の新時代－乾癬治療ネットワークの重要性和患者会の役割. 第321回日本皮膚科学会長崎地方会 スポンサーセミナー, 12月, 2013, 長崎.
21. 大川たをり, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里：東山真里：分子標的薬剤と皮膚障害. 第6回薬剤師セミナー, 1月, 2014, 神戸.

22. 大川たをり, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里: ケロイドとして加療されていた神経莖腫の1例. 第441回日本皮膚科学会大阪地方会, 2月, 2014, 大阪.
23. 山元麻生, 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里: 健常人の「せつ」より発症したprobable toxic

- shock syndromeの1例. 第442回日本皮膚科学会大阪地方会, 3月, 2014, 大阪.
24. 東山真里: 乾癬の併存症. 第5回バイオフィォーラム, 3月, 2014, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	岡田	検査 パッチテスト 生検等 (回診)	辻真紀 (初診)	乾癬外来 東山 乾癬性 関節炎外来	高橋	院内 紹介患者	岡田	エキシマ 外来	大川 (初診)	手術
2診	東山 (初診)		高橋		東山 (初診)		アレルギー 外来		アトピー 外来 東山	
3診	大川		岡田		林		乾癬外来 1. 東山		辻厚子	
外来処置	大川				手術		乾癬外来 2. 大川		高橋	

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○診				○診				

○: 当院診察が必要

表3 外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	26,359	28,539	27,681	27,556	27,548
入院	3,949	4,410	3,365	3,593	3,576

表4 2013年4月～2014年3月一入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
带状疱疹	95	9
乾癬	27	17
蜂巣炎	23	13
皮膚および皮下組織の毛包嚢胞	18	6
丹毒	12	10
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	6	7
皮膚のその他の良性新生物	6	6
摂取物質による皮膚炎	6	19
ヘルペスウイルス感染症	5	9
類天疱瘡	5	41
アトピー性皮膚炎	5	18

スタッフ 副院長兼部長：黒田昌男
 副部長：福井辰成
 医 長：福本亮
 医 員：岸本望
 非常勤医：田中雅登



1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行なった。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、抗がん化学療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、人口の高齢化とともに前立腺癌患者が増えており、当科でも、前立腺癌の診断および治療に診療全体に占める割合が高くなっている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール (表1)

泌尿器科外来 1～2 診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール (表2)

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室 (月～金曜日)

尿流検査：泌尿器科検査室 (月～金曜日)

膀胱内圧測定、尿道抵抗測定：泌尿器科検査室 (火・木曜日)

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影 (火曜日)

3. 診療実績

1) 外来診療実績 (表3)

外来患者数は延べ12,201人であった。

2) 入院診療実績 (表3、4)

入院患者は延べ3,759人であった。

3) 治療実績

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術63例、根治的膀胱全摘除術6例(自排尿型代用膀胱形成術2例・回腸導管造設術4例)に対して行った。4例に多剤併用全身化学療法を施行した。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防として、再

発しやすい癌に対してBCG膀胱内注入療法を施行した。

膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしている。

前立腺生検を94例に行い、新たに前立腺癌と診断された55症例に対して、抗男性ホルモン療法28例、前立腺全摘除術4例、強度変調放射線治療(IMRT)5例、内分泌療法+IMRT9例を行った。9例は悪性度が低く、余命に影響を与えない小さい癌としてPSA監視療法(治療せず経過観察し進行する癌に対しては根治療法を行う)とした。内分泌療法では、抗男性ホルモン療法の副作用を軽減し医療費も節約できる間歇的抗男性ホルモン療法を取り入れている。

前立腺肥大症に対する外科的治療として、経尿道的前立腺切除術(経尿道的核出術を含む)15例、前立腺被膜下摘除術2例を行った。腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術(TUEB)を主に行っている。

尿路結石(腎結石、尿管結石)に対して、入院して体外衝撃波碎石術(ESWL)を行ったのが48例、外来通院で63例に行っている。経尿道的膀胱碎石術を7例に、経尿道的尿管碎石術を6例に行った。経尿道的手術以外の内視鏡手術を11例に行った。腎癌に対する腎摘除術4例、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘除術6例、副腎摘除術1例である。手術時間はやや延長するが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できる。現在、対象としているのは、腎悪性腫瘍、腎盂尿管悪性腫瘍、水腎症、尿管狭窄、副腎腫瘍などである。腎悪性腫瘍で、開腹手術を行った症例は、4例で、大きな悪性腫瘍以外は内視鏡手術を行うことにしている。

慢性腎不全症例に対して血液透析を行った。3例に内シャントを造設し、血液透析療法の導入を行った。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医 4名
 日本がん治療認定医機構認定医 2名
 日本がん治療認定医機構暫定教育医 1名

5. 論文・学会発表など

学会・研究会発表

1. 花房隆範, 福本 亮, 福井辰成, 黒田昌男: T1膀胱癌に対するsecond TUR後治療の臨床的検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2013, 札幌.
2. 福本 亮, 花房隆範, 福井辰成, 黒田昌男: BCG膀胱内注入療法後の膀胱癌前立腺侵襲症例の検討. 第101回日本泌尿器科学会総会, 4月, 2013, 札幌.
3. 福本 亮, 岸本 望, 福井辰成, 黒田昌男: 膀胱全摘除術に伴う尿路変向術と術後腎機能の検討. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2013, 名古屋.
4. 岸本望, 福本亮, 福井辰成, 黒田昌男: 膀胱全摘除術症例の治療成績. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 11月, 2013, 名古屋.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	黒田	特殊検査	黒田	回診	交代		福井	特殊検査	福井	手術
2診	福本		岸本	特殊検査		手術	福本		岸本	

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
膀胱内圧測定 尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影		○診		○診				○診		

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	12,060	12,165	12,596	12,535	12,201
入院	5,003	4,704	4,461	4,574	3,759

表4 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	75	10
膀胱の悪性新生物	72	17
疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価	38	4
腎結石および尿管結石	16	3
腎盂を除く腎の悪性新生物	15	15
前立腺肥大症	15	10
尿管の悪性新生物	14	24
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	11	4
急性腎盂腎炎	10	14
その他の部位の続発性悪性新生物	8	27

スタッフ 副院長兼部長：船渡孝郎
 担当部長：佐伯典厚
 副部長：大塚博文
 医 長：橋本奈美子
 副医長：高山敬範、羽田野悠子
 医 員：尾上昌世
 専攻医：祝小百合 常勤嘱託医：吉見佳奈



1. 診療内容

内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の約73%を占めている。

また悪性手術も根治手術から抗癌剤療法まで行っている。先進医療においては2011年1月：腹腔鏡下子宮体がん根治術、2013年5月1日：腹腔鏡下仙骨腫固定術（骨盤臓器脱）の認可を近畿厚生局から受け、最先端の医療を提供している。

周産期においては自然分娩のために24時間の緊急時対応の体制をしいている。また特殊妊婦外来・助産師外来・母乳育児相談・マタニティビクス・ヨガなどを取り入れている。また妊婦の方に安心して出産していただけるように産科医療補償制度に加入している。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
当科は主治医制を引いている。
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
1日平均87名の外来
- 2) 入院診療実績（表4、5）
H25年度
 - ・分娩数：489件
 - ・総手術総数：1,004件
腹腔鏡下手術：562件
TLH：193 LSH：3 TLM：118 LAM：28
卵巣嚢腫：112 内膜症性嚢胞：75
LSC（腹腔鏡下仙骨腫固定術）：18
子宮外妊娠：11 その他
子宮鏡下手術：92件
開腹手術：120件

卵巣癌：13 子宮頸癌：4 子宮体がん：4

帝王切開術：83 ATH：16

経膈手術：69件 骨盤臓器脱（経膈）：15件

その他：146件

4. 認定医・専門医など

日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医	3名
日本内視鏡外科学会技術認定医	2名
日本産科婦人科学会専門医	7名
日本アロマセラピー専門医	1名
日本性感染症学会専門医	1名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. 吉見佳奈, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：妊娠中の腹腔鏡下卵巣腫瘍手術に対する安全性の検討. 日生医誌, 41：10-14, 2013.

学会・研究会発表

1. 吉見佳奈, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎：全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）後の腔断端離開～再発予防の術式とは～. 第65回日本産科婦人科学会学術講演会, 5月, 2013, 札幌.
2. 橋本奈美子, 吉見佳奈, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 大塚博文, 佐伯典厚, 船渡孝郎：腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）における尿管損傷～回避は可能か？. 第65回日本産科婦人科学会学術講演会, 5月, 2013, 札幌.
3. 船渡孝郎：子宮頸がん検診と予防. 西区医師会学術講演会, 5月, 2013, 大阪.
4. 船渡孝郎：子宮頸がんセミナー. 布施医師会学術講演会, 6月, 2013, 大阪.
5. 尾上昌世, 吉見佳奈, 祝小百合, 羽田野悠子, 高山敬範,

大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 突出率の低い粘膜下筋腫に対する子宮鏡下手術～単孔つきレゼクトスコープの使用経験～. 第34回大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス, 7月, 2013, 大阪.

6. 佐伯典厚, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 船渡孝郎: 当科で行っている産婦人科内視鏡手術研究会の意義. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2013, 名古屋.
7. 大塚博文, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 腹腔鏡下仙骨隆固定術 (Laparoscopic Sacral Colpopexy : LSC) の経験. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2013, 名古屋.
8. 高山敬範, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 内視鏡下手術にて子宮を温存し得た帝王切開癒痕部妊娠の一例. 第53回日本産科婦人科内視鏡学会, 9月, 2013, 名古屋.
9. 祝小百合, 橋本奈美子, 甲村弘子: 続発性卵巣性無月経の治療中に発症し胸椎圧迫骨折をきたした摂食障害の1例. 第32回日本思春期学会, 9月, 2013, 和歌山.
10. 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 大塚博文, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 当院における骨盤臓器脱治療. 第129回近畿産婦人科学会学術集会, 11月, 2013, 大阪.
11. 高山敬範, 祝小百合, 尾上昌世, 羽田野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 橋本奈美子, 佐伯典厚, 船渡孝郎: 内視鏡下手術にて子宮を温存し得た帝王切開癒痕部妊娠の一例. 第35回大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス, 11月, 2013, 大阪.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診 8122	船渡	船渡	佐伯	佐伯	船渡	船渡	手術		佐伯	佐伯
2診	祝	祝	高山	高山	吉見	吉見				
3診 8123	尾上	尾上	橋本	橋本	大塚	大塚	元林	手術	羽田野	羽田野
	手術		手術		手術				手術	回診

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	モーニング カンファレンス		周産期 カンファレンス		
午後				術前 カンファレンス	部長回診 レントゲン カンファレンス

表3 検査スケジュール

	月		火		水		木		金		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
子宮卵管造影		○ 紹・予					○ 紹・予				

○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	18,428	18,280	17,012	17,371	21,069
入院	12,255	13,355	12,406	12,201	11,909

表5 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	368	8
単胎自然分娩	354	7
卵巣の良性新生物	115	7
子宮内膜症	109	8
子宮頸部の異形成	50	3
女性性器のポリープ	49	3
受胎のその他の異常生成物	46	2
卵巣の悪性新生物	42	7
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	42	9
女性性器脱	37	12

スタッフ 部長代行：島袋幹子
副 部 長：瀬口道秀



1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、常勤医 2 名、非常勤医 5 名によって、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。デジタル画像ファイリングシステム、眼底造影検査機器、各種レーザー機器、OCT（前眼部・後眼部）、視野計などの最新の設備を誇り、質の高い医療の提供と患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で、診療を行っている。

a. 全般

一般的な眼科疾患の診断・治療、特に白内障手術、緑内障手術、網膜硝子体手術、角膜移植手術など幅広く行っている。2013年度は、白内障手術：677件、角膜移植手術：17件、網膜・硝子体手術：4件、翼状片手術：7件、緑内障手術：1件、眼瞼形成術：12件、その他：3件であった。(レーザー手術を除く)

b. 白内障手術は主として一泊入院体制を中心に行っている。術式は、ほとんどが小切開超音波白内障手術+foldable眼内レンズ挿入術（切開創2.8mm）で、重篤な術後合併症も認めなかった。角膜形状解析装置によるデータを元にLASIK術後の方の白内障手術も可能である。

c. 角膜移植術については、米国アイバンクから角膜を輸入するシステムを採用し、ある程度ご希望に合わせた日程での手術が可能である。角膜白斑、水疱性角膜症、角膜変性症などを主な適応とし、一般的には2週間程度の入院で、全層角膜移植、表層角膜移植、上皮形成術、内皮移植などのパーツ移植を症例に応じて施行している。

d. 緑内障では、眼圧日内変動測定入院を適宜施行し、眼圧日内変動パターンに応じて個々の患者様に最適な24時間単位の眼圧コントロールを心がけている。手術治療が必要な症例には主にトラベクトミーを選択し、術後合併症も重篤なものを認めていない。

e. 網膜・硝子体疾患については、硝子体網膜症疾患に対して硝子体手術を行っている。黄斑浮腫症例に対しては、ケナコルト注射など適宜薬剤治療を行っている。

f. 眼瞼痙攣症例にボトックス注射を、加齢性眼瞼下垂症例に手術加療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医など

日本眼科学会専門医 2名

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. 島袋幹子：流涙症の鑑別. 日生医誌, 41：73-83, 2013. 学会・研究会発表
1. 島袋幹子：白内障手術における非球面眼内レンズの有用性. 大阪大学眼科同窓会, 6月, 2013, 大阪.
2. 瀬口道秀：DSEAKの変遷. 大阪西部眼科病診連携の会, 6月, 2013, 大阪.
3. 島袋幹子, 瀬口道秀：単純ヘルペスウイルスキットが診断に有用であった感染性角膜炎の2例. 第30回角膜移植学会 角膜カンファレンス, 1月, 2014, 沖縄.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	島袋	島袋 (予約)	田村		島袋	島袋	岡崎		島袋	
2診	大井		横山	横山	横山	横山		手術	横山	手術
3診	瀬口 (第1・3週)		岡崎 (第1・3週)		大井	長谷川 (第4週)		手術		田村

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
光凝固 YAG 蛍光造影	○ 紹・予		○ 紹・予							

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	14,132	15,028	14,484	14,381	13,947
入院	2,973	2,853	2,297	2,074	2,416

表4 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	550	3
角膜のその他の障害	21	28
結膜のその他の障害	6	2
眼瞼のその他の障害	5	2
緑内障	3	9
眼球および眼窩の損傷	3	34
水晶体のその他の障害	2	6
体内プロステシス、挿入物および移植片の合併症	2	6
眼および付属器に限局する熱傷および腐食	2	4
網膜の障害	3	8

スタッフ 部長代行：赤羽 誉
 医 長：細野研二、岡安 唯
 医 員：尾崎大輔（～6月）
 専 攻 医：伊藤妙子（10月～3月）



1. 診療内容

急性炎症疾患（咽喉頭炎、扁桃炎、中耳炎など）、慢性疾患（副鼻腔炎、めまい、難聴など）、頭頸部腫瘍に対する集学的治療（手術、放射線治療、抗がん剤治療）を行い、最近では耳科領域の手術にも積極的に取り組んでいる。また、頭頸部がん診療では、最近、保険適応が認められた抗EGFRモノクローナル抗体（セツキシマブ）を放射線治療や抗がん剤治療に併用することで、従来では積極的な治療が困難な骨髄機能低下や腎機能低下例に対しても根治を目指した治療に取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜日am
 （火：手術日のため初診のみ）
 専門診療：頭頸部腫瘍外来（木pm：赤羽）
 補聴器外来（金pm：細野）
 めまい外来（水pm：岡安）

各医師の専門性も重視し、初診の段階から疾患群に応じて、より適した医師が診療担当する方針としている。

2) 病棟体制

病床数14（4東病棟）を基本に入院診療を行った。外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として、診療開始から治療終了までの病状を詳細に把握しながら診療を行っている。重症例については、複数の医師で、または上級医の指導の下、診療を行っている。

日々の病棟処置担当医については、外来診療3診（月・水～金）、また院外診療活動（月・水～金：各1名）のため配置できず、外来初診診療担当医が9時過ぎ頃までに病棟業務を行うことで対応し、午後外来診療終了後に各主治医が入院診療を行わざるを得ない状況となっている。急を要する場合には、外来診療の合間に適切な対応を行っている。

3) 検査スケジュール

・めまい・平衡機能検査、ABR検査：適宜

- ・補聴器適合検査：金曜日午後（補聴器外来）
- ・超音波検査、鼻咽頭内視鏡検査：外来診療の一貫で施行
- ・嚥下造影検査：放射線科との調整で適宜施行

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

H21年以降、外来患者数の減少傾向を認めるが、同時期からのスタッフ交替に伴い診療体制・対応疾患に変化を認める。耳鼻咽喉科一般診療が主体であった以前の体制から癌診療など重症疾患の対応も増え、一人あたりに要する診療時間も大幅に増加している。外来診療報酬の単価も、結果的には、当初の約2倍近い上昇を認め、西区基幹病院としての役割を果たしていると思われる。

2) 入院診療実績（表3、4）

手術例を主に、急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、鼻出血、めまい、急性感音難聴、顔面麻痺、頭頸部癌の放射線治療や抗がん剤治療などを行った。

手術については、以前の年間手術件（人数）100前後であったが、徐々に、頭頸部外科領域や耳科領域の手術が増加した結果、現在250～300件（人）となっている。

年間延べ入院入院人数については、5,000人前後で推移しているが、軽症例の外来治療や入院早期退院、重症疾患の入院治療の結果、横ばいと考えられる。

2013年度（手術室施行）

手術件数256件（全麻166件、局麻90件）

主な手術症例

・口蓋扁桃摘出術	40例
・アデノイド切除術	17例
・鼻内内視鏡手術	37例52側
・喉頭微細手術	25例
・鼻中隔矯正術	9例

・鼓膜・鼓室形成術	17例18側
・甲状腺・副甲状腺腫瘍手術	15例
・唾液腺腫瘍手術	19例
・頸部郭清術(単独)	4例5側
・頭頸部再建手術	3例
(下咽頭2例、中咽頭1例)	
・頭頸部癌摘出術	3例
(口腔1例、喉頭2例)	
・頸のう胞摘出術	2例
・鼻粘膜レーザー焼灼術	20例
・頸部リンパ節生検術	23例
・唾石摘出術	8例

3) 検査実績

めまい検査

頸部超音波検査

鼻咽喉頭内視鏡検査

嚥下造影検査

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科学会専門医 3名

日耳鼻認定補聴器相談医 1名

補聴器適合検査認定医 1名

頭頸部がん暫定指導医 1名

日本東洋医学会漢方認定医 1名

身体障害者福祉法指定医 1名

(聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害)

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. Nishimura T, Uratani Y, Okayasu T, Nakagawa S : Magnetoencephalographic Study on Forward Suppression by Ipsilateral, Contralateral and Binaural Maskers. PLoS ONE 8 (6) : e66225. doi : 10.1371/journal.pone.0066225
2. Okayasu T, Nishimura T, Yamashita A, Saito O, Fukuda F, Yanai S, Hosoi H : Human ultrasonic hearing is induced by a direct ultrasonic stimulation of the cochlea. Neuroscience Letters, 539 : 71-76, 2013.
3. Okayasu T, Nishimura T, Nakagawa S, Yamashita A, Nagatani Y, Uratani Y, Yamanaka T, Hosoi H : Evaluation of prosodic and segmental change in speech-modulated bone-conducted ultrasound by mismatch fields. Neuroscience Letters, 559 : 117-121, 2014.

4. Uratani Y, Nishimura T, Nakagawa S, Okayasu T, Yamanaka T, Hosoi H : Suppression of subsequent N1m amplitude when the masker frequency is different from the signal. Journal of Experimental Neuroscience, 8 : 1-5, 2014.
 5. 細野研二, 赤羽 誉, 谷口由希子, 今泉宏哲, 岡安 唯, 篠原章人 : 当科でのデジタル画像の簡便な記録・管理方法と活用システム. 耳喉頭頸, 85 : 925-931, 2013.
- 学会・研究会発表
1. 尾崎大輔, 岡安 唯, 細野研二, 赤羽誉 : 診断に苦慮しためまい症例の1例. 歎火カンファレンス, 4月, 2013, 奈良.
 2. Okayasu T, Nishimura T, Yamashita A, Saito O, Fukuda F, Yanai S, Hosoi H : Changes in human ultrasonic perception following cisplatin administration. 20th World Congress of the international Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies (IFOS), 6月, 2013, Seoul, Korea.
 3. Yamashita A, Nishimura T, Okayasu T, Hosoi H : Difference for bone-conducted ultrasound and air-conducted audible sound in speech recognition. 20th World Congress of the international Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies (IFOS), 6月, 2013, Seoul, Korea.
 4. 伊藤妙子, 山中敏彰, 澤井八千代, 清水直樹, 岡本英之, 藤田信哉, 細井裕司 : めまい疾患における重心動揺-疾患群別検討-. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会, 7月, 2013, 神戸.
 5. 赤羽 誉 : 頭頸部がん治療について. プリスト・マイヤーズ社内研修会, 7月, 2013, 大阪.
 6. 伊藤妙子, 太田一郎, 三上慎司, 成尾一彦, 岡本英之, 山中敏彰, 細井裕司 : 局所進行頭頸部癌に対する放射線化学療法施行時の炎症反応に対するEPA機能食品の有効性. がん免疫栄養療法研究会第三回症例検討会, 7月, 2013, 宮崎.
 7. 伊藤妙子, 山中敏彰, 澤井八千代, 清水直樹, 岡本英之, 藤田信哉, 細井裕司 : 前庭代償過程における体平衡の推移-重心動揺による検討-. 第31回耳鼻咽喉ニューロサイエンス研究会, 8月, 2013, 大阪
 8. 岡安 唯, 西村忠己, 中川誠司, 山下哲範, 浦谷悠加, 長谷芳樹, 細井裕司 : 刺激の周波数エンベロープが持続時間の増加に伴うN1m振幅の増大にあたえる影響について. 第58回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 10月, 2013, 松本
 9. 伊藤妙子, 山中敏彰, 松村八千代, 村井孝行, 岡本英之,

藤田信哉, 細井裕司: 心因性めまいにおける重心動揺. 第72回日本めまい平衡医学会, 11月, 2013, 大阪.

10. 大山寛毅, 伊藤妙子, 澤井八千代, 村井孝行, 清水直樹, 伊藤妙子, 岡本英之, 藤田信哉, 細井裕司: メニエール病における体平衡障害に対する内リンパ嚢開放術の効果. 第72回日本めまい平衡医学会, 11月, 2013, 大阪.
11. 山中敏彰, 松村八千代, 村井孝行, 伊藤妙子, 大山寛毅, 清水直樹, 岡本英之, 藤田信哉, 細井裕司: BPPV クラブラ結石症における頭位依存性眼振. 第72回日本めまい平衡医学会, 11月, 2013, 大阪.
12. 成尾一彦, 西川大祐, 三上慎司, 山下哲範, 太田一郎, 岡本英之, 山中敏彰, 岡安 唯, 細井裕司: 当科における気管切開を要した深頸部感染症の検討. 第24回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 1月, 2014, 高松.
13. 細野研二, 赤羽誉, 岡安 唯, 伊藤妙子: 甲状腺血管腫の1例. 第24回日本頭頸部外科学会, 1月, 2014, 高松.
14. Okayasu T, Nishimura T, Yamashita A, Saito O, Fukuda F, Yanai S, Hosoi H: Effect of Cisplatin Induced Hearing Loss on Human Ultrasonic Perception. Association for research in otolaryngology (ARO) 37th annual midwinter meeting, 2月, 2014, San Diego, USA.
15. 大山寛毅, 山中敏彰, 宮前了輔, 村井孝行, 岡本英之, 細井裕司, 伊藤妙子, 藤田信哉: 科における内リンパ嚢開放術の治療成績. 第328回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 3月, 2014, 大阪.
16. 宮前了輔, 西村忠己, 岡安 唯, 山下哲範, 村井孝行, 山中敏彰, 細井裕司: 当科における蝸電図の臨床統計. 第78回奈良県耳鼻咽喉科研修会, 3月, 2014, 奈良.
17. 大山寛毅, 山中敏彰, 宮前了輔, 村井孝行, 岡本英之, 細井裕司, 伊藤妙子, 藤田信哉: 当科における内リンパ嚢開放術の治療成績. 第328回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 3月, 2014, 大阪.
17. Yamashita A, Nishimura T, Okayasu T, Nagatani Y, Hosoi H: The Difference Between Bone-Conducted Ultrasound and Audible Sound in Japanese Monosyllable Recognition. Association for research in otolaryngology (ARO) 37th annual midwinter meeting, 2月, 2014, San Diego, USA.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
1診	赤羽 (初診・再診) (2・3・4週)		交代 (初診)		赤羽 (再診)	赤羽 (再診)	細野 (再診)		岡安 (再診)	
2診	岡安 (初診・再診) (1・2・4週)	手術	手術	手術	岡安 (初診・再診)	岡安 (めまい)	伊藤 (初診・再診)		伊藤 (初診・再診)	
3診	細野 (初診・再診) (1・2・3週)				伊藤 (初診・再診)		赤羽 (初診・再診)	赤羽 (腫瘍)	細野 (初診・再診)	細野 (補聴器)

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
顔面機能検査 聴力検査 平衡機能検査 味覚検査、嗅覚検査 鼻腔通気検査	○診									
聴性脳幹反応				○診						○診

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	17,736	16,552	15,082	15,076	13,924
入院	5,334	5,254	4,366	4,845	4,835

表4 2013年4月～2014年3月ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	31	7
難聴	29	4
慢性副鼻腔炎	24	9
急性扁桃炎	22	6
甲状腺の悪性新生物	19	21
顔面神経障害	18	4
喉頭の悪性新生物	16	18
睡眠障害	16	5
大唾液腺の良性新生物	15	10
扁桃周囲膿瘍	14	7

放 射 線 科

スタッフ 部長：三谷 尚
 医 長：岩澤 仁（～7月）
 副医長：橋本尚子（3月～産休）
 診療放射線技師：12名（技師長：在津裕明）



1. 診療活動

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、B-RTO、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、ラジオ波焼灼術、生検など）、核医学診断（骨、脳血流、心筋、甲状腺、副腎、換気・血流、腎など）、放射線治療（リニアック照射）を行っている。2014年3月後半から常勤の放射線科医が1名となったが、大阪大学ならびに大阪市立大学の放射線科とその関連施設の専門医（非常勤）と当院各診療科の支援を得て診療体制を維持している。

2. 臨床実績（2013年4月1日から2014年3月31日）

- 1) 画像診断：CT 10,525例、MR 4,771例、単純X線 20,021例、マンモグラフィ 1,301例、消化管造影（DICを含む）90例、排泄性尿路造影 3例
- 2) 血管系IVR 67例（肝細胞癌の塞栓 58例、膀胱癌の塞栓 1例、消化管出血の止血 2例、産科出血の止血 1例、脾動脈瘤のコイル留置 1例、副腎静脈採血 2例、B-RTO 1例、肝動脈造影のみ 1例）
- 3) 非血管系IVR 49例（経皮経肝胆道ドレナージ 14例、胆管ステント 2例、膿瘍穿刺・ドレナージ 17例、ラジオ波焼灼術 8例、生検 8例）
- 4) RI検査 640例
- 5) 放射線治療 150例（内訳：頭頸部癌 21例、乳癌 42例、食道癌 3例、肺癌・縦隔腫瘍 6例、胃癌 2例、肝・胆道系腫瘍 2例、前立腺癌・膀胱癌 19例、子宮・卵巣腫瘍 3例、悪性リンパ腫・血液悪性腫瘍 12例、転移性骨腫瘍・その他 40例）

3. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線科認定医 1名
 検診マンモグラフィ認定医 1名
 日本医学放射線学会放射線診断専門医 1名
 日本IVR学会専門医 1名

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
橋本	三谷		三谷		橋本	三谷	三谷			橋本
		三谷	橋本	三谷	香川	大上			三谷	林 (放治) (再)

表2 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
単純撮影	★ 紹									
CT(単・造)	● 紹・予									
MRI(単・造)	● 紹・予									
骨塩定量	● 紹・予									
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
リニアック						○ 診				
腹部エコー	● 紹・予									

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	3,486	4,436	3,672	3,892	4,902
入院	0	0	0	0	0

スタッフ 部長：川原玲子
副部長：花田留美、奥野聡子、山崎恭子
副医長：本庄郁子
医 員：今田泰介
常勤嘱託医：玉井 裕



1. 診療内容

a. 当科の特徴

手術時の麻酔を担当している。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。術中管理を行うにあたり、術前診察・術後診察を麻酔科外来で行っている。術前診察では手術前に問診・検査結果・診察を行って患者さんの全身状態の評価を行い手術に適した麻酔法を選択する。麻酔法およびその合併症について患者さんに説明・承諾していただくため非常に重要である。術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。術後診察を麻酔科外来で行い鎮痛効果を評価し、硬膜外チューブ除去まで行う。

ペインクリニックも麻酔科で行っている。ペインクリニック外来は毎日、透視下ブロックは月曜日午前に行っている。癌性疼痛管理にも携わり、緩和医療にも積極的に折り組んでいる。高周波熱凝固を用いた恒久ブロックや外来通院での麻薬の処方も行っており、痛みを和らげ日常生活に返すことに力を入れている。麻薬を持って海外旅行をされた患者さんもあり、痛みを取るだけでなく一歩踏み込んで患者さんが生活をエンジョイすることを積極的にサポートすることを目標としている。平成20年2月より緩和ケアチームが発足し、回診とカンファレンスを開始した。緩和ケアの確立にも麻酔科は積極的に関わっており、副主治医として緩和ケアチーム依頼患者に対応している。

教育にも携わっている。平成16年4月より新研修医制度がスタートした。当院のプログラムではスーパーローテートといい1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。そこで私たちも麻酔業務の傍ら、研修医を教育している。常に1人から2人の研修医を預かるのはなかなか大変である。ただこうして若い人

たちが増えたことで現場が活気付いたことは思わぬメリットだった。ICLS講習会や緩和ケア研修会も開催し、一緒に学んでいる。一般病院で育つ医師像を模索しつつ、教育活動を続けていきたいと考えている。

b. 平成25年の診療実績

手術件数はここ数年増加傾向で平成25年度は総手術件数2819件、うち麻酔科管理手術件数1487件となった。この手術件数を維持するだけでも麻酔科医の負担は顕著だが、全身麻酔のみならず重症例の全身管理など麻酔科医のニーズが高まっているのは全国的で、マンパワーが不足している。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制

麻酔科は手術室業務が主なため病棟体勢はとっていない。外来日以外は手術室にて麻酔業務に従事している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

麻酔業務の傍ら緩和ケアチームの診療に従事している。

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医	4人
麻酔科標榜医	6人
日本ペインクリニック学会専門医	1人
日本集中治療医学会専門医	1人
日本緩和医療学会暫定指導医	1人
ICD	1人
日本医師会産業医	2人

5. その他

ペインクリニックの新規患者様は他科あるいは他院からの紹介がほとんどで紹介元の科と共同で診療・治

療に当たることが多くある。病診連携が最も必要な科とも言える。緩和の広がりの中で癌性疼痛に対する永久ブロックに積極的に取り組んでおり、高周波熱凝固・フェノール・アルコールなどを用いて癌の痛みを和らげたり、硬膜外ポートを埋め込み在宅でPCAによる鎮痛を計ることで、帰宅できた方もあった。放射線科の協力のもと開始したコーンビームCTガイド下内臓神経ブロックは、従来の方法に比し、安全性・確実性が向上した。また腹水濾過濃縮再静注法（Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy：CART）も開始し、がん性腹膜炎による腹水の治療も開始した。他院でがんの治療中の患者さんのCARTも3日ほどの入院で始め、病病連携が深まっている。ブロックや腹水処理などの積極的な症状緩和に加え、デイグニティセラピーなども取り入れ、患者さんのQuality Of Lifeを高めることを目標にしている。

6. 論文・学会発表など

論文発表

1. 小山佐知子, 森真由子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子, 寺川直樹：緩和ケア患者の口腔内疼痛に対する立効散（TJ-110）の効果. 痛みと漢方, 23：97-102, 2013.
2. 川原玲子, 小山佐知子, 吉岡 亮, 平田貴宏, 畑中勝義：緩和ケア・周術期における漢方薬投与の実践例
①がん患者の状態・症状にあわせた漢方薬投与の実践. 薬局, 64：95-101, 2013.

学会・研究会発表

1. 川原玲子, 花田留美, 三木和美, 加藤千尋：難治性腹水に対するKM-CART治療. 第21回大阪西緩和ケアカンファレンス, 5月, 2013, 大阪.
2. 本庄郁子, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子：TVM手術の術後鎮痛法の検討. 第60回日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2013, 札幌.
3. 玉井 裕, 本庄郁子, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子：CアームコーンビームCTガイド下内臓神経ブロックの有用性の検討. 第60回日本麻酔科学会学術集会, 5月, 2013, 札幌.
4. Hanada R, Miki K, Kato C, Shimizu R, Honsho I, Tamai Y, Yamasaki Y, Okuno S, Kawahara R：Usefulness of KM-CART for refractory malignant ascites in advanced cancer patients. 13th World Congress of European Association for Palliative Care, 5月, 2013, Prague, Czech Republic
5. 川原玲子：漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 漢

- 方イブニングセミナー, 6月, 2013, 富田林.
6. Oyama S, Shimizu R, Honsho I, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R, Kawahara R：Usefulness of rikkosan, a traditional Japanese medicine, for intolerable oral pain in cancer patients. 13th World Congress of European Association for Palliative Care, 6月, 2013, Prague, Czech Republic.
7. 川原玲子：漢方薬の緩和医療への展開. 第18回日本緩和医療学会学術大会ランチョンセミナー, 6月, 2013, 横浜.
8. 川原玲子, 花田留美, 奥野聡子, 山崎恭子, 玉井 裕, 本庄郁子, 小山佐知子：がん疼痛に対するオキファスト投与の先行麻薬に対する換算比の検討. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2013, 横浜.
9. 丸山加奈, 國友実加, 小山佐知子, 川上 学, 高橋 励, 江川 功, 川原玲子：臨床心理士による無菌室入室患者への面接の取り組み. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2013, 横浜.
10. 三木和美, 加藤千尋, 花田留美, 川原玲子：KM-CARTのアルブミン回収率向上のための工夫. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2013, 横浜.
11. 花田留美, 本庄郁子, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 川原玲子：フェンタニルPCA大量投与症例の麻薬減量. 日本緩和医療学会第18回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2013, 横浜.
12. 小山佐知子, 花田留美, 川原玲子, 寺川直樹：S状結腸癌臀部痛に対するフレキシシール®を用いた排便管理. 日本緩和医療学会第18回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2013, 横浜.
13. 奥野聡子, 本庄郁子, 玉井 裕, 山崎恭子, 花田留美, 川原玲子：小児の扁桃腺摘出術後の鎮痛鎮静における抑肝散の効果. 第26回日本疼痛漢方研究会学術集会, 7月, 2013, 東京.
14. 清水梨江, 本庄郁子, 花田留美, 山崎恭子, 奥野聡子, 川原玲子：フェンタニルパッチ開始時の先行麻薬との換算比の検討. 日本ペインクリニック学会第47回大会, 7月, 2013, さいたま.
15. 川原玲子：漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. KANPOセミナー in 高松－緩和ケアに漢方ができること－, 7月, 2013, 高松.
16. Tamai Y, Iwazawa J, Kawahara R, Hanada R, Okuno S：The application of C-arm fluoroscopic cone-beam CT for neurolytic splanchnic nerve block. 32nd annual ESRA (European Society of Regional Anesthesia and pain therapy) Congress,

7月, 2013, Glasgow, UK

17. 今田泰介, 玉井 裕, 山崎恭子, 奥野聡子, 花田留美, 川原玲子: 術後せん妄予防に対する抑肝散坐薬投与の試み. 日本麻酔科学会第59回関西支部学術集会, 9月, 2013, 大阪.
18. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 第29回おおさか医大漢方研究会, 9月, 2013, 高槻.
19. 玉井 裕: KM-CART法による腹水治療とコーンビームCTガイド下内臓神経ブロックの複合治療. 疼痛勉強会, 9月, 2013, 大阪.
20. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 第1回法円漢方セミナー, 10月, 2013, 大阪.
21. 花田留美: フェンタニルPCA大量投与症例の麻薬減量. 大阪がん緩和ネット研究会, 12月, 2013, 大阪.
22. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 八尾市立病院緩和講演会, 1月, 2014, 八尾.
23. 川原玲子, 加藤千尋: 肝硬変による難治性腹水に対し腹水濾過濃縮再静注法 (KM-CART) を長期間反復施行した1例. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 2月, 2014, 京都.
24. 川原玲子: 神経障害性疼痛. NTT西日本大阪病院緩和講演会, 2月, 2014, 大阪.
25. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 米子漢方・代替医薬研究会, 2月, 2014, 米子.
26. 川原玲子: 慢性疼痛のマネジメント. 北摂慢性疼痛治療勉強会, 2月, 2014, 吹田.
27. 川原玲子: 漢方薬を用いた緩和医療の治療戦略. 市立堺病院漢方イブニングセミナー, 2月, 2014, 堺.
28. 川原玲子, 花田留美, 玉井 裕, 小山佐知子: 神経ブロックにより麻薬減量が可能となった1例. 第25回大阪西緩和ケアカンファレンス, 3月, 2014, 大阪.

29. Kawahara R, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Hanada R: Effectiveness of preoperative administration of a yokukansan suppository in the pain management of pediatric tonsillectomy. 2nd Asian Congress On Pain, 3月, 2014, 台湾, 台北.
30. Miki K, Kato C, Hanada R, Honsho I, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Kawahara R: Albumin recovery improvement by our modification of KM-cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy (CART) for refractory malignant ascites. 2nd Asian Congress On Pain, 3月, 2014, 台湾, 台北.
31. Oyama S, Okuno S, Hanada R, Kawahara R: Usefulness of rikkosan, a traditional Japanese medicine, for intolerable oral pain. 2nd Asian Congress On Pain, 3月, 2014, 台湾, 台北.

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後								
1診	本庄	本庄	玉井	玉井	川原	川原	花田	花田	奥野	奥野
2診	花田 (術前 診察)	花田 (術前 診察)	緒方 (術前 診察)	緒方 (術前 診察)	今田 (術前 診察)	今田 (術前 診察)	山崎 (術前 診察)	山崎 (術前 診察)	玉井 (術前 診察)	玉井 (術前 診察)
	透視下 ブロック									

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来	5,837	6,343	6,073	5,777	5,640
入院	145	161	31	200	224

病 理 診 断 科

スタッフ 部長代行：城光寺 龍



1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学的および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、故大嶋部長の逝去以来、常勤病理医が不在の状態非常勤医師での診療体制が続いていたが、平成25年4月より、大阪警察病院より城光寺が常勤医として着任した。

長らく常勤医不在の状態が続いていたため、病理検査運営体制の不備が生じていたため、運営体制の立て直しをはかった。

新規診療内容としては、7月からは、それまで外注検査として依頼していたHER2遺伝子検査に関して、院内実施（DISH法の導入）に移行した。また、12月からは、乳腺外科と共同で術中センチネルリンパ節生検に関して、OSNA法の導入を行った。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師：2名（大阪大学、奈良医科大学より）

臨床検査技師（中央検査部兼任）：3名（細胞検査士：3名）

検査助手：1名

事務職員（中央検査部兼任）：1名

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：3,806件

細胞診断：9,618件（予防医学センター 2,688件）

術中迅速診断：123件

病理解剖：19件（内科系18件、剖検率12.9%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
H21	3,290	10,237 (3,006)	127	12
H22	3,721	9,978 (3,081)	147	16
H23	3,608	9,190 (2,232)	111	11
H24	3,580	9,705 (2,496)	121	12
H25	3,806	9,618 (2,688)	123	19

4. その他

平成25年度はCPCの開催は10回行われ、内容は下記の如くであった。

第215回 5月24日：急性骨髄単球性白血病（総合内科）

第216回 6月28日：通常型間質性肺炎（総合内科）

第217回 8月2日：大腸癌、肺癌（消化器外科）

第218回 8月16日：胃癌、肺高血圧症（総合内科）

第219回 10月25日：膵臓癌（消化器内科）

第220回 10月28日：胃癌、十二指腸癌、心房中隔欠損症術後（循環器内科）

第221回 11月29日：末梢性T細胞リンパ腫（血液内科）

第222回 11月29日：CD5陽性びまん性大型B細胞リンパ腫（血液内科）

第223回 2月24日：急性心筋梗塞（循環器内科）

第224回 2月25日：脳梗塞・上腸間膜動脈血栓塞栓症（神経内科）

臨床研修部

スタッフ 部長：三木俊治
部長代理：中川 厚



初期研修医：2年目 佐藤和明、清水 綾、豊田新一郎、田中 智、山元麻生
1年目 生長久仁子、永田彩織、藤田祐亮、横井一範、吉岡佐紀、
藤倉航平

平成16年度から開始された新研修制度が始まり、初期研修2年間は各診療科に所属することなく各診療科を異動し、診療にあたることとなり、研修内容などを病院として一括して行う必要が生じたため、平成17年度より臨床研修部ができた。各年度当院単独型での定員5名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすき掛け研修医にて構成される。

研修：月1回 EBMに関する抄読会

1. 平成25年度実績

a. 病院見学学生

男性：21名、女性：21名 計42名

b. マッチング試験受験

男性：15名、女性：12名 計27名

c. 病院説明会への参加

平成25年5月19日

：レジフェア 大阪南港ATCホール

ブース訪問学生 6年生：2名、5年生：50名、
4年生以下：11名 合計63名

平成26年2月15日

：近畿厚生局主催近畿地区臨床研修病院説明会

ホテル大阪ベイタワー

ブース訪問学生 5年生：9名、4年生以下：4名
合計13名

がん治療センター

スタッフ センター長：黒田昌男

[がん治療センター運営委員会]

黒田昌男（泌尿器科）、中川雅史（血液・化学療法内科）、江川 功（神経科・精神科）、道清 勉（消化器・一般外科）、川原玲子（麻酔・緩和医療科）、新谷泰正（放射線科）、野村浩英（薬剤部）、中西三季・小山佐知子・畠山明子（以上看護部）、許斐正啓（総合企画部）、岩本昌弘（新病院新設準備室）、村上 学（医事サービス部）

[緩和ケアチーム]

チーム長：川原玲子（麻酔・緩和医療科）

回診メンバー：高橋 励（神経科・精神科）、森真由子（薬剤部）、小山佐知子・畠山明子・國友実加（以上看護部）、本家裕子・松榮優子（以上あったかさサポートセンター；医療ソーシャルワーカー）、丸山加奈（神経科・精神科；非常勤；臨床心理士）



1. 活動

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

・主たる業務

- ①がんに関する集学的治療の充実
- ②緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する院内外の教育研修
- ③がん治療に関する相談対応、情報提供
- ④がん登録の推進

・外来化学療法室

10床の外来化学療法室を有効に活用し、関係各科と連携しつつ、安全な治療を円滑に実施した。

・緩和ケア

緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスの開催、月2回の各職種による定例勉強会・症例検討会の開催を行なった。

がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「日生病院緩和ケア研修会」を、講師・参加者とも近隣の他医療機関からも参加者を得て開催した。全職員及び近隣医療機関職員を対象とした、緩和ケア講演会を開催した。

・レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、化学療法オーダーシステムを導入し、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

・相談支援

がん相談の充実と、図書情報コーナーの整備を進めた。

・がん登録

入院患者全件並びに、一部外来での登録を行った。

・広報

パンフレット、ホームページの更新を行った。

低 侵 襲 医 療 セ ン タ ー

スタッフ センター長：船渡 孝郎

[低侵襲医療センター運営委員会]

中川 厚（循環器内科）、道清 勉（消化器・一般外科）、福井辰成（泌尿器科）
大野典子、瓜本恵美子（看護部）、岩本昌弘、石坪健治、上垣内 健（事務）



1. 診療活動

このセンターの特色は各診療科の個々の協力がなければ発展していかない部門である。

今年度を振り返り次年度の活動はより広報に力をいれて診療実績の向上に努力したい。

a. 治療部門

	平成24年	平成25年
低侵襲手術件数	1,757件	1,972件
胃内視鏡検査	2,196件	2,404件
白内障手術	654件	656件
子宮鏡検査	164件	174件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：インターベーション治療バーチャル体験実施

内視鏡手術トレーニングルーム：通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

【第3回ニッセイ産婦人科内視鏡研究会】

2013年11月 別館講堂にて実施する

【低侵襲医療イベント2013】

2014年2月 代表的な低侵襲医療のパネル展示・ビデオ放映を実施する

【ニッセイ[夏休みこども医療体験2013]】

2013年8月 鏡視下手術にチャレンジコーナーを6階東病棟にて設置する

糖 尿 病 セ ン タ ー

スタッフ センター長：笠山宗正（院長）
医 師：住谷 哲（予防医学センター）
看 護 師：角南ちえ子、井上恵子、川瀬俊子、高山由美子
管理栄養士：出口暁子、松村寿美、大平百合子



1. 運営体制

院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる糖尿病センター運営委員会において、当センターにおける業務内容を検討し、実行した。

〈運営委員会委員〉

笠山宗正、濱田偉文、中村秀次、江川 功、大川たをり、瀬口道秀、住谷 哲、中西三季、角南ちえ子、野村浩英、在津裕明、廣田将史、柳川友加、出口暁子、許斐正啓、朝倉祐紀、岩本昌弘、森本洋子

2. 診療体制

糖尿病センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に多職種のスタッフによる診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～木曜日の4日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病ふれあい教室）を週4日実施した。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

①オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施

した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。平成25年度に当センターを受診した患者数は延べ1,032名（平成24年度は760名）であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した（糖尿病合併症管理）。平成25年度における実施件数は88件（平成24年度は70件）であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した（糖尿病透析予防指導管理）。平成25年度における実施件数は80件（平成24年度は34件）であった。

2) 入院患者の診療

①糖尿病集団指導

〈糖尿病ふれあい教室講師〉

森田真也、宇都佳彦、早川友朗（総合内科）、角南ちえ子、井上恵子、川瀬俊子、高山由美子（看護部）、野村浩英、乾有希子、瀧川奈央（薬剤部）、片岡宏一郎、廣田将史（リハビリテーション室）、水口洋一、倉本訓子、柳川友加（中央臨床検査部）、出口暁子、松村寿美、大平百合子（栄養管理室）

糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ700名（平成24年度は840名）であった。

3. 活動

1) 日生病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、パネル展示、血糖測定、HbA1c測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

〈日時〉平成25年11月14日（木）、15日（金）

11：30～13：30

- 〈場所〉日生病院外来玄関ホール
 〈内容〉・糖尿病啓発のためのパネル展示
 ・血糖測定・HbA1c測定
 ・フットケア
 ・頸動脈エコー
 ・お薬相談、災害時のための薬管理
 ・清涼飲料水の糖質当てクイズ
 ・医療相談
 ・運動指導、筋肉量測定 など

2) 公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催した。

『日生病院糖尿病センター公開セミナー』

〈日時〉平成25年5月25日(土) 14:00~16:00

〈場所〉日生病院別館講堂

〈内容〉第1部

講演1:

『糖尿病壊疽にご用心』

(皮膚科 東山真理部長)

講演2:

『今日からできるフットケア』

(看護部 角南ちえこ)

講演3:

『下肢動脈エコーについて』

(臨床検査部 柳川友加)

第2部

『アマチュア落語』

(桂文喬主催落語研究会)

『糖尿病ランチ&セミナー』

〈日時〉平成26年1月31日(金) 12:00~14:30

〈場所〉日生病院別館講堂

〈内容〉第1部 ヘルシー弁当の試食会

第2部

講演1:

『ヨーグルトと健康~病気に負けない体
 を作る!~乳酸菌の多糖体』

(明治株式会社食品開発研究所

染原智晶氏)

講演2:

『糖尿病最近の話題

~インスリンの治療を中心に~』

(予防医学センター 住谷 哲医務部長)

3) 糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

『錦会総会』

〈日時〉平成25年10月18日(金) 12:00~15:00

〈場所〉日生病院別館講堂

〈内容〉第1部 糖尿病宅配食の試食会

第2部

講演:

『糖尿病と動脈硬化について』

(予防医学センター 住谷 哲医務部長)

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. 出口暁子, 伊藤有希子, 松村寿美, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 住谷哲, 笠山宗正: 2型糖尿病患者に対する安静時代謝量および身体活動量の測定に基づく指示エネルギー量を用いた栄養指導の有効性. 日生医誌, 41: 84-89, 2013.

学会・研究会発表

1. 住谷 哲, 出口暁子, 森田真也, 宇都佳彦, 出口令子, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史: 未治療2型糖尿病患者における炭水化物摂取量はグリコアルブミン/HbA1c比と相関する. 第110回日本内科学会総会・講演会, 4月, 2013, 東京.
2. 出口暁子, 角南ちえ子, 出口令子, 住谷 哲, 笠山宗正: 持続皮下インスリン注入療法 (CSII) 導入後の食事指導における問題点. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
3. 出口暁子: 高齢者の糖尿病療養指導について. 第13回大阪糖尿病協会指導者研究会 (ODES), 6月, 2013, 大阪.
4. 出口暁子: CSIIを導入した1型糖尿病患者における食事指導の問題点. 第6回糖尿病ライフセミナー, 10月, 2013, 大阪.
5. 出口暁子: きのこを使った献立. 第30回糖尿病協会第30回糖尿病教室, 10月, 2013, 大阪.
6. 出口暁子, 角南ちえ子, 北井宏美, 住谷哲, 笠山宗正: CSIIを導入後1型糖尿病患者の栄養管理. 第18回大阪府栄養士会研究発表会, 3月, 2014, 大阪.

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：湯川雅彦

[消化器内視鏡センター運営委員会]

住谷 哲（予防医学センター医務部長）、森田哲史（消化器・一般外科）、
居平典久（消化器内科）、芳賀宣子（看護師）、森本洋子（患者様サービスG）、
榎本知奈美（看護師）



1. 診療活動

消化器内視鏡センターは、日生病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上をめざしている。消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療をめざしている。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日生病院での検査、加療を行っている。また、安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約いただける便宜をはかり、日本消化器内視鏡指導施設の役割を果たしていく。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・碎石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD tube）

下部消化管内視鏡

軸保持短縮挿入法・診断・治療

上部胃内視鏡検査：2,546件

（2015年4月～2016年3月）

下部内視鏡検査：1,075件

予防医学センター内視鏡室 上部内視鏡検査：1,814件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：内視鏡室の通年での
研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

輸 血 部

スタッフ 輸血管理室長：稲岡正裕
 血液・化学療法内科：川上 学
 中央検査部：内野高裕



1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

i) 担当技師

認定輸血検査技師である内野が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

ii) 責任医師

平成26年度から川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

iii) 輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヶ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績（平成25年度）

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球濃厚液（RCC）	2,293単位
自己血	124単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	194単位
③血漿交換療法におけるFFP	120単位
④アルブミン	2,395単位
血小板濃厚液	6,540 単位

*FFPおよびアルブミンの使用量は、適正とされる基準

$$\text{FFP/RCC比} = (\text{②} - \text{③} / 2) / \text{①} = 0.06 < 0.54$$

$$\text{アルブミン/RCC比} = \text{④} / \text{①} = 0.99 < 2$$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RCC 34単位、FFP 6 単位、PC 10単位

3) 緊急輸血への対応

緊急輸血への対応として、O型(+), A型(+)のRCCの院内在庫を常備している。また、輸血オーダー日に使用されなかった血液製剤については、翌日午前9時を期限としてオーダー・キャンセルとし、緊急輸血に使用できるようにしている。このシステムを実現する目的で、中央検査部の協力を得て、検血の検査結果が午前8:30に出るようにしている。

4) 今後の予定

i) 血液製剤オーダーの電子化

平成26年5月より新電子カルテ導入に伴って血液製剤のオーダーが電子カルテでのオーダーに変更される。それに伴い、院内で採取した末梢血幹細胞などもバーコードで管理することとなる。

ii) 輸血前の血液型検査について

従来、輸血前の血液型検査は1回でよいとしていたが、検体とり違いに伴う異型輸血の危険性を軽減する目的で、異なる時点の2検体で二重チェックを行うこととした。

iii) 輸血後感染症検査

従来から、輸血後感染症検査の伝票（ピンク色）を、輸血施行後に患者さんに渡していた。そして、輸血実施3ヶ月後を目処に、患者さん自身がその伝票を採血室に提出し、検査が行われるシステムをとっていた。今後は、その伝票を外来診察時に主治医に渡し、主治医が電子カルテで検査のオーダーを行うシステムに変更する。この変更により、検査の実施率が向上するかどうかについて、検討する予定である。

iv) 輸血療法マニュアルの改訂

上記の変更点を含めて、改訂を進めている。

4. その他

i) 輸血教育講演会（年1回）

平成26年度1月30日に大阪府赤十字血液センター・医薬情報課・矢野真紀さんを講師にお迎えし、実施した。

外来化学療法室

スタッフ 室長：中川雅史

看護師：島山明子（がん化学療法看護認定看護師）、大島千春



1. 診療内容

外来通院での抗がん剤治療、抗癌作用を期待してのホルモン剤投与、骨転移に対するビスフォスホネート投与、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤など専用療室として運用、外来化学療法加算を算定している。特に、外科・乳腺外科・婦人科の症例は、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者・家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は自宅で起こった副作用の対処に随時電話相談を受け、速やかに対応をしている。

毎月1回は院内の看護向けに勉強会を開催し、知識と技術の向上を図っている（表1）。

2. 診療実績（図1・2）

利用者件数は23年から緩やかに減少傾向をみとめたが、25年度は横ばいであった。外科、乳腺外科、血液内科、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、消化器内科、呼吸器内科による抗がん剤治療が90%以上を占めた。その他、皮膚科、総合内科のリウマチ、乾癬による生物学的製剤の投与で利用された。件数減少の要因は、経口抗がん剤、乳がん、前立腺がんのホルモン療法の普及、外科症例の半減、入院ベッドを確保する理由で入院での導入を行う症例が増えたこと、などによると推定される。

表1

月	テーマ	人数
5月	がん化学療法投与時の過敏症の看護	12
6月	がん化学療法中の制吐剤の特性を理解した看護	10
7月	がん治療を受ける患者・家族の意思決定への看護	15
8月	がん患者の排便コントロール（主に化学療法中）の看護	12
9月	各論：がん化学療法中の患者のセルフケア支援	7
10月	がん化学療法中の皮膚障害の看護	16
11月	各論：ホルモン療法座位の機序とその看護	10
12月	がん患者の倫理的問題を考える看護とは	16

図1 利用件数の年次推移

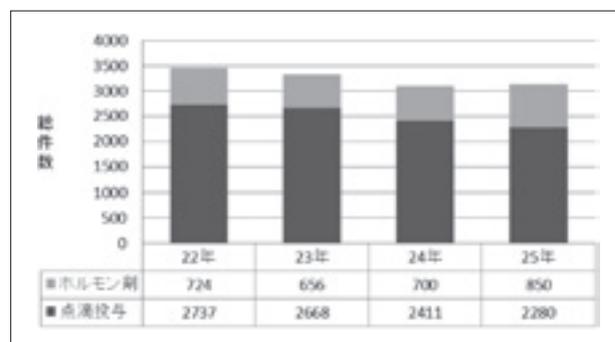
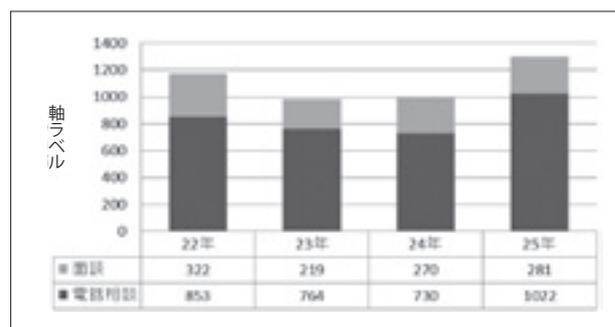


図2 電話相談、面談件数



リハビリテーション室

スタッフ リハビリテーション室長：松井 稔

理学療法士：片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄吾、白川 桂

作業療法士：杉本扶美



1. 診療内容

各診療科からリハビリの依頼を受け、身体機能の向上を目標に、理学療法士と作業療法士が連携し合いながら最良のリハビリテーション医療を提供してきた。リハビリテーションの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・がん疾患の患者さんを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器疾患は関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、運動器の悪性腫瘍、運動器不安定症などの患者さんが対象となり、平成25年度の年間実績は17,374件あった。脳血管疾患は脳梗塞、脳出血、多発性神経炎（ギランバレー症候群等）、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの脳血管疾患の患者さんが対象となり、平成25年度の年間実績は2,336件あった。呼吸器疾患は肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、食道癌、胃癌、肝臓癌、咽・喉頭癌等の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者さんに対して行い、平成25年度の年間実績は1,483件あった。がん疾患のリハビリテーションはがんやがんの治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動器の低下や生活機能の低下予防・改善することを目的として行い、平成25年度の年間実績は223件あった。

急性期の患者さんだけでなく、長期入院患者さんに対しても継続的なリハビリを行い、ADLの改善・維持を目標に実施した。

休日による身体能力の低下を防止するために、早期リハビリ対象患者さんを中心に、ベットサイドでの休日リハビリを実施し、集中的な継続したリハビリを提供した。

予防医学におけるリハビリの役割の重要性を積極的に啓蒙し、糖尿病センターからの糖尿病患者さんに対する運動機能の評価を行い、個々に応じたオーダーメイドの運動指導を行いながらその普及に努めた。

チーム医療においては、リハビリカンファレンスを

定期的に開催したり、緩和ケアカンファレンスへの参加を行ったり、糖尿病ケアチームでは糖尿病ふれあい教室において「運動療法について」のセッションを担当し、他職種との連携を図りながらリハビリとしての役割を發揮した。

リハビリの質向上においては、整形外科回診やNST回診に同行したり、抄読会にも参加し、最新の情報収集を行いながら知識向上に努めた。

院外での講習会や研修会にも積極的に参加し、会得した技能や知識を伝達講習してスタッフ間で共有した。学術発表においては日生医誌に投稿するとともに、院外においても積極的に発表し情報発信を行った。

退院後の自宅生活について不安を抱いている患者さんに対して、退院前に自宅を訪問し、手すりなどの環境整備や動線の指導を行いながら不安を解消し、退院がスムーズに行えるよう支援した。

リハビリ養成校から実習生を協力的に受け入れ、臨床での実習を通じて後輩の育成に努めるとともに、養成校との密な連携を図りながら、実習教育活動の体制を整備した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料

3. 論文・学会発表など

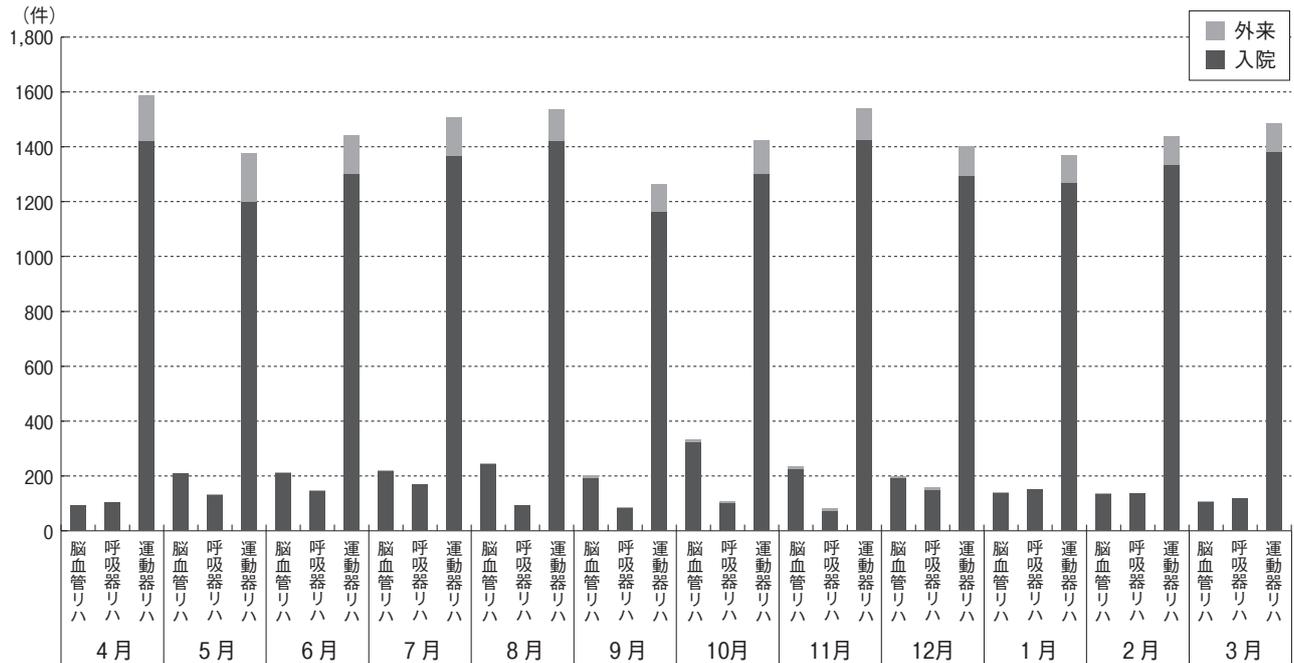
論文発表

1. 藤岡栄悟, 片岡宏一郎, 小倉敬子, 麦田盛穂, 外山晶代, 廣田将史, 田中 孝, 白川 桂, 稲岡正裕: 退院前訪問を実施することで、退院への不安を解消させることができた1症例. 日生医誌, 41: 43-49, 2013.

学会・研究会発表

1. 白川 桂: 人工股関節全置換術後, インソールパッドによる足部への介入が, 股関節機能再建に有効であった1症例. 大阪市南ブロック新人症例発表会, 3月, 2014, 大阪.

図1 平成25年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ件数



	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ															
入院	94	103	1,420	208	128	1,198	209	145	1,299	215	168	1,364	241	93	1,420	192	82	1,161
外来	0	0	167	0	4	177	3	1	144	6	1	144	4	0	118	10	4	104

	10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ															
入院	321	100	1,300	225	72	1,423	192	147	1,293	135	152	1,267	132	136	1,331	105	118	1,378
外来	12	8	122	10	8	118	7	13	108	7	0	102	6	0	108	2	0	108

中央臨床検査部

スタッフ 部長：小瀬戸昌博、技師長：水口洋一

(1) 検体Ⅰ部門（責任者：吉田隆則）：生化学・免疫、血液・凝固、輸血
吉田隆則、天野精子、内野高裕、倉本訓子、松谷憲一、玉川雄一、
（伊山 修）、（池田久美）

(2) 検体Ⅱ部門（責任者：藤田育子）：細菌、病理、外来（一般）

水口洋一、坂本美智代、藤田育子、角田道久、大嶽雄也、小林美香、石倉果林、片山愛里

(3) 生理部門（責任者：大西 龍）：循環器、超音波、肺機能、脳波、筋電図、耳鼻科

大西 龍、藤井ゆう子、古川浩司、柳川友加、森本 梓、金丸麻美、大澤由布子、（中尾やす子）
予防医学センター配属：篠田和子、大黒慶子、近藤直子

(4) 臨床工学部門

加藤千尋、三木和美、岡崎浩也



1. 検査体制

中央臨床検査部は臨床検査部門と臨床工学部門を有し、下記各部門に編成し業務の共有化、効率化に取り組んでいる。

●臨床検査部門

- ・検体Ⅰ部門【生化学、免疫、血液、凝固、（輸血）】
- ・検体Ⅱ部門【細菌、病理、外来（一般）】
- ・生理部門【超音波、循環器、肺機能、脳波、筋電図、耳鼻科】

臨床検査部門では、全体で宿日直、採血を担当し、また各種チーム医療にも参加している。

●臨床工学部門

- ・臨床工学部門【機器管理、透析、心カテ、手術室、他】

2. 特色

質の高い検査結果を得るための精度管理に力を注ぎ、日本医師会・大阪府医師会・日本臨床衛生検査技師会の精度管理調査に40年間にわたり参加し、常に優秀な成績を収めている。

検査の迅速報告に対しても、検体到着後30分以内（生化学検査）での結果報告を目指し取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、時間外緊急検査の充実に取り組んでいる。

輸血検査から血液製剤管理までの輸血業務を安全かつ迅速に行う輸血管理体制にも対応している。

3. 論文・学会発表など

論文発表

1. 小瀬戸昌博：関節リウマチ～不治の病から治る病気へ①. 日本生命 CLUB STARS メディカルレポート, 1: 1-8, 2013.
2. 小瀬戸昌博：関節リウマチ～不治の病から治る病気へ②. 日本生命 CLUB STARS メディカルレポート, 2: 1-8, 2013.

学会・研究会発表

1. 川崎貴裕, 加藤保宏, 福井 潤, 森田貴義, 小林久美子, 小瀬戸昌博, 藤原弘士：後腹膜・殿筋内・上腕筋

内の動脈性出血をきたしたSLEの1例. 第57回日本リウマチ学会総会・学術集会, 4月, 2013, 京都.

2. 藤本康介, 清水 綾, 出口令子, 宇都佳彦, 森田真也, 鈴木真優美, 三木俊治, 佐藤文三, 笠山宗正, 小瀬戸昌博：間質性肺炎で発見された抗Synthetase症候群の1例. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 5月, 2013, 横浜.
3. 三木和美, 加藤千尋, 花田留美, 川原玲子：KM-CARTのアルブミン回収率向上のための工夫. 第18回日本緩和医療学会学術大会, 6月, 2013, 横浜.
4. 大嶽雄也, 石倉果林, 水口洋一, 石田英和, 小西 登：診断に苦慮した乳腺oncocytic (mitochondria-rich) carcinomaの1例. 第54回日本臨床細胞学会春季大会, 6月, 2013, 東京.
5. 古川浩司, 大澤由布子, 金丸麻美, 森本 梓, 柳川友加, 大西 龍：非対称性の融合腎同定にドプラーが有用であった1例. JSS関西 第20回地方会学術集会, 9月, 2013, 神戸.
6. 古川浩司, 大澤由布子, 金丸麻美, 森本 梓, 柳川友加, 大西 龍：馬蹄腎峡部に発生した腎細胞癌の1例. 平成25年度（第53回）日臨技近畿支部医学検査学会, 10月, 2013, 福井.
7. 新居卓朗, 小瀬戸昌博, 仁科周平, 早川友朗, 北井宏美, 宇都佳彦, 森田真也, 高橋 良, 住谷 哲, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正：前立腺癌, 高血圧症, 腹部大動脈瘤にて外来治療中, 突然の下肢浮腫が出現し紹介された88才男性. 第49回 O.I.D.カンファレンス, 8月, 2013, 大阪.
8. 大嶽雄也, 石倉果林, 水口洋一, 城光寺龍, 小西 登：顎下腺に発生した多形腺腫由来癌の1例. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会, 11月, 2013, 大阪.
9. 小瀬戸昌博：『関節リウマチの話～関節の痛みが気になる方へ～』. 第1回 日本生命済生会（日生病院）市民健康セミナー, 3月, 2014, 大阪.
10. Miki K, Kato C, Hanada R, Honsyo I, Tamai Y, Yamasaki K, Okuno S, Kawahara R：Albumin recovery improvement by our modification of KM-cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy(CART)for refractory malignant ascites. 2nd Asian Congress on Pain, 3月, 2014, 台湾, 台北.

平成25年度 検査件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
外来検査室	尿	15,207	17,169	15,333	16,881	16,035	15,516	17,320	15,309	15,521	15,338	15,024	15,470	190,123
	糞便	1,147	1,447	1478	1,556	1,519	1,346	1,675	1,693	1,452	1,185	1,260	1,286	17,044
	計	16,354 (17,383)	18,616 (19,063)	16,811 (18,903)	18,437 (19,728)	17,554 (19,844)	16,862 (17,798)	18,995 (19,671)	17,002 (18,996)	16,973 (17,783)	16,523 (17,968)	16,284 (16,056)	16,756 (16,029)	207,167 (219,222)
化学検査室	化学・血清	151,645	158,894	139,234	158,334	148,265	139,532	160,796	140,810	140,827	143,128	136,894	145,126	1,763,485
	輸血	174	234	167	194	203	122	155	153	241	196	172	188	2,199
	尿化学	752	810	707	845	903	639	844	712	806	756	831	942	9,547
	リコール髄液	154	158	148	137	147	144	150	151	185	168	137	133	1,812
	止血他	2,477	2,997	2,151	2,678	2,725	2,390	2,775	2,585	2,358	2,503	2,519	2,670	30,828
	計	155,202 (149,337)	163,093 (159,730)	142,407 (150,136)	162,188 (161,317)	152,243 (162,830)	142,827 (146,721)	164,720 (166,909)	144,411 (154,392)	144,417 (150,073)	146,751 (152,631)	140,553 (140,663)	149,059 (149,386)	1,807,871 (1,844,125)
細菌検査室	一般細菌	6,079	7,224	5,812	7,397	6,774	7,092	6,201	5,473	6,533	6,503	5,571	6,938	77,597
	抗酸菌	198	231	170	239	290	273	317	317	208	310	274	315	3,142
	計	6,277 (5,665)	7,455 (7,117)	5,982 (6,094)	7,636 (7,088)	7,064 (6,619)	7,365 (5,816)	6,518 (6,125)	5,790 (6,396)	6,741 (5,218)	6,813 (5,547)	5,845 (5,920)	7,253 (5,701)	80,739 (73,306)
血液検査室	血色素量他	43,895	45,714	40,808	46,182	44,236	41,001	52,299	41,482	41,466	41,404	39,994	42,719	521,200
	特殊検査	40	50	44	45	33	51	40	32	35	44	27	26	467
	計	43,935 (42,788)	45,764 (45,361)	40,852 (42,563)	46,227 (46,127)	44,269 (46,587)	41,052 (42,566)	52,339 (48,811)	41,514 (45,114)	41,501 (43,333)	41,448 (43,764)	40,021 (40,307)	42,745 (42,845)	521,667 (530,166)
合計	223,511 (216,856)	236,734 (233,015)	207,805 (219,356)	236,416 (235,989)	223,098 (237,733)	209,745 (214,447)	244,531 (243,273)	210,381 (226,683)	211,424 (217,940)	213,164 (221,584)	204,228 (204,399)	217,279 (215,455)	2,638,316 (2,686,730)	
剖検	2(1)	3(4)	1(2)	0(0)	1(2)	2(0)	1(0)	1(0)	2(0)	1(0)	2(2)	3(3)	19(14)	

() 内前年同月

生理検査関係件数

A. 脳波関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
脳波	22	27	28	28	26	12	11	14	13	15	15	18	229	264
筋電図他	5	7	11	10	10	13	6	4	5	7	8	14	100	122
計	27	34	39	38	36	25	17	18	18	22	23	32	329	386

B. 超音波検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
甲状腺	40	35	38	38	45	35	36	38	33	22	25	27	412	341
乳腺	7	1	9	2	2	4	3	2	4	2	2	3	41	41
腹部	298	291	230	313	307	254	332	272	290	305	292	351	3,535	3,505
その他	2	1	0	2	2	1	7		0	2	5	3	25	51
計	347	328	277	355	356	294	378	312	327	331	324	384	4,013	3,938

C. 生理検査室

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
心電図	920	924	748	866	797	782	854	832	721	773	879	951	10,047	10,374
トレッドミル	21	18	14	19	18	24	36	21	13	25	14	15	238	290
負荷心筋シンチ	1	2	4	5	2	2	3	4	4	2	3	4	36	49
持続心電図	29	29	28	20	23	19	26	18	24	22	17	11	266	274
心エコー	233	229	213	216	211	188	231	201	219	213	192	200	2,546	2,402
末梢血管エコー	92	95	80	68	102	87	112	103	99	85	86	101	1,110	1,044
肺機能	163	189	147	181	161	158	166	161	135	180	177	149	1,967	1,839
ABI	72	52	43	50	64	41	71	68	46	73	75	70	725	1,035
計	1,531	1,538	1,277	1,425	1,378	1,301	1,499	1,408	1,261	1,373	1,443	1,501	16,935	17,307

D. 耳鼻科（平衡、聴力）検査関係

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
平衡機能検査	101	89	75	148	85	106	48	69	62	66	73	54	976	771
聴力機能検査	194	155	152	170	163	120	176	165	141	168	149	175	1,928	2,244
その他	0	2	3	9	3	2	2	0	0	0	4	0	25	28
計	295	246	230	327	251	228	226	234	203	234	226	229	2,929	3,043

栄 養 管 理 室

スタッフ 栄養管理室長：道清 勉（外科部長兼任）
担当課長：出口暁子



非常勤スタッフ：松村寿美、大平百合子（6月～）

1. 診療内容

栄養管理室では、生活習慣病をはじめとする食事療法を必要とする多くの疾患の個別食事指導を中心に、入院患者さまには栄養管理計画書の作成を行い、食事提供を通して栄養管理をすることで疾患の改善目的で栄養治療を行っている。

また、栄養サポートチームを通じて、低栄養の改善、食事内容の見直しや栄養補給法について、個々に対応したチーム医療を行っている。

外来（在宅）の患者さまでは、食事療法の継続が重要なために個別食事指導の継続的な指導も行っている。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

栄養指導室で入院個別指導および外来個別指導を、糖尿病センターで外来個別指導と集団栄養指導を行った。

2) 病棟体制（表2）

各病棟を担当制として、自己の受け持ち病棟の対象者を中心に食事指導を行った。

3. 診療実績

4月～6月はスタッフの入れ替わりにより、スタッフ数の減少による指導件数も減数となる。

1) 外来個別食事指導実績（表3）

糖尿病センターでの指導件数を含む。

2) 入院個別食事指導実績（表3）

3) 集団食事指導件数（表3）

4) 診療科別個別指導実績（表4）

5) 入院食事提供実績（表5）

6) NST活動実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	9	25	14	23	16	13	21	15	19	9	15	13	50

黄Drの退職により、25年1月より回診は居平Drと

森田Drが交代でラウンド継続。

・NST勉強会：

平成25年11月1日「栄養管理の基本」

講師：黄Dr 参加者：11名

・新人看護職員研修：

平成25年12月4日「栄養評価」

講師：黄Dr

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会

日本静脈経腸栄養学会

日本褥瘡学会

日本栄養改善学会

日本栄養士会

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士

大阪糖尿病療養指導士

介護支援専門員

健康運動指導士

調理師

5. 論文・学会発表など

論文発表

1. 出口暁子, 伊藤有希子, 松村寿美, 角南ちえ子, 井上恵子, 川瀬俊子, 住谷 哲, 笠山宗正：2型糖尿病患者に対する安静時代謝量および身体活動量の測定に基づく指示エネルギー量を用いた栄養指導の有効性. 日生医誌, 41：84-89, 2013.

学会・研究会発表

1. 出口暁子, 角南ちえ子, 出口玲子, 住谷 哲, 笠山宗正：持続皮下インスリン注入法（CSII）導入後の食事指導における問題点. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
2. 出口暁子：高齢者の糖尿病療養指導についてパネラーとして講演依頼受託. 第13回大阪糖尿病協会指導者研修会（ODES）, 6月, 2013, 大阪.

3. 出口暁子：CSIIを導入した1型糖尿病患者における食事指導の問題点. 第8回糖尿病ライフセミナー, 10月, 2013, 大阪.
4. 出口暁子：第30回平成25年度糖尿病協会患者対象糖尿病料理教室の調理実習指導担当受託. 大阪糖尿病協会 顧問栄養士会, 10月, 2013, 大阪.
5. 出口暁子, 牧 秀美, 大野典子, 阿部恭子, 井澤万詠,

- 林ゆかり, 中村綾乃, 八尾みゆき, 早川友朗, 黄 泰平：NST介入によるチーム医療で経腸栄養と経口摂取併用の栄養管理が可能となった1例. 第17回日本病態栄養学会学術年次集会, 1月, 2014, 京都.
6. 出口暁子, 角南ちえ子, 北井宏美, 住谷 哲, 笠山宗正：CSIIを導入した1型糖尿病患者の栄養管理. 第18回大阪府栄養士会研究発表会, 3月, 2014, 大阪.

表1 個別食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	松村	出口	松村	大平	3名
午後	松村	出口	大平	大平	3名

表2 担当病棟

病棟	3階	4階西	4階東	5階西	5階東	6階西	6階東
担当	松村	大平	大平	松村	出口	出口	出口

表3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	平均
外来個別	31	37	30	46	41	36	40	35	33	38	38	45	450	38	386	32
DMセンター	57	66	57	77	79	63	89	70	78	77	78	86	877	73	559	47
外来個別																
DM透析予防	2	0	1	3	5	13	10	11	5	12	9	9	80	7	23	2
入院個別	66	54	73	62	79	61	74	80	75	65	71	73	833	69	932	78
集団	4	6	11	6	10	4	6	8	6	5	10	7	83	7	88	7
合計	160	163	172	194	214	177	219	204	197	197	206	220	2,323	194	1,988	166

疾患別個別栄養指導件数（集団指導含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	平均
胃腸病	6	3	1	6	2	2	4	10	2	2	5	0	43	4	29	2
肝臓病	5	3	6	8	3	11	4	5	6	9	6	7	73	6	85	7
糖尿病	95	103	95	125	134	116	138	112	120	123	127	143	1,431	118	1,139	95
腎臓病	8	5	9	7	8	3	6	6	7	7	10	7	83	7	111	5
高血・心臓・高脂	38	37	44	35	50	36	50	50	44	43	38	50	515	43	567	9
肥満症	0	0	2	0	2	1	1	2	0	1	1	2	12	1	3	0
術後食	0	0	2	4	2	1	2	4	3	1	1	0	20	2	5	0
膵臓食	3	4	0	2	1	2	7	6	5	6	6	3	45	4	0	0
その他	1	2	2	1	2	1	0	1	4	0	2	1	17	1	39	3
計	156	157	161	188	204	173	213	196	191	192	196	213	2,239	186	1,978	121

表4 診療科別個別栄養指導実績 (DMセンター・集団含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	28	26	29	19	36	32	31	31	33	29	30	30	354	30
消化器内科	11	10	12	20	10	8	8	14	14	16	14	10	147	12
総合内科	41	31	39	35	39	32	44	28	32	28	32	44	425	35
血液内科	0	1	2	6	4	4	1	4	2	2	3	1	30	3
精神科	2	2	4	2	0	1	0	1	0	0	1	2	15	1
消化器外科	2	4	2	5	2	3	10	14	4	3	6	4	59	5
整形外科	1	2	0	1	3	2	4	7	3	5	2	5	35	3
皮膚科	4	3	3	1	3	1	3	0	1	3	5	4	31	3
泌尿器科	0	3	1	1	0	0	0	1	3	1	2	1	13	1
産婦人科	5	9	9	12	14	10	8	9	10	12	12	13	123	10
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	0
神経内科	3	0	2	5	8	4	4	5	4	4	2	4	45	4
その他	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	4	0
合計	97	91	103	108	120	97	114	115	108	103	109	118	1,283	107

表5 患者給食数

患者給食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年累計
常食	8,941	8,455	9,074	8,916	9,323	8,850	9,483	8,481	8,155	8,551	8,284	8,603	105,116	97,491
軟菜食	4,010	3,738	3,953	4,783	3,858	5,753	6,774	7,142	7,406	6,879	7,098	4,494	65,888	143,627
特食	7,094	6,799	7,377	7,635	7,575	4,104	4,736	4,916	5,136	4,790	4,935	7,628	72,725	97,491
合計	20,045	18,992	20,404	21,334	20,756	18,707	20,993	20,539	20,697	20,220	20,317	20,725	243,729	241,118
調乳本数	2,560	2,150	2,930	2,420	2,638	2,334	2,702	2,364	2,066	2,210	1,561	2,848	28,783	27,295

錦会〈糖尿病患者会〉 5月25日…公開セミナー 参加人数 50人
 11月31日…錦会総会及び宅配食の試食会 参加人数 7人
 1月31日…ランチ&セミナー 参加人数 試食数 24人

診療情報管理室

スタッフ 室長：黒田昌男（副院長）
室員：宮本浩樹（診療情報管理担当）
津野百合香（ ）
山本貴子（ ）
小田 弓（医師事務作業補助担当）



1. 業務内容

当室の業務は、平成17年5月の電子カルテ導入により、紙媒体の診療録を管理する「物を管理する業務」から「情報を管理する業務」へ大きく変遷した。当室では、既に昭和60年より入院診療録のシステム管理を行っており過去30年間の入院診療録の情報が抽出できると共に入院診療録紙カルテを管理している。入院診療録の傷病情報管理には国際疾病分類（ICD）を導入しており、ICDの分類情報を基に診療情報の提供を行っている。診療情報の提供は当院勤務者であれば退職後も所定の手続後に利用できる。

平成25年度は4月よりNCD登録業務、平成26年1月より周産期登録業務と新たな業務に取り組んだ。業務実施に際し、担当科医師と何度も運用を検討し随時指導を受け業務を確立した。

主な業務内容は以下の通り

- 1) 診療情報管理業務
 - A. 診療録管理関連業務
 - B. 診療情報管理システム登録業務
 - C. 退院サマリ関連業務
 - D. カルテ監査業務
 - E. 診療情報提供業務
 - F. 医療の質指標作成業務
 - G. 診療情報統計に関する業務
- 2) 院内がん登録業務
 - A. 院内癌登録業務
 - B. 地域がん登録業務
- 3) DPC/PDPSに関する業務
 - A. 傷病名精度管理業務
 - B. 調査データ提出業務
- 4) 医師事務作業補助業務
 - A. NCD登録業務
 - B. 周産期登録業務
 - C. 診断書作成補助業務

情報の利用には適切な管理が必要なことはもちろん

のこと、情報の精度管理も並行して行わなければならない。平成26年度は2つのシステム運用で対応していた院内がん登録システムを統合し情報利用を促進する。また、電子カルテリプレイス後にオーディット導入し精度向上に向けて鋭意努力する。その他、数年内に実施されるICDの改訂対応に対して十分な対策を講じたいと考えている。

2. 業務実績

診療録利用件数

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
233	171	158	233	121

情報利用件数

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
42	52	35	60	64

癌登録件数

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
743	519	1,246	689	401

カルテ量的監査

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
6,778	7,377	7,150	7,491	7,435

5. 利用システム

大阪府がん登録システムVer2.1
Hos-CanR Ver3.0
診療録管理システム（WBS）
Kai（亀田医療情報）
HonestV 9（ソフトマックス）
CodeFinder（NIT）
MEDI-ARROWS（NIT）
MEDI-Papyrus（NIT）

4. その他

診療録管理体制加算取得
診療録管理士有資格者 4名

薬 剤 部

スタッフ 薬剤部長：畑中勝義
薬剤部長代理：野村浩英
主 査：池田久雄、乾有希子、吉岡 亮、森真由子
主 任：宮麻紀子、平田貴宏、牧 秀美、松田敦子（～7月）
薬剤師：瀧川奈央、六車裕一
パート薬剤師：辻 俊美、中野静香、松元麻美
事務員：岩城淳子



1. 診療内容

当薬剤部は調剤、病棟業務を主とし、医薬品の適性使用、チーム医療へ参画に取り組んできた。昨年に引き続き1病棟に1薬剤師を配置し週20時間以上の病棟業務を行った。院内の医薬品について医薬品安全管理者を設置し院内講演を行い、DIニュースを定期的に発行するなど薬剤の適性使用を図っている。ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などチーム医療にも参加し医薬品の安全使用を図った。

経済効果の取り組みとしてジェネリック薬品の導入を推進し数量ベースで60%の使用率を目標とした。結果（H24年10月～H25年9月）ジェネリック薬品使用率は40%台に止まった。引き続きジェネリック薬品使用率の向上を図る。

癌化学療法レジメンの導入と円滑な運用を行った。レジメンチェック、抗癌剤の混注などにより癌化学療法上の安全性の確保に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り採用品目数は増減なくほぼ前年度並になっている。薬品購入金額、在庫薬品金額は高額な新薬の採用増加のため、前年度と比べ10%程度増加している。

平成26年5月電子カルテ入れ替えに伴い、新システムの検討、システムの運用について検討を進めた。薬品マスターファイル、レジメン管理システムの構築など基本的なデータベースの作成を行っている。

医療外業務として薬学部学生の病院実務実習3ヶ月間3期、1期4名を受け入れた。

2. 業務体制

1) 人員配置

人員：薬剤師15名（パート3名を含む）、事務員1名
配置：調剤・製剤業務7名、薬剤管理指導業務7名
治験管理室（事務局）1名
薬品管理 事務員1名

2) 病棟体制

薬剤師7名を配置
薬剤管理指導件数 650件/月
薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施している。

3) 薬剤部内体制

薬剤師8名、事務員1名を配置
調剤業務5名、製剤室1名、DI（薬品情報室）1名
治験管理室1名、薬品管理1名（事務員）

3. 活動内容

1) 日常業務

外来処方箋枚数 87枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数 154枚/日
服薬指導件数 584件/月（薬剤管理指導業務）
抗癌剤調製件数 174件/月

2) 院内学術活動（講演）

ニッセイ医学セミナーUpdate（院内製剤について）
院内感染対策教育講演（消毒薬について）
医療安全講演会（医薬品安全管理について）

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報）12通
薬ニュース2通

4. 論文・学会発表など

論文発表

- 川原玲子, 小山佐知, 吉岡 亮, 平田貴宏, 畑中勝義：
緩和ケア・周術期における漢方薬投与の実践例 ①
がん患者の状態・症状にあわせた漢方薬投与の実践。

薬局, 64 : 95-101, 2013.

学会・研究会発表

1. 池田久雄, 平田貴宏, 野村浩英, 乾有希子, 吉岡 亮, 瀧川奈央, 畑中勝義 : 日生病院の抗菌薬使用量の特徵 - 全国との比較 -, 第23回日本医療薬学会年会, 9月, 2013, 宮城.
2. 乾有希子, 野村浩英, 池田久雄, 森真由子, 平田貴宏, 宮麻紀子, 牧 秀美, 松元麻美, 畑中勝義 : 産婦人科単科病棟での病棟薬剤業務とその変化について, 第23回日本医療薬学会年会, 9月, 2013, 宮城.
3. 野村浩英, 森真由子, 宮麻紀子, 松元麻美, 牧 秀美, 平田貴宏, 吉岡 亮, 乾有希子, 池田久雄, 畑中勝義 : 頭頸部癌における分子標的薬の副作用評価. 第23回日本医療薬学会年会, 9月, 2013, 宮城.
4. 六車裕一, 野村浩英, 池田久雄, 乾有希子, 吉岡 亮, 森真由子, 宮麻紀子, 瀧川奈央, 辻 俊美, 松元麻美, 畑中勝義 : がん化学療法オーダの薬剤師による承認体制の評価. 第23回日本医療薬学会年会, 9月, 2013, 宮城.

薬剤関係件数

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計		
処方箋	外来	枚数	1,661	1,951	1,661	2,065	1,935	1,706	1,815	1,813	1,631	1,701	1,675	1,706	21,320	21,507	
			件数	1,784	2,075	1,777	2,185	2,023	1,811	1,947	1,954	1,779	1,846	1,806	1,847	22,834	23,069
		1日当り	枚数	69	108	76	98	88	85	91	91	82	85	84	85	1,042	1,050
			件数	74	115	81	104	92	91	97	98	89	92	90	92	1,116	1,126
	入院	総数	枚数	4,402	4,367	4,386	4,505	4,704	4,136	4,597	5,114	4,638	4,540	4,561	4,877	54,827	55,731
			件数	8,074	8,011	7,848	8,015	8,684	7,558	8,503	9,048	8,436	8,187	8,347	8,970	99,681	99,497
		1日当り	枚数	147	141	146	145	152	138	153	170	150	146	163	157	1,809	1,839
			件数	269	258	262	259	280	252	283	302	272	264	298	289	3,288	3,282
注射	入院	総数	枚数	6,236	6,533	5,942	6,651	6,388	6,441	6,374	6,390	6,267	5,989	5,488	6,009	74,708	75,297
		1日当り	枚数	208	211	198	215	206	215	212	213	202	193	177	194	2,444	2,484

摘 要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定	584	646	643	614	692	541	605	621	574	548	612	630	7,310	7,295
抗癌剤混合調剤件数 (外来化学療法)	192	201	176	205	154	152	181	179	154	166	166	149	2,075	2,243
(入院化学療法)	93	68	69	69	58	73	77	82	79	110	135	109	1,022	1,148
TPN調製件数	35	53	42	34	21	84	60	12	34	20	26	103	524	1,219

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計	
麻薬処方箋	外来	内 用	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	1	7	14	
		外 用	4	3	4	4	8	4	5	4	3	4	3	5	51	49
		注 射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
	入院	内 用	91	108	98	91	100	101	98	95	109	100	112	135	1,238	989
		外 用	60	38	47	45	36	16	17	26	21	66	58	23	453	539
		注 射	166	192	168	164	196	126	159	159	133	182	177	163	1,985	2,028

製剤室

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
製 剤	件数	463	490	486	484	463	487	493	490	504	512	490	509	5,871	5,535
無菌製剤	件数	200	174	191	210	217	229	230	214	201	229	193	229	2,517	2,527

治 験 管 理 室

スタッフ 室 長：江川 功

事務局：瀧川奈央（薬剤師）、橋本由美（ソラスト）

CRC：谷口真理子（看護師）



1. 計画事項とその執行状況

1) 治験事務局業務

- ・ 日生病院治験審査委員会標準業務手順書の改定
- ・ 製造販売後調査、医師主導研究のCRC依頼マニュアルの作成
- ・ 各医薬品会社への治験打診

2) 臨床研究コーディネーター（CRC）業務

- ・ 外部CRC対応マニュアル及びCRC業務マニュアルの改定
- ・ 製造販売後調査、医師主導研究の受け入れ幅拡大
- ・ 大阪医薬品協会 治験推進プロジェクトメンバー参加

2. 実績

治験審査委員会（IRB） 12回開催

倫理委員会 9回開催

1) 平成25年新規受託契約課題 13件

- ・ 慢性疼痛患者を対象としたS-8117のオープンラベル試験
(麻酔・緩和医療科 川原部長)
- ・ 間歇性跛行を伴う閉塞性動脈硬化症患者を対象としたNS-304の用量探索試験
(前期第Ⅱ相)
(循環器内科 中川副部長)
- ・ M801801の尋常性乾癬に対する第Ⅲ相臨床試験
(皮膚科 東山部長)
- ・ 慢性腰痛症患者を対象としたS-8117のプラセボに対する優越性試験
(麻酔・緩和医療科 川原部長)
- ・ 慢性腰痛症患者を対象としたS-8117の継続投与試験
(麻酔・緩和医療科 川原部長)
- ・ 特発性レストレスレッグス症候群患者を対象としたHP-3000の用量探索試験
(神経科・精神科 江川部長)
- ・ DS-7113b第Ⅱ相試験、がん疼痛患者を対象としたDS-7113b効力比検討試験

(麻酔・緩和医療科 川原部長)

- ・ DS-7113b 第Ⅲ相試験、オピオイド非使用のがん疼痛患者を対象としたオキシコドン即放性製剤との無作為化二重盲検比較試験

(麻酔・緩和医療科 川原部長)

- ・ オピオイド誘発性の便秘症を有するがん患者を対象としたnaldemedineの第3相臨床試験二重盲検並行群間比較試験

(麻酔・緩和医療科)

- ・ オピオイド誘発性の便秘症を有するがん患者を対象としたnaldemedineの第3相臨床試験継続投与試験

(麻酔・緩和医療科 川原部長)

- ・ KHK4827第Ⅲ相臨床試験

(局面型皮疹を有する乾癬（尋常性乾癬、関節症性乾癬）患者、膿疱性乾癬（汎発型）患者及び乾癬性紅皮症患者を対象とした継続長期投与試験）

(皮膚科 東山部長)

- ・ オピオイド誘発性の便秘性を有する非がん性の慢性疼痛患者を対象としたnaldemedineの第3相臨床試験、オープンラベル試験

(麻酔・緩和医療科 川原部長)

- ・ がん疼痛患者を対象としたオピオイド鎮痛薬からNZL-228への治療切替試験

(麻酔・緩和医療科 川原部長)

2) 前年からの継続実施課題 11件

- ・ 乾癬の長期維持療法としてsecukinumabの固定間隔投与と再発開始時投与を比較検討する試験（SCULPTURE）」

(皮膚科 東山部長)

- ・ JNS020QDの慢性疼痛患者を対象とした第Ⅲ相試験

(麻酔・緩和医療科 川原部長)

- ・ 低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438（10mg、20mg）の第3相二重盲検比較試験（CCT-302）

(消化器内科 中村センター長)

- ・低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第3相長期継続投与試験 (OCT-302) (消化器内科 中村センター長)
 - ・AS-3201の糖尿病性末梢神経障害患者を対象としたプラセボ対照二重盲検群間比較試験 (第三相試験) (総合内科 笠山院長)
 - ・中等症から重症の局面型皮疹を有する乾癬患者および関節症性乾癬患者を対象としたCP-690、550の経口2用量長期投与時の安全性、忍容性および有効性を検討する多施設共同第Ⅲ相無作為化二重盲検比較試験 (皮膚科 東山部長)
 - ・中等症から重症の日本人乾癬患者を対象としたLY2439821の有効性及び安全性を評価する多施設共同非盲検長期投与試験 (皮膚科 東山部長)
 - ・Secukinumabの固定間隔投与又は再発開始時投与を受けた中等症又は重症の局面型皮疹を有する乾癬患者を対象に、プレフィルドシリンジを用いたsecukinumab皮下投与の長期安全性、忍容性及び有効性を評価する二重盲検グループ及びオープンラベルグループから構成される、2年間の多施設共同継続投与試験 (皮膚科 東山部長)
 - ・KHK4827第Ⅱ相臨床試験 (局面型皮疹を有する乾癬患者を対象としたプラセボ対照無作為化二重盲検比較試験) (皮膚科 東山部長)
 - ・KHK4827第Ⅲ相臨床試験 (局面型皮疹を有する乾癬患者を対象とした長期投与試験) (皮膚科 東山部長)
 - ・KHK4827第Ⅲ相臨床試験 (膿疱性乾癬 (汎発型) 患者及び乾癬性紅皮症患者を対象とした長期投与試験) (皮膚科 東山部長)
- 3) H25年終了課題 6件
- ・乾癬の長期維持療法としてsecukinumabの固定間隔投与と再発開始時投与を比較検討する試験 (SCULPTURE) (皮膚科 東山部長)
 - ・JNS020QDの慢性疼痛患者を対象とした第Ⅲ相試験 (麻酔・緩和医療科 川原部長)
 - ・低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第3相二重盲検比較試験 (CCT-302) (消化器内科 中村センター長)
 - ・低用量アスピリン長期投与時の胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制における、TAK-438 (10mg、20mg) の第3相長期継続投与試験 (OCT-302) (消化器内科 中村センター長)
 - ・中等症から重症の局面型皮疹を有する乾癬患者および関節症性乾癬患者を対象としたCP-690、550の経口2用量長期投与時の安全性、忍容性および有効性を検討する多施設共同第Ⅲ相無作為化二重盲検比較試験 (皮膚科 東山部長)
 - ・KHK4827第Ⅱ相臨床試験 (局面型皮疹を有する乾癬患者を対象としたプラセボ対照無作為化二重盲検比較試験) (皮膚科 東山部長)
- 4) 製造販売後調査
新規契約 - 34件
終了 - 10件
- 5) 医師主導・自主研究
新規 - 39件
- 今年度も治験件数等は順調に消化できているが、いまだにマンパワーの不足は解決していない。
来年度以降もこの点の改善に対する取り組みを期待したい。
- ### 3. 論文・学会発表など
- 学会・研究会発表
1. 佐野敬子, 岡田正彦, 小林久子, 竹澤正行, 田邊由美, 谷口真理子, 柘植剛史, 松川智洋, 山口崇臣, 松岡悦子: 「施設選定～契約」における医療機関/治験依頼者間の業務量の現状調査. 第13回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 9月, 2013, 千葉.
 2. 谷口真理子, 厚ヶ瀬芳, 岩見弥生, 榎本恭子, 小林久子, 小林慶彦, 坂本朱里, 佐野敬子, 柘植剛史, 森藤由香, 山野高詩, 松岡悦子: CRCとCRAのための『実施医療機関/治験依頼者統一』に関する検討. 第34回日本臨床薬理学会学術総会, 12月, 2013, 東京.

スタッフ 室長：船渡孝郎（副院長、産婦人科部長）
副室長：町田恵子（医療安全管理者）
室員：石坪健治（医事部長）



1. 概要

平成18年医療法、薬事法の改正により、病院に対し医療安全対策の充実が求められた。

当院は、平成12年「医療安全管理委員会」が組織され、本委員会が中心となり、質の高い医療の提供を目指し、日常診療の点検、インシデント・アクシデント事例の共有と対策の立案を行ってきた。また、「医療安全管理マニュアル」を作成し、医療安全に対する意識の向上に努め、さらに専従の医療安全管理者を配置し、組織横断的に活動することで、医療安全管理の組織風土醸成に寄与してきた。

2. 活動内容

平成25年度は、医療安全管理委員会と連携し、麻酔科・手術室・薬剤部と調整することで、手術室の筋弛緩薬管理マニュアルの見直しと、より安全で確実な管理方法・手順を作成した。

転倒・転落事故に対しては、他職種によるカンファレンスの実施を推奨し、早期に対策を講じることができている。しかし、転倒・転落事故を大幅に減少するまでには至っていない。

全職員対象の研修会は2回企画、運営した。

11月29日（金） 17：15～（医療安全週間）

「医薬品の適正管理について～報道事例の共有～」

医薬品安全管理者 野村浩英 薬剤部副部長

「安全管理の観点から見直す基礎知識

～人工呼吸器編～」

コヴィディエン ジャパン（株） 丸林美起 先生

看護師、呼吸療法認定士

94名の参加があり、アンケート結果からは、大変勉強になったが大半であった。

2月28日（金） 17：15～

「医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキル
～スピークアップとリーダーシップ～」

大阪大学医学部附属病院 病院教授

中央マネジメント部 部長 中島和江 先生

今年度の研修は、必須研修の医薬品、ME機器について行い、コミュニケーションスキルアップ研修として、ノンテクニカルスキルのテーマで企画した。テーマの選定において、チーム医療では、各職種がもつ複雑な技術が集約されて行われている。各々の職種の志向性の違いや、職域のすき間もしくは重なり、集団特性等によって、リスクやエラーを検出・指摘・訂正できない場合がある。

安全や質を担保するためには、コミュニケーションやリーダーシップ、意思決定、状況認識などの「ノンテクニカルスキル」の向上が重要となる。職種や経験の壁を越え、チームの一員としてこれらの能力を強化し、実践することが必要と考え決定した。参加者は、145名でアンケート結果からも非常に勉強になったが大半で大盛況のうちに終えることができた。

定期委員会は月一回開催し、事例分析から情報共有を行い、現状の問題から具体的対策を立案し改善に繋ぐ取り組みを行ってきた。また、他職種によるカンファレンスを多く開催することができた。

感 染 対 策 室

スタッフ 感染対策室長：小瀬戸昌博
担当薬剤師：池田久雄
担当検査技師：藤田育子
担当看護師：大野典子



1. 活動内容

感染対策室は感染症の予防と発生時の拡大防止を目標に、院内の感染症の発生や耐性菌の検出を早期に察知し、各部門と連携をとり適正な治療と安全な療養環境が提供できるよう活動を行っている。

具体的には、感染症診療時の抗菌薬や検出微生物に関する情報提供、感染症発生時の感染予防策の確認、日常の標準予防策の徹底に向けた教育と啓発などを行っている。

また、他施設とも連携し、連携病院でのアウトブレイクなどへの対応も行っている。

2. 活動体制

担当看護師が専従で配属しているため、情報を常時把握し適時対応可能な対応をとっている。また、Infection Control team としても定期的に5職種がそれぞれの立場からラウンド、カンファレンスを行っている。

3. 活動実績

平成25年度感染対策室への相談件数は178件（表1）であった。

その他、結核発生時の対応（結核届出数13件）、MRSA等耐性菌検出時の予防策の確認（MRSA新規陽性材料数92件）、インフルエンザ等発生時の対応（集団感染の2例：2月患者4名職員6名＝10名、3月患者6名職員6名＝12名）、流行性角結膜炎発生時の対応などを行った。

教育、啓発活動として教育講演を開催（2回）し、手指衛生材料の使用状況を各部門に情報提供した（表2）。

地域連携では他施設からの相談には電話等で常時対応し、カンファレンスの開催を4回、病院訪問を4施設行った。また、集団感染を疑うとの報告があった際はただちにその施設を訪問し院内のラウンド等を行い拡大防止の支援を行った（臨時訪問3回）。

4. その他

日本臨床微生物学会認定

感染制御認定臨床微生物検査技師 1名

日本病院薬剤師会認定

感染制御認定薬剤師 1名

日本看護協会認定

感染症看護専門看護師 1名

表1 検査実績

職種	医師	看護職	多職種	事務	他院	その他
件数	80	66	14	11	4	3

表2 教育講演開催

日時	講師	参加数
9月3日	薬剤部 中央臨床検査部 平田貴宏 小瀬戸昌博	90名
2月4日	大阪船員保険病院 遠藤和喜雄	95名

あったかサポートセンター

スタッフ センター長：船渡孝郎（副院長）
部長：近石克也、（谷口史朗）、（石坪健治）



(1) 医療連携グループ

看護師：北村一美、瓜本恵美子
事務員：岡部由利、星智子、渡辺喜代美、岩切綾子

(2) サービス推進グループ

事務員：森本洋子、（高松美佳 3月～産休）

(3) 医療福祉相談グループ

医療ソーシャルワーカー：本家裕子（社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員）、
松栄優子（社会福祉士・介護支援専門員）、福庭加奈（社会福祉士）、清水美紗（社会福祉士）

※患者様サポートスタッフ：松本満康、西岡千幸

1. 医療連携グループの活動内容

- 1) 医療連携グループ経由の紹介患者様の対応
- 2) 医療機関向けPR冊子の作成と発送
- 3) 病診連携懇話会等の開催
- 4) 紹介患者様の報告、逆紹介確認
- 5) 開放型病院登録医の共同診療への協力並びに登録医の勸奨（登録医：H26.3月末 313名）

■ 2013年4月～2014年3月

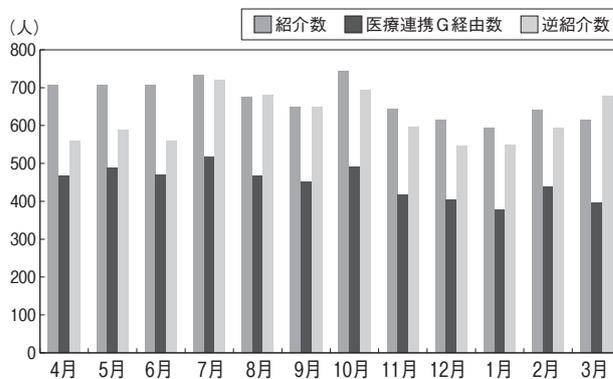
診療科別紹介数、医療連携G経由患者数

〈年間〉

科 別	紹介患者数* (救急車搬入患者含む)	医療連携G 経由患者数	逆紹介数
循環器内科・神経内科	494	261	498
消化器内科	593	437	456
総合内科	938	542	837
血液・化学療法内科	242	156	184
神経内科	187	94	141
精神科	169	161	156
小児科	142	42	197
外科	180	109	158
乳腺外科	153	98	151
整形外科	381	249	272
皮膚科	549	405	324
泌尿器科	281	149	269
産婦人科	1,428	836	1529
眼科	353	319	425
耳鼻咽喉科	573	282	437
救急医療科	197	18	82
放射線科	1,116	1,170	1,199
麻酔・緩和医療科	57	54	81
合計	8,033	5,382	7,396

※紹介患者数は初診算定数。

〈月別〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介数	708	706	707	734	674	649	745	643	616	593	642	616
医療連携G経由数	466	488	469	517	466	451	492	417	404	378	439	395
逆紹介数	560	587	560	719	681	648	694	596	545	550	593	679

2. サービス推進グループの活動内容

- 1) 日生病院登録医・開業医、地域住民、患者様、予防医学センター利用企業等に対する広報誌や、日本生命済生会、日生病院、ニッセイ予防医学センターのホームページ、掲示物等の広報活動
- 2) 院内情報の共有化の方策、イントラネット・メール活用等の広報活動
- 3) 広報活動の一層の充実と推進を図るため、他施設等における広報活動の調査・研究 等

3. 医療福祉相談グループの活動内容

- 1) 相談援助
 - a. 相談援助総件数
平成25年度は、総数9361件（1日平均38.3件、月平均780.1件）の相談を受けた。

b. 新規相談

平成25年度の新規相談は2191件（昨年1688件）であった。大幅な件数増加は、MSW増員による無料・低額診療事業への取り組み強化および病棟との退院支援連携強化が要因と考える。紹介経路別にみると、看護師（526件）、医師（230件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が37.6%（昨年は42.6%）を占め、本人（423件）と家族（470件）からの相談が40.8%（昨年は33.2%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が38.9%と最も多く、次いで介護保険、身体障害者手帳、特定疾患、精神保健等の諸制

度に関する説明や申請援助（21.7%）、無料・低額診療に関する相談援助（17.0%）となった。無料・低額診療事業への取り組み強化による相談件数増加（昨年は9.4%）が目立つ結果となった。

2) 地域活動

- a. 近隣の施設（医療機関、介護老人保健施設等）へ訪問し、面識を持って情報交換をすることにより、スムーズな連携を図ることができた。
- b. 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区高齢者虐待防止専門部会へ参画し、地域の高齢者施策の充実に尽力した。
- c. 日生ケアプランセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、利用者様の在宅生活を支援した。

■医療福祉相談グループ

〈相談取り扱い件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	69	77	64	108	72	58	50	71	77	87	109	75	917	1,526
神経内科	27	32	51	59	78	59	67	94	41	63	48	46	665	
消化器内科	68	88	55	61	48	55	72	50	68	64	41	45	715	397
総合内科	137	137	144	219	185	163	148	159	135	156	184	184	1,951	1,303
血液・化学療法内科	35	43	39	36	55	67	81	55	71	41	31	52	606	493
神経科・精神科	39	33	32	52	72	45	78	73	72	72	49	49	666	540
小児科	104	86	32	55	25	14	41	47	56	33	26	34	553	221
消化器・一般外科	34	29	29	22	17	41	30	23	18	8	8	27	286	573
乳腺外科	12	2	4	4	6	12	10	19	10	12	16	11	118	50
整形外科	122	87	54	96	81	69	51	58	90	66	70	90	934	1,078
皮膚科	28	14	12	16	11	32	17	8	28	21	18	24	229	184
泌尿器科	43	32	41	43	35	62	92	47	21	40	44	15	515	279
産婦人科	17	16	13	21	20	24	38	23	31	18	30	9	260	370
眼科	8	1	1	3	10	3	6	1	5	1	0	1	40	38
耳鼻咽喉科	38	34	36	21	22	21	27	20	16	36	18	10	299	174
放射線科	4	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	12	4
麻酔・緩和医療科	0	0	1	0	0	0	1	5	0	0	0	1	8	26
救急診療科	3	19	18	12	18	8	4	17	4	16	13	2	134	
その他	26	36	18	34	33	42	37	55	58	43	30	41	453	225
合計	814	769	644	862	788	775	850	827	801	777	735	719	9,361	7,481

〈新規ケース紹介経路〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	22	9	0	23	13	0	22	12	0	34	13	0	25	2	0	28	4	0	45	10	0	36	6	1
家族	59	8	1	25	7	0	14	7	0	35	10	2	24	15	1	25	9	1	41	9	0	37	11	0
医師	3	14	0	6	10	0	2	7	0	7	13	0	7	15	0	7	17	0	6	14	0	6	15	0
看護師	11	40	0	8	35	1	6	30	0	8	44	0	7	40	0	11	28	0	7	36	0	7	33	0
その他院内職員	1	6	0	4	3	0	7	2	0	2	3	0	4	1	0	5	0	0	2	2	0	2	2	0
保健福祉関係機関	11	11	1	6	8	0	10	6	2	8	12	0	5	5	1	5	4	0	6	7	0	8	7	0
医療機関	8	1	0	1	3	1	6	0	0	5	1	1	3	2	1	4	2	0	8	3	1	4	1	1
福祉施設	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
介護保険施設・事業所	7	6	0	7	13	0	11	11	0	8	9	2	6	6	0	9	12	1	5	8	0	10	7	0
その他	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	2	1	1	1	0	0	0	2	0	1	1	0
小計	124	95	2	82	92	2	78	75	2	108	107	5	83	87	4	95	76	2	121	91	1	111	83	2
総合計	221			176			155			220			174			173			213			196		

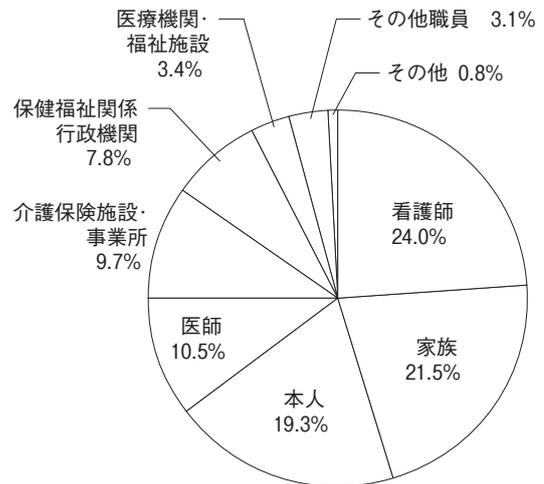
	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他									
本人	26	11	0	25	2	1	13	3	1	26	10	0	325	95	3	206	65	5
家族	44	3	0	22	7	1	18	9	1	13	11	0	357	106	7	178	96	10
医師	6	11	0	5	12	0	4	24	0	4	15	0	63	167	0	53	119	2
看護師	7	40	0	15	37	0	7	26	0	10	32	0	104	421	1	100	368	0
その他院内職員	3	3	0	2	8	0	0	3	0	1	2	0	33	35	0	44	31	3
保健福祉関係機関	8	5	0	4	15	2	4	2	1	3	4	0	78	86	7	50	112	9
医療機関	4	1	0	5	0	0	1	0	0	1	1	1	50	15	6	39	15	9
福祉施設	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0
介護保険施設・事業所	9	8	0	8	9	0	9	14	0	10	7	0	99	110	3	78	73	4
その他	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	8	8	1	6	9	2
小計	107	82	0	87	91	4	56	82	3	68	82	1	1120	1043	28	755	889	44
総合計	189			182			141			151			2191			1688		

〈相談援助総件数(延べ数)〉

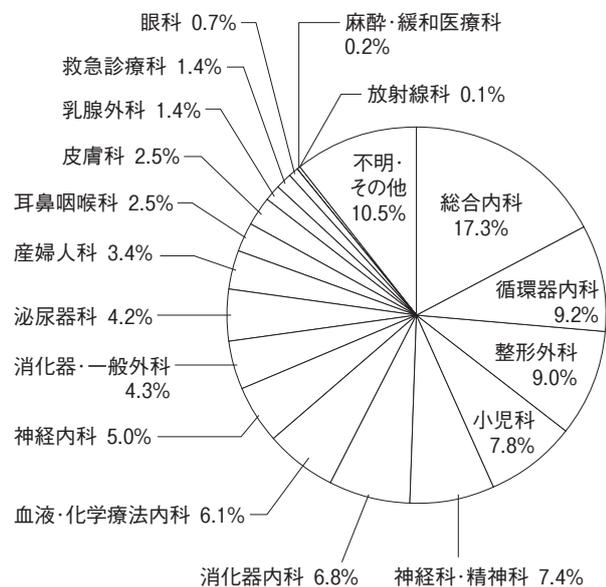
	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
循環器内科	917	1,526	1,545	1,406
神経内科	665	※	※	※
消化器内科	715	397	262	444
総合内科	1,951	1,303	1,107	968
血液・化学療法内科	606	493	369	281
神経科・精神科	666	540	409	307
小児科	553	221	28	14
消化器・一般外科	286	573	287	372
乳腺外科	118	50	30	90
整形外科	934	1,078	993	951
皮膚科	229	184	134	183
泌尿器科	515	279	278	229
産婦人科	260	370	49	108
眼科	40	38	41	69
耳鼻咽喉科	299	174	239	182
放射線科	12	4	0	5
麻酔・緩和医療科	8	26	2	24
救急診療科	134			
不明・その他	453	225	69	91
合計	9,361	7,481	5,842	5,724

※平成22年度～24年度の神経内科は循環器内科に含む

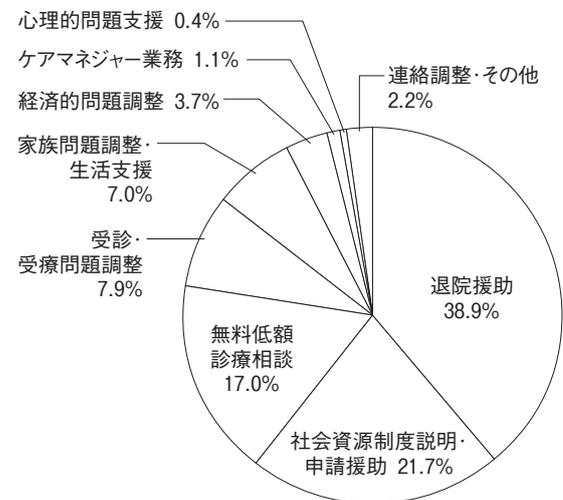
〈相談援助総件数(延べ数)〉



〈新規相談(診療科別)〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(313名)

(H26.3.31現在)

西 区	(医)天野医院	天野 良男
	(医)治生会 石村クリニック	石村 順治
	いとう消化器クリニック	伊藤 裕之
	いぬい小児科	乾 一郎
	井上外科	井上 俊明
	今岡内科胃腸科クリニック	今岡 涉
	近江眼科	近江 源次郎
	大谷クリニック	大谷 遷
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	耳鼻咽喉科 岸本医院	岸本 勝
	北川医院	北川 久能
	くとか内科	久徳 均
	九間クリニック	九間 祥一
	河野外科	河野 実
	(医)佐々医院	佐々 成紀
	佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	下条内科クリニック	下條 信雄
	杉本眼科	杉本 英之
	坪井眼科	坪井 俊児
	ながお医院	永尾 尚子
	(医)敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	(医)丹生医院	丹生 純一
	(医)長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	新町クリニック	濱田 和哉
	平山眼科クリニック	平山 優子
	(医)フジイ内科クリニック	藤井 繁樹
	阿波座診療所	藤井 省治
	藤田外科・胃腸科	藤田 宗行
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	やまもとクリニック	山本 忍
	ゆあさ眼科	湯浅 武之助
	うつば診療所	横松 泰夫
	京町堀整形外科	牧野 正
	さかざきこどもクリニック	坂崎 弘美
	健クリニック	三木 基子
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	(医)ほのぼの会さかいクリニック	坂井 貴子
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	藤野歯科	藤野 明
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	(医)三慧会 IVFなんばクリニック	森本 義晴
奥町内科	奥町 富久丸	
かおるレディースクリニック	岡本 薫	
島野医院	島野 直人	
松浦内科クリニック	松浦 良和	
(医)銀杏会銀杏会本町クリニック	山田 和紀	
はらだこどもクリニック	原田 由利香	
渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕	
藤本クリニック	藤本 聡	
くらし皮フ科クリニック	倉知 貴志郎	
(医)銀杏会 銀杏会本町クリニック	野呂 義隆	
医療法人天方会 AMA Clinic	天方 義人	
港 区	生野内科クリニック	生野 善康
	大沢診療所	大澤 理

港 区	大塚医院	大塚 穎宏
	(医)徳寿会 金山医院	金山 三郎
	香山医院	香山 仁志
	(医)誠昌会整形外科くにしげクリニック	國重 昌彦
	塩見医院	塩見 啓二
	(医)鈴木医院	鈴木 稔也
	(医)龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘
	土田クリニック	土田 茂
	(医)三愛会 中山整形外科	中山 明
	(医)天斗会 中山医院	中山 富雄
	(医)前田診療所	前田 勉
	やながクリニック	彌永 邦彦
	(医)大和医院	大和 直久
	(医)聖愛会山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞
	古林内科	古林 芳範
	宮岡クリニック	宮岡 哲郎
	奥野クリニック	奥野 亜妃子
	(医)西診療所	西 紀
	いはら内科	井原 義二
	笹尾医院	出雲谷 剛
	金谷内科医院	金谷 英夫
	北代診療所	北代 勇夫
	北代診療所	北代 修司
	松浦診療所	新井 孝和
	(医)緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦
	北村医院	北村 雅哉
	坂元内科クリニック	坂元 一夫
	(医)ほのぼの会にいつクリニック	新津 建樹
	(医)頼医院	頼 明信
	義元診療所	義元 徳祥
	(医)喜馬外科	喜馬 秀樹
	野洲クリニック	野洲 武司
	(医)小嶋整形外科	小嶋 博司
	島崎診療所	島崎 久美子
	(医)大奈会 やすだ耳鼻咽喉科	安田 大作
	(医)堀井耳鼻咽喉科	堀井 睦
	谷内医院	石井 登志枝
	(医)信愛会大和診療所	大和 宗久
	西山眼科	西山 和夫
	みなと生協診療所	倉澤 高志
	金田クリニック	金田 眞一
	太田整形外科クリニック	太田 信彦
大阪医院	大阪 正視	
やぎクリニック	八木 隆	
賀来医院	賀来 清高	
弁天町クリニック	喜多 紀人	
しらはま内科クリニック	白浜 健太郎	
岸医院	岸 良治	
溝口内科	溝口 理映子	
山田医院	山田 卓	
徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優	
しん眼科クリニック	秦 尚修	
(医)光風会 江口医院	江口 隆	
大 正 区	石村整形外科	石村 俊信
	柿原医院	柿原 幸司
	(医)邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	小正医院	小正 尚裕

大 正 区	寒川医院	寒川 通洋	
	杉本診療所	杉本 暢子	
	(医)健人会 弘田医院	弘田 俊行	
	藤吉医院	藤吉 庸雅	
	(医)松原皮膚科医院	松原 爲明	
	荘田診療所	荘田 静	
	荘田診療所	荘田 容志	
	(医)得伊会中山診療所	中山 秀雄	
	横山医院	横山 正博	
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎	
	西平診療所	西平 守也	
	西平診療所	西平 香代	
	北新会 藤原耳鼻咽喉科	藤原 隆行	
	(医)良仁会 西村外科	西村 良彦	
	船井医院	船井 俊彦	
	加納レディスクリニック	加納 英男	
	金城外科脳神経外科	金城 康夫	
	五味クリニック	五味 正裕	
	(医)明友会 安井整形外科クリニック	安井 明	
	本山耳鼻咽喉科	本山 壮一	
	(医)田辺耳鼻咽喉科医院	田邊 修一	
	佐々木耳鼻咽喉科(休診)	佐々木 隆晴	
	一ノ名医院	一ノ名 正	
	(医)久志会 黒川眼科	志水 一夫	
	ひらいけ内科	平池 豊	
	足立医院	足立 俊之	
	本山診療所	本山 忠	
	(医)秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸	
	大阪製鐵恩加島診療所	辰巳 佳次	
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸	
	山北内科クリニック	山北 與士雄	
	山北内科クリニック	山北 哲也	
	山北内科クリニック	山北 直子	
	中村医院	中村 義弥	
	しまもとクリニック	島本 敬三	
	しまもとクリニック	島本 里絵	
	(医)北村診療所	北村 彰英	
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙	
	浪 速 区	井上医院	井上 薫
		(医)木下医院	木下 為弘
		笹岡医院	笹岡 明通
		竹中医院	竹中 秀裕
(医)徳田クリニック		徳田 修	
(医)徳田クリニック		徳田 好勇	
橋村医院		橋村 直隆	
(医)桧山診療所		桧山 寛市	
本田クリニック		本田 秀明	
(医)薫鳳会 落合耳鼻咽喉科		落合 薫	
(医)菱川クリニック		菱川 秀夫	
(医)佐藤会 佐藤医院		工藤 俊次郎	
沢井眼科		澤井 貞子	
佐久間医院		佐久間 靖博	
かねだクリニック		金田 高次	
小池クリニック		小池 洋志	
有田医院		有田 繁広	
木田内科消化器科クリニック		木田 徹	
えびす診療所		久保田 泰弘	

浪 速 区	耳鼻咽喉科中村クリニック	中村 泰久
	桜川よしえクリニック	金子 良恵
	(医)泰人会 森川クリニック	山口 貴也
	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史
	(医)入野医院	入野 宏昭
福 島 区	笹岡医院	笹岡 英明
	江頭医院	江頭 明盛
	クダラ医院	百済 尊彦
	猿渡レディスクリニック	猿渡 善治
	田仲循環器科内科医院	田仲 輝光
	林クリニック	林 為仁
	松下医院	松下 正幸
	森山眼科医院	森山 穂積
	ちもりレディスクリニック	千森 弘子
	よこいクリニック	横井 秀保
	あおやま医院	青山 晃子
	福島アイクリニック	栞山 泰明
	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	愛クリニック	上地 正雄
	くまだ内科・小児科クリニック	鎌田 振吉
(医)桜峰会本場診療所	八尾 宜明	
住 之 江 区	東口クリニック	東口 等
	岡村クリニック	岡村 弘光
	中島クリニック	中島 静一
	長谷川内科	長谷川 精一
	長谷川内科	長谷川 浩司
中 央 区 (東)	(財)洪庵記念会産婦人科 くりにいあくがた	緒方 高志
	かただクリニック	堅田 明浩
	(医)高折医院	高折 忠太
	田中皮膚科	田中 卓
	ながかわ 中之島クリニック	中川 晶
	(医)西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
	三宅婦人科内科医院	三宅 侃
	岩間クリニック	岩間 令道
	大阪婦人子供服健康相談室	間島 行春
	同仁会 森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
	(財)結核予防会大阪府支部相談診療所	増田 國次
	大林組大阪診療所	森島 豊彦
	日本生命健康管理所	藤岡 滋典
	日本生命健康管理所	石神 真人
	(医)政明会 春次医院	春次 智三郎
	塩野義製薬本社診療所	秋岡 壽
	みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター	廣部 一彦
	大阪ニッソ健康保険組合保健医療センター	藤井 宏
	柴田耳鼻咽喉科	柴田 重太郎
医療法人 清樹会 清樹会クリニック	柏木 宗憲	
トミタクリニック	冨田 忠宏	
中 央 区 (南)	(医)今川医院	今川 得之亮
	岩佐クリニック	岩佐 厚
	イワサキ眼科医院	岩崎 直樹
	大島内科医院	大島 久明
	大須賀内科	大須賀 康文
	小島クリニック	小島 昭重
	川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
	さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
	さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子

中央区(南)	(医)田中小児科医院	田中 祥介
	寺内クリニック	寺内 陽
	廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
	益田クリニック	益田 元子
	(医)山田医院	山田 隆造
	(医)岩佐診療所	岩佐 真人
	(医)福丸耳鼻咽喉科	福丸 昌宏
	(医)宮武内科	宮武 明彦
	松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
	みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
	ふじたクリニック	藤田 富雄
	(医)松本内科クリニック	松本 淳
	すとうレディースクリニック	周藤 雄二
	(医)聖和会 早川クリニック	早川 謙一
	(医)聖和会 早川クリニック	早川 潤
	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 航
	(医)大生會 さくま診療所	佐久間 知子
	安田クリニック	安田 光隆
	春木レディースクリニック	春木 篤
	寺内クリニック	寺内 勇
阿倍野区	(医)湖崎会 湖崎眼科	湖崎 亮
	(医)柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
	レディースクリニックさわだ	澤田 益臣
生野区	岸田内科	岸田 泰弘
	(医)協同診療所	稲次 征人
北区	鈴木クリニック	鈴木 隆男
	(医)湖崎会 湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
	(医)ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	出田 和久
	南森町レディースクリニック	平井 光三
	小西統合医療内科	小西 康弘
此花区	(医)奥見医院	奥見 敏彦
	栗栖医院	栗栖 孝臣
	(医)小山医院	小山 貴子
	(医)小山医院	小山 高澄
	(医)木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
	(医)板東医院	板東 博志
	松井クリニック	松井 清明
	(医)徹生会 村上内科	村上 毅
	栗栖クリニック	栗栖 孝一
	谷本医院	谷本 尚穂
	はやしだ診療所	林田 嘉彦
	(医)森内科	森 滋喜
	大庭眼科医院	大庭 省三
	牧野レディースクリニック	牧野 滋
	柳本産婦人科医院	柳本 時廣
(医)良純会朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘	
城東区	(医)金井産婦人科	金井 万里子
天王寺区	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
	夕陽丘 佐藤クリニック	佐藤 利彦
	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
西成区	腎・泌尿器科安本クリニック	安本 亮二

西淀川区	高岡診療所	高岡 均
	辻診療所	辻 勝弘
	北野クリニック	北野 英基
	大和田診療所	藤原 久義
	井石整形外科	井石 聡
東淀川区	山口クリニック	山口 時雄
	山田医院	山田 和彦
東成区	古武診療所	古武 敏彦
	大谷透内科	大谷 透
	切通眼科	切通 彰
	山崎診療所	連 美知子
東淀川区	タツミ医院	巽 壽一
平野区	元林産婦人科	元林 和彦
淀川区	赤垣産婦人科クリニック	赤垣 英子
旭区	うつのみやクリニック	宇都宮 健弘

大阪府内

池田市	やまだクリニック	山田 祥晴
茨木市	大河内医院	大河内 寿一
	秋岡・西代医院	秋岡 壽
柏原市	益弘産婦人科クリニック	益弘 和雄
吹田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊吏
豊中市	(医)槇野クリニック	槇野 淑子
	(医)上宮医院	上宮 正直
東大阪市	(医)由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
	(医)近藤医院	近藤 和秀
	永井医院	山崎 章子
	田路医院	田路 秀明
	西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
	医療法人三慧会 IVF大阪クリニック	福田 愛作
堺市	数尾診療所	数尾 展
八尾市	さくちレディースクリニック	菊池 知之

大阪府外

奈良県	(医)田中泌尿器科医院生駒診療所	田中 正己
	(医)久産婦人科・内科	久 靖男
	宇山内科クリニック	宇山 宏和
兵庫県	(医)社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之

4 看護部門

看護部

スタッフ 看護部長：芦田亨子
看護部アドバイザー：正野廣子（～6月）
副看護部長：東郷豊子、町田恵子
副部長：中西三季、北村一美
3階病棟看護師長：鈴木八枝子
4階西病棟看護師長：前川明子
5階西病棟看護師長：岩本真澄
6階西病棟看護師長：阿部恭子
手術室看護師長：木下園子



4階東病棟看護師長：八尾みゆき
5階東病棟看護師長：田畑文子
6階東病棟看護師長：酒井亜紀子
外来看護師長：森 エミ

◆看護部の理念

（公財）日本生命の基本理念『済生利民』に従い、一人ひとりの状態と立場と気持ちに沿った看護を提供します。

◆看護部基本方針

- 1) 患者様の生命の尊厳と人権を尊重し、心のこもった看護を提供します。
- 2) 患者様の生活環境を整え、安全で確実な看護を提供します。
- 3) 患者様の視点に立って業務改善や効率化をはかり、個々の職務満足度を高めるよう努めます。
- 4) 専門職としての自己研さんに努め看護職の責務を果たします。
- 5) 地域医療に貢献する急性期病院としての役割を担い、地域住民から信頼される看護サービスの向上を目指します。

◆平成25年度看護部目標

- 1) 安全で安心な看護の提供
- 2) 看護師の能力開発
- 3) 病院経営に参画し効率の良い看護の実践
- 4) 選ばれる環境作りと優秀な人材の確保と育成
- 5) 看護サービスの質改善
- 6) 夜勤体制の検討

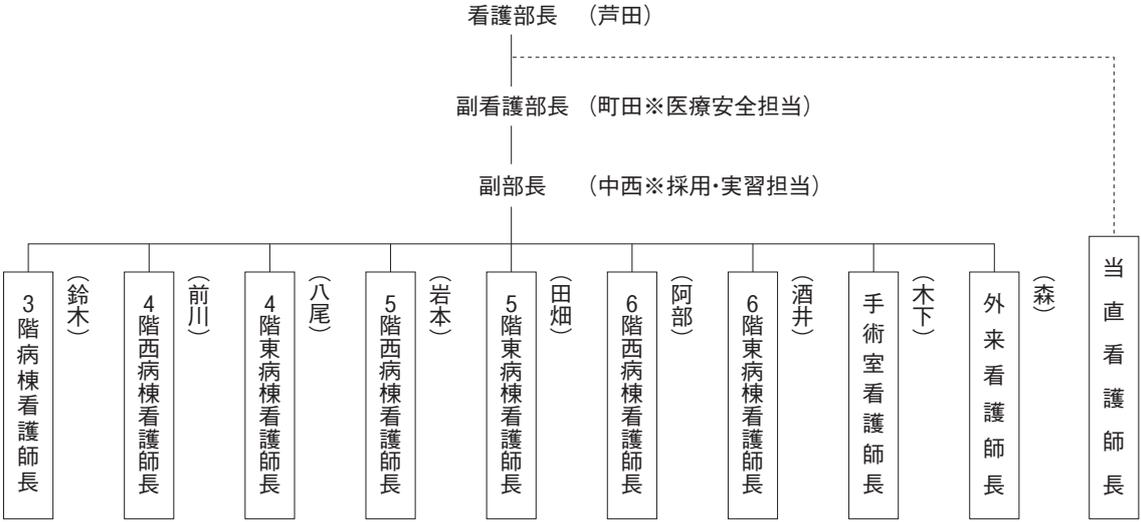
◆看護部の概要

施設基準：入院基本料 7：1
看護体制：二交代制（夜勤時間15時間）
看護方式：固定チームナーシング
 継続受け持ち制

◆看護職員数（平成25年4月1日現在）

看護師：249名
 助産師：25名
 看護助手：17名

◆看護部組織図



◆ 研修参加状況

- 1) 院内研修 (別表)
- 2) 院外研修 (別表)
 - ・大阪府看護協会短期研修会
 - ・大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会 1名
 - ・セカンドレベル研修 1名
 - ・認定看護師教育課程乳がん看護(千葉大学) 1名
- 3) 学会発表 日本看護協会主催等 6名

◆ 看護学生実習受け入れ

- ・大阪医専看護専門学校(4年課程) 173名
- ・甲南女子大学(助産学専攻) 2名
7月～9月
- ・梅花女子大学(4年課程) 48名
6月～9月(基礎看護学)
9月～12月(母性・成人看護学、総合実習)
5月～3月(基礎・成人・老年看護学)
- ・大阪保健福祉専門学校(3年課程) 5名
5月～6月(母性看護学)
- ・大阪保健福祉専門学校(4年課程) 12名
7月～8月(母性看護学)
- ・大阪府病院協会看護専門学校(3年課程) 30名
5月～3月(母性・成人看護学)
- ・白鳳女子短期大学(助産学専攻) 1名
9月～11月(助産学)
- ・甲南女子大学(4年課程) 90名

◆ 研修受け入れ

- ・CNSコース 2名

◆ 看護体験受け入れ

- ・大阪府主催一日看護体験

◆ 看護フェア

- ・5月9日 身体測定、看護相談、アロマ、フットケア

◆ 日生看護研究会

- ・11月30日 7施設50名参加

◆ 病棟状況

部署	定床	平成25年度 患者数	病床 利用率	平均 在院日数	平成25年度 配置基準	勤務人員			平均 夜勤回数	備考	
						深	準	日			
3階		45	44.3	73.8%	8.6	31	3	4	13	3.6	
	新	15									
	計	60									
4階		46	45.9	76.5%	12.8	31	3	4	13	3.6	
	別	14									
	計	60									
4東	51	43.6	85.5%	12	26	3	3	11	4.2		
5西	44	40.4	91.8%	28.9	26	3	3	11	4.1		
5東	49	41.5	84.7%	16.6	26	3	3	11	4.2		
6西		42	38.8	77.5%	16.9	26	3	3	11	4.8	
	小	10									
6東		27	21	63.5%	5.8	26	3	3	11	4.6	
	未	7									
外来					39	バ19					
手術					18						
管理					5						
計	350	277.6	72.1%		254				4.34		

◆ 看護部委員会活動

看護部教育委員会 前川明子

平成25年度の目標は、下記の4点とした。

- 1) 多岐にわたる専門領域の看護に必要な知識と技術を理解し、看護実践能力の向上を図る
- 2) 看護教育、指導に必要な知識と技術を理解し、教育・指導能力の向上・開発を図る
- 3) 看護管理に必要な知識と技術を理解し、看護管理者としての実践能力の開発を目指す
- 4) 最新の保健・医療・福祉の課題を知り、社会のニーズに対応できる看護職者として判断能力の発展を目指す

◆ 活動要約

平成25年度は、新人看護師に対し、看護技術の評価を行った。評価は、新人看護職員研修のガイドラインに基づいて、看護職員として必要とされる「基本姿勢と態度」、「技術的側面」、「管理的側面」についての到達度を3か月後、6か月後、1年後に評価した。また、2年目看護師に対しても、同様の技術チェックリストを用い到達度を評価した。その結果、部署により習得状況は異なるが、1年次に未修得であった技術を習得することができていた。一部に機会がなく未習得の技術が存在するため、今後履修の機会を検討したい。

◆ 平成25年度看護部集合教育の実績

平成25年度の看護部教育計画は、経年別・役割別研修の6コース（新人、レベルⅠ-1、レベルⅠ-2、レベルⅡ、臨地実習指導者、看護助手）と、自己研鑽のための研修の4コース（糖尿病看護、退院支援、事例検討会、看護管理）の合計10コースを実施し、研修10コースの参加者186名、参加率67.1%（平成25年4月1日付：実働看護師数260名、助手17名）であった。以下に院内研修と院外研修の実績を記す。

1) 看護部院内研修

研修会名	年 月	内 容	参加者数
新人	4月1日、2日、3日	オリエンテーション	17名
	4月4日(木)	記録・与薬の研修	17名
	4月5日(金)、6日(土)	宿泊研修	17名
	4月9日(火)、12日(木)	基礎看護技術演習	17名
	4月12日(金)	部署別オリエンテーション	17名
	4月15日(月)、16日(火)	シャドウ研修	17名
	4月20日(金)	防災訓練 (阿倍野防災センター)	17名

研修会名	年 月	内 容	参加者数
新人	5月15日(水)	救急看護「BLS」 インスリン療法 看護必要度等	17名
	6月5日(水)	看護と経済学 輸液 救急薬品	17名
	7月3日(水)	医療安全、業務計画立案、心電図の読み方など	17名
	7月～8月	ローテーション研修	17名
	9月18日(水)	がん看護、ストレスマネジメントなど	17名
	10月2日(水)	看護診断①	17名
	12月4日(水)	人工呼吸器管理と挿入中の管理、栄養評価など	16名
	1月21日(水)	看護診断②	16名
	3月19日(水)	1年の振り返り発表	15名
	レベルⅠ ステップ1	5月24日(金)	メンバーシップの役割について
7月10日(水)		がん看護2	17名
9月27日(金)		慢性期看護	16名
12月18日(水)		急性期看護	16名
2月26日(水)		1年の振り返り	16名
レベルⅠ ステップ2	4月24日(水)	看護研究の役割と倫理的配慮	10名
	6月14日(水)	リーダーシップについて	10名
	10月30日(水)	がん看護3	10名
	2月19日(水)	プリセプターシップ コーチング	10名
	3月5日(水)	看護過程の展開と事例発表会	10名
レベルⅡ	5月8日(火)	研究とは	20名
	6月19日(水)	研究の分析方法	20名
	10月23日(水)	メンタルケア	18名
	11月20日(水)	ストレスマネジメント	18名
臨地実習 指導者	7月17日(水)	看護教育課程 実地指導の原理と役割	21名
	8月17日(水)	若者気質・学生の関わり かた・効果的な指導事例	21名
	1月8日(水)	指導者観の発表	21名
糖尿病 看護	7月24日(水)	糖尿病について (薬・検査) 1 症例検討	18名

研修会名	年 月	内 容	参加者数
糖尿病看護	9月4日(水)	看護の実際 血糖マネジメント 症例検討会	18名
	11月13日(水)	看護の実際 セルフケア支援 症例検討	18名
退院支援	8月7日(水)	退院支援の流れ	15名
	10月16日(水)	在宅看護への退院調整のあり方	14名
	12月11日(水)	他院の退院支援の実際	14名
事例検討会	5月29日(水)	オリエンテーション 模擬事例の紹介	17名
	7月31日(水)	下肢截断を受けられた患者の看護 制限食を拒否される患者様への対応や関わり方	18名
	9月25日(水)	自殺企図のある患者の対応について 食事療法が必要な患者の看護	18名
	11月27日(水)	退院に向けて家族に吸引手技確立に向けての関わり ターミナル期の患者の看護	18名
	2月5日(水)	生体肝移植を受け入れる患者と家族の関わり 手術における体位固定の事例紹介	18名
	6月15日(金)	昇格者研修	4名
看護管理	7月23日(水)	看護補助者の活用について	30名
	10月22日(火)	RCA分析	33名
	2月6日(木)	目標管理について(組織・委員会報告) SWOT分析	25名
	8月5日(月)	医療制度の概要及び病院の組織の理解	17名
看護助手	8月12日(月)	看護補助業務の理解	16名
	8月19日(月)	看護補助業務を遂行するための基礎的知識・技術	15名
	8月26日(月)、 27、30日(火、木)	安全管理 感染防止	17名
	9月2日(月)	医療制度の概要及び病院組織の理解 看護補助業務の理解 安全管理 感染防止	2名
	2月7日(金)、 13日(木)	医療制度の概要及び病院組織の理解 看護補助業務の理解 安全管理 感染防止	3名

2) 看護部院外研修

感染看護 (大阪府看護協会)	6月	看護における感染予防の実際	1名
地域看護 (大阪府看護協会)	6月	病棟看護師としてできる退院支援・調整	1名
感染看護 (大阪府看護協会)	6月	組織で取り組む感染管理①	1名
共通 (大阪府看護協会)	7月	フィジカルアセスメントの基礎(講義)	1名
衛星通信対応研修 (大阪府看護協会)	7月	災害医療と看護(基礎編)	2名
医療安全 (大阪府看護協会)	6~7月	医療安全管理者研修	1名
指導者 (大阪府看護協会)	7月	臨地実習指導者①	1名
精神 (大阪府看護協会)	8月	一般病棟における精神科疾患患者への理解と対応方法	11名
糖尿病 (大阪府看護協会)	8月	糖尿病重症化予防フットケア研修	1名
看護管理 (大阪府看護協会)	8月	看護と交渉術	1名
共通 (大阪府看護協会)	9月	フィジカルアセスメント 応用編①②	2名
がん看護 (大阪府看護協会)	9月	がん患者の症状緩和	1名
救急看護 (大阪府看護協会)	10月	救急看護 1 基礎	2名
災害看護 (大阪府看護協会)	10月	災害看護における初期医療活動	4名
看護管理 (大阪府看護協会)	10月	組織とリーダーシップ	1名
共通 (大阪府看護協会)	10月	今日から役立つコミュニケーション	1名
感染看護 (大阪府看護協会)	10月	組織で取り組む感染管理②	1名
成人看護 (大阪府看護協会)	12月	慢性疾患患者へのセルフケア(循環器疾患)	1名
共通 (大阪府看護協会)	12月	人工呼吸器装着患者に看護	1名
医療安全 (大阪府看護協会)	12月	管理者のためのKYT	1名
指導者 (大阪府看護協会)	12月	臨地実習指導者研修②	1名
指導者 (大阪府看護協会)	12月	実地指導者研修②	1名
研究 (大阪府看護協会)	12月	看護記録(基礎編)	2名
共通 (大阪府看護協会)	12月	看護研究と倫理・論文支援	1名

3) 長期及びその他の研修

主催	日程	研修会名	受講者
大阪府看護協会	9月24日～11月21日	2013年度 第2回 大阪府保健師助産師看護師実習指導者研修講習会	4階西森本真緒

主催	日程	研修会名	受講者
S-QU研究会	7月7日	看護必要度評価者院内指導者研修	安廣知香 徐銀姫 廣田優子 宇垣政江 高島麻里 神谷香里 依田恵美
日本看護協会	7月12日～13日	衛星通信対応研修NO. 201	谷口真理子 川端千里
ライフプランニングセンター	8月3日～4日	第14回 がんのリハビリテーション研修会	小山佐知子
大阪府看護連盟市西支部	10月12日 11月16日	平成26年度診療報酬改定予測と具体策	芦田享子 木村由美 川瀬俊子 阿部恭子
大阪府看護協会	11月28日	医療安全に係る講演会「もう一つの医療安全」	阿部恭子 三好優子
大阪府看護連盟	11月30日	品格ある看護管理の展開には	井上恵子 森エミ 酒井亜紀子
日本看護協会	12月14日	助産師のキャリアパス・クリニカルラダーの基礎的理解	酒井亜紀子
大阪府看護協会 大阪医療センター	平成26年 1月18日	大阪府急性期・総合医療センター災害訓練	鈴木あかね 小幡麻衣 川瀬俊子 井上恵子 林理恵 秦久美子
臨床倫理事例研究会	平成26年 1月18日、 19日	第7回 臨床倫理事例研究会	芦田享子 木村由美 神谷香里 三好由紀子 戸田陽子 國友美加 岩本真澄
大阪府看護協会 労働環境支援事業部	平成26年 1月21日	看護管理者のメンタルヘルス支援能力の向上を目指すーメンタルヘルス支援のポイントとコツー	木村由美 島津庸子 井上真紀子 森蘭祐子
大阪府看護協会 学会委員会 研修	平成26年 2月22日	看護研究のための統計学	前川明子 木村由美 久留明子 下井孝子 三好優子 長山佳香
大阪府看護部長 研修会	平成26年 2月22日	看護職としての社会人基礎力の育て方	前川明子 木村由美 三好由紀子

◆論文・学会発表など

論文発表

1. 大西まゆり, 林 理恵, 古塘里美, 澤山 曜, 三好由紀子, 阿部恭子: 臨地実習における学生の指導場面における担当看護師の意識. 日生医誌, 41: 90-96, 2013.

学会・研究会発表

1. 小山佐知子, 川原玲子: S状結腸臀部痛に対するフレキシシールを用いた排便管理. 第18回日本緩和医療学会学術集会, 6月, 2013, 神奈川.
2. 秦久美子, 木場賀美, 入江絢子, 神谷香里, 阿部恭子: 幼児期前期の採血時にアロマセラピーを導入したことによる対処行動の変化. 第44回日本看護学会小児看護, 9月, 2013, 栃木.
3. 鄭 恩愛, 藤田真弓, 山崎亜耶, 村上弘子, 大藤弘美, 岩本真澄: 2型糖尿病患者の自己管理行動を目指した振り返りノートの活用. 第44回日本看護学会看護総合, 9月, 2013, 大分.
4. 鍋本美穂, 山下智美, 佐々木理恵, 小笹智子, 依田恵美, 酒井亜紀子: 夫の立ち会い分娩を決定づける要因とその時期について. 第44回日本看護学会母性看護, 9月, 2013, 岡山.
5. 福本陽子, 森口友絵, 高島麻里, 明上智美, 下井孝子, 田畑文子: 血管インターベーション後の安静臥床中における患者のニーズ. 第44回日本看護学会成人看護 I, 10月, 2013, 和歌山.
6. 鈴木あかね, 小野紗希, 渡邊仁美, 山林美紀, 木下園子, 町田恵子: 災害時の初期行動の認知度調査. 第45回日本看護学会成人看護 I, 10月, 2013, 和歌山.
7. 松岡典子, 坪内由里, 木村ちはる, 川瀬俊子, 木村冬美, 森エミ: 長期にわたり外来で輸血を必要とする血液疾患患者の思い. 第44回日本看護学会成人看護 II, 10月, 2013, 秋田.

◆専門・認定看護師連絡会

感染症看護専門看護師 大野典子

平成25年度、専門看護師・認定看護師連絡会は皮膚・排泄ケア認定看護師を新しく迎え6名で活動を行った。活動の目標は質の高い看護の提供とし、院内にとどまらず地域へも活動の場を広げている。また、学会での報告など研究活動やそれぞれの分野での教育活動なども行ってきた。下記に委員会活動とそれぞれの個人での活動の詳細を示す。

平成25年度専門認定連絡会活動内容

1. 専門認定看護師ニュース発行 (No.17～20)
2. 日新会主催看護フェア参加
平成24年 5月10日
3. ニッセイ看護研究会開催
平成25年11月30日(土) 15:00～17:00
参加者: 50名(院外21名 院内29名)
4. 専門・認定看護師実践報告会
平成26年 2月19日(水) 17:15～18:45
参加者: 38名

5. 各委員の活動（表1参照）

1) 感染症看護専門看護師 大野典子

平成25年度は2年目を迎える感染対策における地域連携の充実を目標とし活動を行った。結果、連携病院から集団感染や院内感染対策上の問題が発生した時に連絡を受け、タイムリーに連携することができた。そのほかの活動では日本看護学会や日本環境感染学会教育セミナーなど全国学会での司会・座長、看護基礎教育や卒後教育での教育活動、高校での保健教育など社会活動を行った。次年度は翌年に機能評価受審を控え、マニュアルの整備やサーベイランスデータを基にした感染対策の充実など院内での活動の強化を課題とする。

2) がん化学療法看護認定看護師 畠山明子

2014年3月、大阪大学大学院がん看護高度実践看護師コースを卒業、4月より外来化学療法室専任の職に復帰した。がん化学療法の安全な投与、患者・家族の日常生活を尊重した治療期の支援を目標として活動を行った。治療選択、意思決定支援、副作用対策、セルフケア支援を充実させ、がん患者カウンセリングを16件担当し、継続した支援を行っている。また、病棟から患者・家族に対する困難事例の相談を受け、直接ケア、指導・教育、調整など活動の機会を増やしている。がん化学療法看護認定看護師として10年目の資格更新を行った。

3) がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子

今年度は1. 認定看護師としての知識・技術の習得、向上に努めるとし、学会発表を1回、学会参加2回、5年更新の認定看護師審査を合格した。2. 認定看護師としてがん患者や家族の治療やがんそのものによる苦痛な症状、心のつらさを緩和できるよう支援することができるとし、緩和ケアチーム介入患者以外にも病棟、外来患者の鎮痛薬の使用方法やPCAの使用方法について指導を行った。また新しい医療用オピオイドを安全に投与できるようにするため病院での使用マニュアルの作成を行った。

4) 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子

平成25年度は、毎年行っている院内研修・看護協

会研修・交流集会以外で、研修を一から企画・立案・実行するという機会があった。そのことで、より参加者の理解を深めるために必要なことを考える視点を学ぶことが出来た。

26年度においては、院内でのチーム医療・連携の強化に力を入れ取り組んでいきたい。

5) 緩和ケア認定看護師 國友美香

平成25年度は11月末から時短勤務で復帰した。病棟看護チームの一員として勤務しており、日々の受け持ち患者を通して看護実践をしている。1月、2月に院外の倫理研修に参加し、倫理的問題のあるケースを多側面から検討する方法を学んだ。病棟で日々のカンファレンスを充実させて看護ケア向上につながることを次年度への課題としていく。

6) 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子

平成25年10月1日当院就職。毎週火・金曜日を活動日として今年度は以下の内容で取り組んだ。

- ①相談件数の把握
- ②褥瘡予防や治療における問題点の把握
- ③オストメイトの支援

①について

44件の新規相談があった。内訳は創傷22件 ストーマ24件 失禁0件であった。創傷においては褥瘡以外に不適切なスキンケアが原因である症例や、医療用テープによる皮膚障害が多かった。今後、適切なスキンケア方法や医療用テープの使用について指導する必要がある。

②について

エアマットはレンタルによりネクサスのみ過不足なく使用できる現状にあるが、エアマットの機能を十分に活かしていない。患者の自立度、創の状態に応じて使用できるエアマット及び静止型マットレスがない。今後導入を検討していきたい。

③について

現在ストーマ外来はない。オストメイトは退院後に合併症に気づかず生活している。活動日に診察できる取り組み考えている。

表1 専門看護師・認定看護師の活動一覧

	院内での活動	院外活動	学会・研究活動
大野典子 感染症看護専門看護師	<p>〔役割/委員会活動〕 感染対策室(専従)感染担当看護師) 看護部感染対策委員会運営 院内感染対策委員会参加 (1回/月) ICTラウンドの参加(1~2回/週) アウトブレイク等臨時開催時の調整 NST・褥瘡チームラウンドへの参加と</p> <p>〔研修講師〕 新採用オリエンテーション 感染予防 看護助手研修 院内感染対策委員会主催教育講演 (全職員対象) 看護部感染対策委員会勉強会</p> <p>〔実習指導〕 山梨県立大学大学院CNSコース (2名)</p>	<p>〔役割〕 日本専門看護師協議会活用促進委員 大阪府看護協会学会委員</p> <p>〔講義〕 大阪医専専攻授業感染看護コース HIVサポーターリーダー養成講習 大阪府看護協会研修 感染看護2 大阪府立大学大学院看護学研究科 授業 大阪市立大学看護学研究科感染看護 学授業 大阪府教育センター附属高等学校 エイズ予防講座 大阪府立大学主催 専門看護師フォーラム講演</p> <p>〔地域連携活動〕 大阪暁館病院 病院訪問(3回) 感染院内研修講義 大阪掖済会病院 病院訪問(1回)</p>	<p>〔研究〕 HIV感染症およびその合併症の課題 を克服する研究班 地域HIV看護に質向上に関する研究 協力 (平成26年度厚生労働省科学研究 費補助金エイズ対策研究事業)</p> <p>〔学会〕 第2日本専門看護師協議会事例検 討会主催 第44回日本看護学会一看護管理一 学術集会 シンポジウム座長 第29回日本環境感染学会総会 Advanceレクチャー1 司会</p>
島山明子 がん化学療法看護認定看護師 (がん看護専門看護師養成 コース終了)	<p>〔役割/委員会活動〕 化学療法運営委員会 化学療法登録承認診査員 院内合同化学療法カンファレンス (1回/月)企画・運営 緩和ケアチームメンバー(1回/週) 回診、カンファレンスに参加 オンコロジナーズの会の企画、 運営</p>	<p>〔役割〕 大阪がん化学療法看護認定看護師 研究会代表</p> <p>〔抗議〕 大阪大学大学院「がん看護における コンサルテーションの実際:事例 検討」講義のファシリテーター</p>	<p>〔研究〕 大学の研究協力(共著) Oncology Nursing Society</p> <p>〔学会〕 第28回日本がん看護学会学術集会 口演 第2回がんプロフェッショナル国際 シンポジウム 示説</p>
小山佐知子 がん性疼痛看護認定看護師	<p>〔役割/委員会活動〕 オンコロジナーシングの会 1回/月会議 緩和ケアチーム 介入患者 171名 外来がん相談 10名 (うち院外患者3名)</p> <p>〔研修講師〕 「死後のケアの勉強会」 開催3月10日 参加者64名 日生病院看護部 研修 がん看護1・2・3</p>	<p>〔講義〕 大阪府看護協会 研修講師 がん看護3 「がん患者の症状緩和」 聴講者108名 大阪府看護協会 がん性疼痛看護認定看護師教育 課程 講師 がん性疼痛看護概論「がん性疼痛 認定看護師の役割」聴講者23名 大阪西カンファレンス 2014年3月 症例提示</p>	<p>〔論文〕 「緩和ケア患者の口腔内疼痛に対 する立効散の効果」 痛みと漢方 VOL.23 (2013)</p> <p>〔学会〕 13Th World Congress of the European Association for palliative Care 示説 第18回 日本緩和医療学会学術大会 口演 2nd Asian Congress On Pain示説</p>
角南ちえ子 糖尿病看護認定看護師	<p>〔研修講師〕 病院看護部研修 「インスリン療法」(新人研修) 「糖尿病看護」(90分×3回) 糖尿病ケアナーズの会 1回/月会議 糖尿病内分泌センター運営委員会</p>	<p>〔講義〕 大阪府看護協会 研修 糖尿病看護 I 大阪糖尿病看護研究会 第6回スキルアップセミナー 企画 講師 ファシリテーター 「高齢糖尿病患者の在宅に向け た療養支援～在宅での薬物療法 を考える～」 清恵会病院糖尿病療養指導セミナー 講師 ファシリテーター 「高齢糖尿病患者の在宅に向け た療養支援～在宅での薬物療法 を考える～」</p>	<p>〔学会(企画/運営/講義)〕 日本糖尿病教育看護学会 学術集会 交流集会 「ディベートセッション ー高齢糖尿病患者のEnd of Life Careを考えるー」</p>
田中敬子 皮膚・排泄ケア認定看護師 (平成25年10月1日就職)	<p>〔役割/委員会活動〕 褥瘡回診の参加(平成26年1月~)</p>		<p>学会一般参加: 7月 第15回日本褥瘡学会学術集会 3月 第21回フットケア学会</p>
國友美加 緩和ケア認定看護師 (平成25年11月27日復帰)			<p>学会一般参加: 10月 サイコオンコロジ学会</p>

◆患者指導・看護ケア外来数の推移

①リンパ浮腫ケア外来

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
5	9	11	10	6	8	8	11	10	16	7	9

②助産師外来

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
両親学級（組）		37	20	37	32	35	22	28	25	22	25	20	22	325
マタニティビクス		43	44	36	37	40	53	67	42	35	39	26	12	474
アフタービクス		33	41	30	29	24	18	32	34	24	42	33	40	380
ベビービクス		66	64	69	85	67	55	85	85	73	82	81	101	913
マタニティヨガ		73	49	50	55	43	46	72	40	29	22	21	27	527
母乳外来	1週間後	55	44	37	44	46	30	47	38	44	39	20	48	492
	それ以外	22	14	14	17	11	14	25	15	17	14	27	16	206
助産師外来		570	603	508	582	490	507	527	458	441	437	475	461	6,059

③糖尿病センター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診患者数	7	6	4	17	14	10	19	11	10	15	7	18
フットケア数	12	6	9	11	7	12	9	7	9	8	10	7
在宅療養指導数	7	7	8	18	12	12	20	16	19	14	18	17
糖尿病ふれあい教室 受講者数	56	64	88	45	88	35	42	75	61	43	62	41

④外来全科の在宅療養指導数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
43	76	78	99	99	92	103	87	95	86	101	87

ニッセイ予防医学センター

スタッフ センター長：中村秀次

医務部長：住谷 哲

常勤医師：泉由紀子、高島周志、鈴木真優美、藤岡滋典（特任顧問）、
佐藤文三（特別顧問）



1. 概要

人間ドック受診者総数は8,544名に達し、引き続き大きな伸びを示した（表1）。定期健康診断受診者は32,527名とほぼ前年度なみを維持した。健診精査内科は、人間ドック受診者数の増加を反映し、また定期健診受診者からの新たな紹介体制の定着により、受診者数は堅調に推移し、2,101名に達した。

25年4月より新たな健診システム「タック総合健診システム」を導入した。健診の質の面からは、看護師による専門的なケア、保健師による指導、専門技師による検査、専門医師による診察、読影、診断、およびダブルチェック体制を継続徹底するとともに、協会けんぽを対象とした午後健診を週2回から開始した。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科健診の週4日体制を維持し、月2回のレディースデイを2診体制とし、午後の乳がん検診も引き続き実施した。メンタルヘルスサポート事業では、新たな解析ソフトを導入してサービスの向上を図っている。契約数も着実に増加している。また、常に運営体制を見直し、待ち時間の短縮に努力している。受診者のリピート率の向上を目指しているが、25年度は64%であった。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として27施設、入所者約2,600名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を実施し、済生会の公益性の向上と地域福祉に貢献した。

労働安全衛生分野における産業医の重要性の高まりを踏まえ、近隣企業への産業医派遣体制を強化し、今年新たに済生会職員数名の認定産業医を養成し、非常勤産業医として派遣した。

学術活動として、恒例の「あわぎ産業医セミナー」を4月に開催し（特別講演：独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 林清二先生）、276名の

産業医、日生病院登録医の参加を得た。学会活動として人間ドック学会に2題発表し、雑誌「人間ドック」に論文2篇掲載された。更に、各医師が専門領域の学会でも発表した。

25年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。

人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で9.3%、43.0%となり、昨年度より低下し、要精密検査率は5割を切った。年代別、性別の要治療率、要精密検査率を表2に示す。40歳未満では要治療6.7%、要精密38.2%であり、50歳台で要治療9.9%と10%近くになるとともに要精密42.6%となり、60歳以上では要治療9.2%とやや低下するも、要精密は49.1%とほぼ5割まで上昇した。しかし、いずれも昨年度に比し低下した。要治療、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。男性では生活習慣病の高血圧が1位を維持し、受診者の21.1%に認められた。脂質異常症は2位となり15.2%に認められ、4位の糖尿病と合わせて、生活習慣病が上位を占めた。女性では、乳腺異常が23.5%に認められ、1位であった。婦人科疾患は3位で12.7%に認められ、女性特有の疾患の異常が約35%に認められた。生活習慣病の脂質異常症は男性とほぼ同率の13.9%で2位となったが、高血圧、糖尿病は昨年同様上位5項目よりはずれた。一方、眼科疾患は男性で3位、女性で4位を占め、受診者の9～14%に認められた。血尿を含む腎・尿路疾患は受診者の5～6%に認められ、男女ともに5位を占めた。精度の高い健診に努め、悪性疾患の発見は25名（0.3%）に達した。この内18名（72.0%）が早期癌であった（表4）。D1、D2判定者で健診精査内科および直接に日生病院各科に紹介された患者は大幅に増加した（表5）。健診精査内科以外では、消化器内科、乳腺外科、眼科が上位を占めた。再検率は36.9%と、昨年よりわずかに上昇した。再検率のアップが今後の課題である。

2. 論文・学会発表など

論文発表

1. Murai J, Soga S, Saito H, Otsuki M, Kitada T, Saisho Y, Nakamura H, Kasayama S, Koga M : Study on the mechanism causing elevation of serum CA19-9 levels in diabetic patients. *Endocr J*, 60 : 885-891, 2013.
2. Takashima T, Enomoto H, Ninomiya T, Kim SR, Okushin H, Sugano M, Imoto S, Yano Y, Ooka T, Seo Y, Kasugai H, Muramatsu A, Jomura H, Shimomura S, Shindo M, Nakamura H, Aizawa N, Iwata Y, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S. : Hepatitis C virus relapse was suppressed by long-term self-injection of low-dose interferon in patients with chronic hepatitis C after pegylated interferon plus ribavirin treatment. *Hepatology Res*, 44 : 597-607, 2013.
3. Hayashi S, Takeuchi M, Hatsuda K, Ogata K, Kurata M, Nakayama T, Ohishi Y, Nakamura H : The impact of nutrition and glucose intolerance on the development of tuberculosis in Japan., *Int J Tuberc Lung Dis*, 18 : 84-88, 2014.
4. Enomoto H, Aizawa N, Nakamura H, Sakai Y, Iwata Y, Tanaka H, Ikeda N, Aoki T, Yuri Y, Yoh K, Hashimoto K, Ishii A, Takashima T, Iwata K, Saito M, Imanishi H, Iijima H, Nishiguchi S : An increased ratio of glycated albumin to HbA1c is associated with the degree of liver fibrosis in hepatitis B virus-positive patients. *Gastroenterol Res Pract*, 2014 : 351396.
5. Sumitani S, Morita S, Deguchi R, Hirai K, Mukai K, Utsu Y, Miki S, Sato B, Nakamura H, Kasayama S : Improved β -cell function rather than increased insulin sensitivity is associated with reduction in hemoglobin A1c in newly diagnosed type 2 diabetic patients treated with metformin. *J. Diabetes Mellitus*, 4 : 44-49, 2014.
6. 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周二, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次 : ヘモグロビン濃度はインスリン抵抗性と関連する - 人間ドック受診者における横断研究 -. *日本人間ドック学会誌*, 28 : 524-529, 2013.
7. 篠田和子, 大黒慶子, 住谷 哲, 泉由紀子, 高島周二, 鈴木真優美, 佐藤文三, 中村秀次 : 高輝度膵の臨床的意義に関する検討 - メタボリックシンドローム, インスリン抵抗性, 血清アマラーゼおよび血清エラスターゼ I, 膵内分泌機能との関連について -. *日本人間ドック学会誌*, 28 : 635-640, 2013.

学会・研究会発表

1. 住谷 哲 : 予防医学のストラテジー. 第57回ニッセイ医学セミナーUpdate, 11月, 2013, 大阪
2. 鈴木真優美 : 禁煙習慣および健診結果からみたCOPD慢性閉塞性肺疾患. 第10回 あわぎ産業医セミナー, 4月, 2013, 大阪.
3. 鈴木真優美, 高島周志, 泉由紀子, 住谷 哲, 藤岡滋典, 佐藤文三, 中村秀次 : COPD診断者における白血球数に対する喫煙の影響について. 第54回 日本人間ドック学会, 8月, 2013, 浜松.
4. 鈴木真優美, 高島周志, 泉由紀子, 住谷 哲, 藤岡滋典, 佐藤文三, 中村秀次 : 人間ドック受診者における尿pHとメタボリック症候群の関係. 第54回 日本人間ドック学会, 8月, 浜松.
5. 阪井理恵 : 特別企画 人間ドック保健指導ロールプレイ - 実感・体感・心が動く 15分でできる保健指導 -. 第54回 日本人間ドック学会, 8月, 2013, 浜松.
6. 住谷 哲, 出口暁子, 森田真也, 宇都佳彦, 出口令子, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史 : 未治療2型糖尿病患者における炭水化物摂取量はグリコアルブミン/HbA1c比と相関する. 第110回日本内科学会講演会, 4月, 2013, 東京.
7. 住谷 哲, 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正 : 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与と生活習慣介入の有効性 - HbA1c低下はインスリン感受性の改善よりも β 細胞機能の改善と相関する -. 第86回日本内分泌学会学術総会, 4月, 2013, 仙台.
8. 住谷 哲, 森田真也, 出口令子, 平井孝一, 向井康祐, 宇都佳彦, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 笠山宗正, 古賀正史 : 初回治療2型糖尿病患者に対する高用量メトホルミン投与はグリコアルブミン/HbA1c比を低下させる (EMINENT Study 第3報). 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月, 2013, 熊本.
9. 住谷 哲, 森田真也, 宇都佳彦, 北井宏美, 早川友朗, 新居卓郎, 仁科周平, 三木俊治, 佐藤文三, 中村秀次, 立花 功, 笠山宗正 : リラグルチド投与により症状の改善が認められた冠攣縮性狭心症合併2型糖尿病の1例. 第50回日本糖尿病学会近畿地方会, 11月, 2013, 京都.

表1 定期健康診断・人間ドック受診者数

	H25年度実績 (名)			対前年比	備考
	男性	女性	合計	(%)	
定期健康診断	16,683	15,844	32,527	99.2	
人間ドック (日帰り標準コース)	2,301	2,875	5,176	110.8	
人間ドック (生活習慣病など)	2,090	1,129	3,219	104.7	
専門ドック (脳・肺ドックなど)	44	105	149	120.2	
人間ドック 合計	4,435	4,109	8,544	108.6	

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目 (治療中を含む) (D1)					
	男		女		全体	
	人数(名)	占率	人数(名)	占率	人数(名)	占率
39歳以下	21	6.8%	19	6.6%	40	6.7%
40~49歳	75	9.5%	84	10.2%	159	9.9%
50~59歳	77	10.1%	80	9.8%	157	9.9%
60歳以上	62	9.8%	52	8.5%	114	9.2%
総計	235	9.5%	235	9.2%	470	9.3%

	要精密項目 (D2)					
	男		女		全体	
	人数(名)	占率	人数(名)	占率	人数(名)	占率
39歳以下	113	36.8%	115	39.7%	228	38.2%
40~49歳	293	37.3%	361	43.7%	654	40.6%
50~59歳	324	42.6%	348	42.5%	672	42.6%
60歳以上	340	54.0%	269	44.1%	609	49.1%
総計	1,070	43.1%	1,093	43.0%	2,163	43.0%

※健診システム (HI-NET) より標準人間ドックコースのみ、判定D1 (要治療)、D2 (要精密検査) を抽出
 %は年齢別要治療・要精密検査数 / 年齢別全受診者数 × 100
 総計の%は性別総計数 / 全受診者数 × 100

表3 性別による要治療・要精密検査の上位5項目 (日帰り人間ドック受診者)

No.	男性			No.	女性		
	要治療・要精密検査項目	人数(名)	占率		要治療・要精密検査項目	人数(名)	占率
1	高血圧	486	21.1%	1	乳房疾患	469	23.5%
2	脂質異常症	349	15.2%	2	脂質異常症	394	13.7%
3	眼科疾患	322	14.0%	3	婦人科疾患	268	12.7%
4	糖尿病	312	13.6%	4	眼科疾患	254	8.8%
5	腎・尿路疾患	139	6.0%	5	腎・尿路疾患	137	4.8%

※各検査項目の数値・判定より抽出 (センター医師による判断)
 %は検査項目受診数 / 受診者数 × 100

表4 悪性疾患の発見率

	人数(名)	占率
癌診断者	25 (早期18)	0.29%

乳癌6名、肺癌2名、胃癌6名 (早期6名)
 大腸癌5名、直腸カルチノイド1名
 腎癌1名、リンパ腫4名 (MALT2名)

表5 要治療・要精密検査判定者の紹介先 (日帰り人間ドック受診者)

有所見者数 3,130人
 再検査確認数 1,154人
 再検率 36.9%

日生病院 健診精査内科	302人
日生病院 循環器内科	48人
日生病院 消化器内科	232人
日生病院 内視鏡センター	11人
日生病院 総合内科	44人
日生病院 耳鼻科	17人
日生病院 乳腺外科	162人
日生病院 整形外科	1人
日生病院 皮膚科	5人
日生病院 泌尿器科	62人
日生病院 産婦人科	64人
日生病院 眼科	133人

日生訪問看護ステーション

スタッフ 管理者：水上洋子（保健師・介護支援専門員）

常勤看護師：酒井希代子（リンパ浮腫療法士）、山内祐子（10月～産休・育休）、

小森奈緒子（1月～産休）、丸山洋子（介護支援専門員）

非常勤看護師：左雲和子（介護支援専門員、社会福祉士）永田悦子、

島添早苗（介護支援専門員）、久間田久美、

加世田香代子（4月～）、巽陽子（7月～）



1. 活動内容

日生病院を主体としつつ、西区を中心とした「重点地域」において他の医療機関や居宅介護支援事業所との連携により地域に医療・介護の拠点としての機能を発揮している。

訪問看護は、主治医の指示のもと、①疾病や介護状態の予防・悪化防止 ②病院から在宅への円滑な移行支援 ③24時間体制で緊急対応に応じた在宅療養生活の支援 ④在宅での看取りを含めた終末期ケア等を実施している。

- 1) 現状の適切なアセスメント及び予防的視点を持った看護の提供を心掛けている。
- 2) 退院前カンファレンスへの参加、外泊日訪問看護や退院日当日または、退院直後の訪問看護の実施により、退院後の不安の緩和や療養環境の整備を行っている。
- 3) 医療依存度の高い療養者及び認知症・小児・精神科疾患・がん終末期等多様なニーズに対応し、急変時や緊急時に対応できるよう24時間体制を整備している。
- 4) 日生病院主治医や在宅療養支援診療所と連携し、在宅ターミナルケアを実践した結果、年間11件のターミナルケア加算を算定した。

また、訪問看護の普及活動及び教育機関として以下の活動を行った。

- ・看護学生の在宅看護実習受け入れ：年間7人
- ・日生病院看護部退院支援研修
- ・西区居宅介護支援連絡会：他職種連携研修
- ・大阪糖尿病看護研究会スキルアップ研修：訪問看護の役割について

2. 訪問体制

①営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、12月30日～1月4日までは除く。）

また、状況に応じては、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外の訪問可能。電話等により、24時間常時電話連絡が可能な体制を整備。

②通常の実施地域

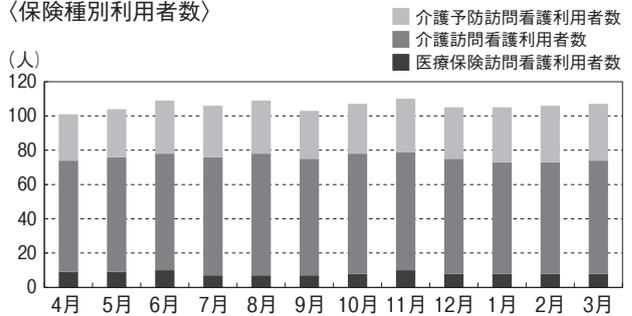
大阪市西区、浪速区、大正区、中央区、福島区、港区、此花区

3. 活動実績

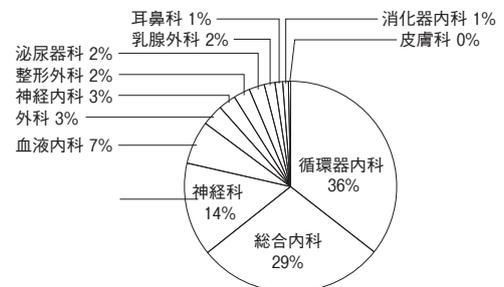
月平均利用者数は102名で、月平均訪問回数は、752（訪問回数727回、複数名対応21回、退院支援指導4回）であった。

- ①保険種別割合では、介護予防訪問看護8名（3.8回利用/人・月）、介護訪問看護68名（6.1回利用/人・月）医療保険訪問看護30名（9.4回利用/人・月）であった。
- ②指示書発行医療機関別割合は、日生病院が55.0%、他医療機関が45.0%であった。
- ③新規依頼紹介経路は、ケアマネジャーが最も多く、次いで日生病院職員、他の医療機関職員、本人・家族の順であった。

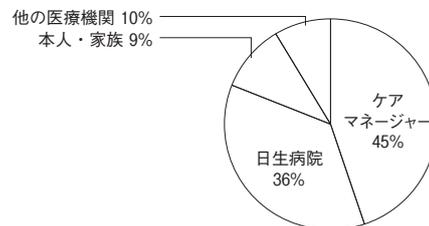
〈保険種別利用者数〉



〈日生病院診療科別指示書発行割合〉



〈新規依頼経路〉



1. 診療科別教育

部(科)名	教育・研修項目	
循環器内科	・新入院患者紹介	(週1回)
	・症例検討会	(週1回)
	・勉強会	(1回/1~2週)
	・内科合同カンファレンス	(月1回)
	・内科・地域合同症例検討会	(年1回)
	・3病院合同勉強会 (大阪鉄道・南大阪・日生病院)	(年2~3回)
消化器内科	・症例検討会	(週1回)
	・内視鏡カンファレンス	(月2回)
	・抄読会	(月2回)
	・内科合同カンファレンス	(月1回)
	・内科・地域合同症例検討会	(年1回)
総合内科	・症例検討会 ・抄読会	(週各1回)
	・内科合同カンファレンス	(月1回)
	・糖尿病療養指導チーム勉強会	(月1回)
	・糖尿病ケアカンファレンス	(月1回)
	・OID カンファレンス	(年2回)
	・肺覧会	(年1回)
	・内科・地域合同症例検討会	(年1回)
	・血液・化学療法内科	・症例検討会 (週1回) ・抄読会 (月2回) ・血液標本検討会 (適宜) ・内科合同カンファレンス (月1回) ・内科・地域合同症例検討会 (年1回)
神経内科	・新入院患者紹介	(週1回)
	・症例検討会 ・抄読会	(週1回)
	・内科合同カンファレンス	(月1回)
	・内科・地域合同症例検討会	(年1回)
救急診療科	救急カンファレンス	(週1回)
神経科・精神科	・心理検査勉強会	(月1回)
	・症例検討会	(随時)
小児科	・勉強会	(週1回程度)
	・入院症例検討会	(平日)
	・小児科外来勉強会	(年数回)
	・周産期カンファレンス	(週1回)
	・新生児管理カンファレンス	(月1回)
消化器・一般外科	・症例検討会	(週1回)
	・抄読会	(月1回)
	・死亡症例検討会	(随時)
	・学会報告	(随時)
乳腺外科	・乳腺外科ケアカンファレンス	(月1回)
	・抄読会	(月1回)
	・手術統計	(年1回)
	・死亡症例検討会	(随時)
	・学会報告 ・CPC	(随時)
	・NST勉強会 ・抄読会	(随時)
整形外科	・抄読会	(週1回)
	・手術症例検討会	(週1回)
	・リハビリ検討会	(月2回)
	・整形病棟勉強会	(年2~3回)
	・リサーチカンファ、及び学会報告会	(年数回)
皮膚科	・症例検討会	(週1回)
	・抄読会	(月3回)
	・3病院合同症例検討会 (日生・住友・大阪厚生年金病院)	(月1回)
	大阪西、中部地区皮膚科症例検討会	(年1回)

部(科)名	教育・研修項目	
泌尿器科	・症例検討会	(週1回)
	・抄読会	(週1~2回)
	・海外学術集会検討会	(年20回程度)
産婦人科	・症例検討会 ・抄読会	(週1回)
	・ケアカンファレンス・モーニングカンファレンス	(週1回)
	・レントゲンカンファレンス 周産期カンファレンス	(週1回)
	・ニッセイ内視鏡研究会	(年1回)
眼科	・ニッセイ病診連携懇話会	(年1回)
	・外来勉強会	(2~3ヶ月に1回)
	・病棟勉強会	(年1~2回)
耳鼻咽喉科	・西区病診連携の会	(年1回)
	・日生・住友病院合同勉強会	(年2回)
	・術前カンファレンス	(週1回)
放射線科	・西区病診連携の会	(年2回)
	・勉強会	(年数回)
	・日生病院外科カンファレンス	(週1回)
麻酔・緩和医療科	・ペイン症例検討会	(週1回)
	・麻酔症例検討会	(週1回)
	・緩和ケアカンファレンス	(月2回)
病理診断科	・スライドカンファレンス	(週1回)
	・症例検討会 (抄読会)	(週1回)
	・CPC	(月1回)
	・日本病理学会近畿支部学術集会	(年4回)
臨床研修部	抄読会	(月1回)
がん治療センター	・化学療法カンファレンス	(月1回)
外来化学療法室	・化学療法カンファレンス	(月1回)
リハビリテーション室	・抄読会	(週1回)
	・リハビリ検討会	(月2回)
	・糖尿病療養指導チーム勉強会	(月1回)
	・医療技能職勉強会	(年1回)
中央臨床検査部	・中検勉強会	(月1~2回)
	・医療技能職勉強会	(年1回)
医療技能部	・医療技能職勉強会	(年1回)
栄養管理室	・厨房内ミーティング及教育	(毎日)
	・栄養士勉強会	(月1回)
	・献立勉強会	(月1回)
	・栄養管理室ミーティング	(3ヶ月に1回)
	・糖尿病QOL向上勉強会	(年4回)
大阪病院給食研究会	(月1回)	
診療情報管理室	・診療情報管理室勉強会	(年数回)
薬剤部	・新薬説明会	(週1回)
	・薬剤部研修会	(月1回)
	・ファーマシティカルケア研修会	(月2回)
	・部内有害事象検討会	(年3回)
あったかサポートセンター	・患者支援カンファレンス	(週1回)
	・緩和ケアカンファレンス	(月2回)
	・医療福祉施設MSW研修会	(年5回)
予防医学センター	・医療技能職勉強会	(年1回)
	・予防医学センター勉強会	(月2回)
医事サービス部	・あわぎ産業医セミナー	(年1回)
	・健保改正勉強会	(年1回)

2. 全体教育

日医生涯教育講座カリキュラム

〈総合内科〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月10日(木)	13時00分～15時00分	別館4階 役員会議室	胸部X線画像読影の進め方	立花 功 (総合内科)

〈消化器内科〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月17日(木)	14時00分～16時30分	透視室(放射線科)	ERCP/EST	湯川 雅彦 (消化器内科)

〈循環器内科〉

月 日(曜日)	時 間	場 所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月22日(火)	9時00分～15時00分	放射線科	心カテ(PCI)の見学	岡部 太一 中川 厚 (循環器内科)

ニッセイ医学セミナーUpdate

開催月日	テ ー マ	講 師
平成25年5月10日	・閉塞性肺疾患とCOPD	副院長兼総合内科部長 立花 功
平成25年6月7日	・胃癌治療のUpdate	消化器・一般外科部長 道清 勉
平成25年7月5日	・肺癌病理診断のUpdate - 腺癌、ALK肺癌を中心に -	病理診断科部長代行 城光寺 龍
平成25年8月2日	・日生病院の院内製剤	薬剤部 薬剤師 吉岡 亮
平成25年9月20日	・股関節外科学 - 人工股関節置換術について -	整形外科担当部長 松井 稔
平成25年10月4日	・呼吸リハビリテーション - PT・OTの関わりについて -	リハビリテーション室 理学療法士 廣田 将史
平成25年11月1日	・予防医学のストラテジー	予防医学センター 医務部長 住谷 哲
平成25年12月13日	・抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイド ラインについて	消化器内科 居平 典久
平成26年1月10日	・小児悪性疾患 - 私の研学生活から -	小児科 中西 康詞
平成26年2月7日	・病理検査	中央臨床検査部 医療技能部長 臨床検査技師 水口 洋一

ニッセイ・ベーシック実践医療セミナー

開催月日	テ ー マ	講 師
平成26年1月24日	・不整脈とその対応	循環器内科 田中 克
平成26年3月14日	・痛み診療の基礎知識	麻酔・緩和医療科 花田 留美

1年目研修医オリエンテーション

	依 頼 項 目	講 師
平成25年4月1日	院長話、研修医の就業規則、健康診断、その他	院長、職員サービス部
	プログラムの説明など	臨床研修部 三木部長
	ローテーション説明	臨床研修部 三木部長
平成25年4月2日	電子カルテ基本操作	情報システム室
	ローテーション決定、その他	臨床研修部 三木部長
平成25年4月3日	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部 町田副看護部長
	感染防止	感染症看護専門看護師 大野
	防犯・防災	看護部
平成25年4月4日	看護部日勤研修	看護部
平成25年4月5・6日	看護部と1泊研修	
平成25年4月8日	各ローテーション科で研修開始	各診療科
	保険診療について	医事G
平成25年4月9日	採血、ポンプなど	看護部
平成25年4月10日	カテーテル、吸引・吸入など	看護部
平成25年4月11日	注射、点滴など	看護部
平成25年4月12日	ローテーション科で研修	各診療科
	薬剤処方	薬剤部
	栄養指導	栄養管理室
平成25年4月13～14日	看護部夜勤研修	看護部夜勤研修
平成25年4月15日	ローテーション科での研修	各診療科
	病診連携	あったかサポートセンター医療連携G
	医療福祉相談Gの利用について	あったかサポートセンター医療福祉相談G
	リハビリ依頼について	リハビリテーション室
平成25年4月16日	ローテーション科での研修	各診療科
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査部
平成25年4月17日	ローテーション科での研修	各診療科
	放射線科オーダー・その他	放射線科
	生理機能検査、心エコーの基礎	中央臨床検査部
平成25年4月18日	ローテーション科での研修	各診療科
	腹部超音波検査など	中央臨床検査部
平成25年4月19日	ローテーション科での研修	各診療科
	細菌検査、病理検査室	中央臨床検査部
	死亡診断書・剖検	病理診断科 城光寺医師
平成25年4月22日	ローテーション科での研修	各診療科
	カルテの書き方、サマリーの書き方など	診療情報管理室
平成25年4月24日	外科基本手技	消化器・一般外科 吉良医師
	嚥下機能評価と誤嚥	NST、消化器・一般外科 黄医師
平成25年4月30日	救急診療について	救急診療科
平成25年4月20日以降土曜日	勉強会	臨床研修部

講演会・研修会

年月日	テ ー マ	主 催	場 所
平成25年4月18日	第6回 緩和ケア講演会 特別講演「漢方薬との出会いーがん患者のQOL向上を中心にー」 センプククリニック（大阪市北区）院長 千福 貞博		別館講堂
平成25年4月27日	第10回 あわぎ産業医セミナー テーマ：「勤労者の呼吸器疾患の早期発見と事後措置」 I 講演 「勤労者の喫煙習慣および検診結果から見た慢性閉塞性肺疾患（COPD）と全身炎症」 ニッセイ予防医学センター 鈴木 真優美 「定期健診後のCOPD患者の呼吸リハビリテーションの実際と呼吸機能の改善」 リハビリテーション室 廣田 将史 II 特別講演 「産業医のための慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断と対策ー早期に見つけ、重症化させないために必要なことー」 独立行政法人国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 院長 林 清二		中之島 センタービル （リーガロイヤル NCB）
平成25年5月21日	第1回 感染防止対策病院連携合同カンファレンス 日生病院、大阪船員保険病院、大阪掖済会病院、大阪暁明館病院 I 講演会（カンファレンス内） 「インフルエンザの基礎知識 ー新型インフルエンザ情報を正しく理解するためにー」 神経内科部長 浅野 彰彦 II 分科会（職種別）	感染対策 委員会	別館講堂
平成25年5月21・ 22日	TQM研修会 人材育成研究所 立川 義博		別館講堂
平成25年5月25日	糖尿病センター公開セミナー 第一部 I 「糖尿病と皮膚疾患の関係 ー糖尿病性壊疽にご用心ー」 皮膚科部長 東山 真里 II 「今日から出来るフットケア」 糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子 III 「下肢動脈エコーについて」 臨床検査技師 柳川 友加 第二部 アマチュア落語 桂文喬主宰落語研究会		別館講堂
平成25年6月22日	第2回 あわぎ産婦人科病診連携懇話会 I 診療所だより 「私のホルモン剤の選び方」 三宅婦人科内科医院 院長 三宅 侃 II 病院だより 「内膜症嚢胞の術後再発予防に関する検討（中間報告）」 産婦人科 橋本 奈美子 「骨盤臓器脱LSC（腹腔鏡下仙骨陰固定術）先進医療の 取り組み」 産婦人科 大塚 博文		ANA クラウンプラザ ホテル
平成25年7月7日	第14回 日生ICLSコース	ACLS 委員会	別館講堂

年月日	テ ー マ	主 催	場 所
平成25年7月20日	第14回 あわぎフォーラム ・開放型病院運営委員会 ・開放型病院登録医総会 I 「ふえるCOPD：肺の慢性炎症」 副院長兼総合内科部長 立花 功 II 「完全鏡視下で行う腹腔鏡下胃癌手術」 消化器・一般外科部長 道清 勉 特別講演 「IL-6：私のトランスレーショナルリサーチ」 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 教授 岸本 忠三		リーガ ロイヤル ホテル
平成25年9月3日	第2回 感染防止対策病院連携合同カンファレンス 日生病院、大阪船員保険病院、大阪掖済会病院、大阪暁明館病院 I 講演会（院内感染対 第25回 教育講演会を兼ねる） ・「手洗いの工夫－標準予防策の要－」 中央臨床検査部長 小瀬戸 昌博 ・「消毒薬について」 薬剤部 主任 平田 貴宏 II 分科会（職種別）	感染対策 委員会	別館講堂
平成25年9月18日	第1回 あわぎ認知症セミナー I 講演「メモリーの使用症例の検討」 神経科・精神科 木藤 友実子 II 特別講演「今日の認知症事情－新規認知症薬への期待－」 大阪大学保健センター精神科 教授 工藤 喬		別館4階 役員会議室
平成25年9月27日～ 28日	第4回 日生病院緩和ケア研修会 PEACEに基づくがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会		別館講堂
平成25年10月10日	第1回 あわぎ糖尿病病診連携懇話会 I 基調講演「実地研究から学ぶ糖尿病治療の進め方 －薬物療法と共に－」 西宮市立中央病院 糖尿病・内分泌内科部長 紅林 昌吾 II クリニカルカンファレンス 1. 症例提示 総合内科 森田 真也 2. 症例提示 予防医学センター 住谷 哲		ホテル モントレ グラスミア 大阪
平成25年10月11日	管理者向けメンタルヘルス研修会 管理職のラインケア 「医療職ならびに病院における最近のメンタルヘルスに 関わる判例紹介」 大阪ガス株式会社 人事部 大阪ガスグループ 健康開発センター統括産業医 岡田 邦夫	安全衛生 委員会	別館講堂
平成25年10月31日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 「医療ガス設備の基礎と災害対策について」 エア・ウォーター防災株式会社 「医療ガスの安全な使用方法」 株式会社馬場酸素、岩谷産業株式会社	医療ガス 安全管理 委員会	別館講堂
平成25年11月2日	第3回 ニッセイ産婦人科内視鏡研究会 テーマ：将来困らないための初級者手術 －手術基本いつ学ぶの？「今でしょ！」－ I 腹腔鏡下手術器具 製品説明 II 講演「内視鏡手術の基本手技について」 III ドライBOXを用いた結紮・縫合実習 IV 結紮・縫合コンテスト		別館講堂

年月日	テ ー マ	主 催	場 所
平成25年11月6日	「栄養管理の基本」 消化器・一般外科 黄 泰平	栄養給食 委員会	別館講堂
平成25年11月9日	病診連携ニッセイクリニカルカンファレンス Ⅰ オープニングレクチャー 「脂質異常症治療の最新の話題」 循環器内科副部長 中川 厚 Ⅱ 一般演題 「胃癌術後7年、急速に進行したDIC・呼吸苦の例」 総合内科 豊田 新一郎 「熱中症疑いにて救急搬送された肝硬変患者の1例」 救急診療科 仁科 周平 「多彩な臨床症状を呈した三尖弁感染性心内膜炎の1例」 循環器内科 吉川 秀人 「自己免疫性肝炎 原発性胆汁性肝硬変オーバーラップ症候群の1例」 消化器内科 三上 高司 「小脳失調が先行したCreutzfeldt・Jakob病の1例」 神経内科 佐藤 智彦 Ⅲ ショートレクチャー 「血球減少：骨髄異形成症候群を中心に」 血液・化学療法内科部長 中川 雅史 Ⅳ 情報交換会		ホテル エルセラーン 大阪
平成25年11月17日	第15回 日生ICLSコース	ACLS 委員会	別館講堂
平成25年11月19日	第1回 感染防止対策 地域連携相互評価 対象病院 日生病院 野江病院がICTラウンドを実施し、日生病院を評価 医師 4名 小瀬戸、浅野、黄、佐藤 看護師 2名 大野、島津 薬剤師 2名 池田、平田 臨床検査技師 3名 藤田、角田、小林 事務 2名 山口、木下 野江病院9名 (医師2名、看護師2名、薬剤師2名、臨床検技師1名、事務2名)		
平成25年11月21日	第2回 感染防止対策 地域連携相互評価 対象病院 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会 野江病院 日生病院がICTラウンドを実施し、野江病院を評価 医師 3名 小瀬戸、浅野、黄 看護師 2名 大野、島津 薬剤師 2名 池田、平田 臨床検査技師 1名 藤田 事務 2名 山口、木下		
平成25年11月28日	第9回クリティカルパス大会 Ⅰ 「呼吸器内科領域でよく使用される クリティカルパスについて」 総合内科チーム 田村 慶朗 Ⅱ 「他施設のクリティカルパス大会を見学して」 診療情報管理室チーム 宮本 浩樹 Ⅲ 「外科クリティカルパスの現状報告」 3階病棟チーム 古道 静、山元 さちえ	クリティカルパス 委員会	別館講堂
平成25年11月29日	医療安全講演会 Ⅰ 「医薬品の適正管理について -報道事例の共有-」 医薬品安全管理者 野村 浩英 Ⅱ 「安全管理の観点から見直す基礎知識 -人工呼吸器編-」 コヴィディエンジャパン株式会社 看護師・呼吸療法認定士 丸林 美起	医療安全管理 委員会	別館講堂

年月日	テ ー マ	主 催	場 所
平成25年11月30日	第4回 ニッセイ看護研究会 テーマ：「看護を科学!？」 I 特別講演 「痛みの基礎知識」 麻酔・緩和医療科 花田 留美 II 講演 「症状体験が患者の気持ちにどう影響するか」 がん化学療法看護認定看護師 畠山 明子 「糖尿病の末梢神経障害、下肢病変に対するケア -痛みの感覚がにぶくなり、困ります-」 糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子		別館講堂
平成25年11月30日	市民公開講座 西部大阪肝疾患地域連携会、福島区・此花区・西区医師会、 関西電力病院、大阪厚生年金病院、日生病院共催 テーマ： 肝臓病を知る I 「本当はこわい脂肪肝」 関西電力病院 消化器内科部長 柴田 仁 II 「ウイルス性慢性肝炎の最近の話題」 大阪厚生年金病院 内科部長 伊藤 敏文 III 「肝細胞癌の診断と治療」 日生病院 消化器内科副部長 村本 理 「患者さんの疑問に答えるQ&A」		大阪大学 中之島センター
平成25年12月3日	第3回 感染防止対策病院連携合同カンファレンス 日生病院、大阪船員保険病院、大阪掖済会病院、大阪暁明館病院 I 手指消毒剤の使用状況について ・講演 「手指衛生アドヒランスを向上させるための方略」 感染症看護専門看護師 大野 典子 ・各病院から手指衛生材料使用量とサーベイランス状況 の報告 II 分科会（職種別）	感染対策 委員会	別館講堂
平成25年12月17日	確実な診療報酬の算定に向けた説明会 「押さえておきたい医事算定マニュアル -確実な診療報酬の算定について-」 医事サービス部 村上 学	医事サービス部	別館講堂
平成25年12月25・ 26日	人事給与制度改正案（骨子）についての説明会		別館講堂
平成26年1月17日	接遇研修会 「いっしょに考えませんか？ 接遇とクレーム」 株式会社スズケン 営業企画部 藤井 秀明	看護部 日新会 教育委員会 職員サービス部	別館講堂
平成26年1月21日	TQM大会 人材育成研究所 立川 義博		別館講堂
平成26年1月30日	輸血療法委員会講演会 「安全な輸血療法」 大阪府赤十字血液センター 医薬情報課 矢野 眞紀	輸血療法 委員会	別館講堂
平成26年1月31日	糖尿病ランチ&セミナー I 「ヨーグルトと健康 -病気に負けない体を作る！乳酸菌の多糖体-」 (株)明治 食品開発研究所 発酵乳開発研究部 梁原 智晶 II 「糖尿病の最近の話題 -インスリン治療を中心に-」 ニッセイ予防医学センター医務部長 住谷 哲		別館講堂

年月日	テ ー マ	主 催	場 所
平成26年2月4日	第4回 感染防止対策病院連携合同カンファレンス 日生病院、大阪船員保険病院、大阪掖済会病院、大阪暁明館病院 Ⅰ 特別講演会（院内感染対策 第26回 教育講演会を兼ねる） 「地域で取り組む感染管理」 大阪船員保険病院 副院長 遠藤 和喜雄 Ⅱ 分科会（職種別）	感染対策 委員会	別館講堂
平成26年2月19日	第5回 専門・認定看護師活動報告会 テーマ：磨こう看護力 -今こそ看護の力を発揮しよう!!- Ⅰ 「がん患者の治療期を支える看護」 がん化学療法看護認定看護師 畠山 明子 Ⅱ 「がんの痛みを抱える患者の看護」 -大量の麻薬を使用する患者の疼痛マネジメント- がん性疼痛看護認定看護師 小山 佐知子 Ⅲ 「糖尿病と生きる -あなたならどう生きる？」 あなたは家族にどう生きて欲しい? -」 糖尿病看護認定看護師 角南 ちえ子 Ⅳ 「MRSA検出を契機に病棟看護師と協働した重症感染症患者への 看護 -看護師だからできること、看護師だからできたこと-」 感染症看護専門看護師 大野 典子		別館講堂
平成26年2月28日	医療安全講演会 「医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキル -スピークアップとリーダーシップ-」 大阪大学医学部附属病院 病院教授 中央クオリティマネジメント部長 中島 和江	医療安全管理 委員会	別館講堂
平成26年3月6日	第2回 あわぎ糖尿病病診連携懇話会 Ⅰ 基調講演 「慢性炎症でつながる糖尿病とCOPD」 副院長兼総合内科部長 立花 功 Ⅱ クリニカルディスカッション 徳田クリニック 院長 徳田 好勇 佐々木内科クリニック 院長 佐々木 敏作 Ⅲ 意見交換会		ホテル 日航大阪
平成26年3月15日	第1回 日本生命済生会（日生病院）市民健康セミナー Ⅰ 「女性のライフサイクル -女性ホルモンの変遷から-」 副院長兼産婦人科部長 船渡 孝郎 Ⅱ 「関節リウマチの話 -関節の痛みが気になる方へ-」 中央臨床検査部長兼総合内科担当部長 小瀬戸 昌博		別館講堂
平成26年3月25日	人権研修会 「患者の人権を守るとは」 NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口 育子	教育委員会 職員サービス部	別館講堂
平成26年3月28日	診療報酬改正説明会 医事サービス部 村上 学		別館講堂

3. 日生医学賞・日生医学奨励賞

平成25年度表彰 日生医学奨励賞 2件

- ・大塚 博文
先進医療 腹腔鏡下仙骨陰固定術
- ・治験管理室チーム
臨床治験の安全と充実への貢献

4. 地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師／出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	2月2日(日) 10:00~17:00	宇都 佳彦	内科担当
	中央急病診療所	1月3日(金) 17:00~22:00	中西 康詞	小児科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30~	池原 千衣子	※25年度は健診対象者増加のため、健診日程を追加
		奇数月 第4水曜日 13:30~	池原 千衣子	
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	5月1日(水) 13:45~	尾崎 大輔	
		10月2日(水) 13:45~	伊藤 妙子	
		3月5日(水) 13:45~	伊藤 妙子	
西区民まつり 「健康のつどい」	西区民センター	10月20日(日) 9:00~15:00	笠山 宗正	医師会の健康相談コーナー等
大阪西地域産業保健 センター 拡充センター出務	西区民センター 第2会議室	1月18日(土) 13:30~15:30	三木 俊治	労働者からの健康相談
西区健康講座講演会 「生活習慣病は沈黙 の殺人者?!」	西区老人福祉センター	12月5日(木) 14:00~15:30	岡部 太一	センター利用者を対象とした健康に関する講演会
講演会 「認知症を理解する」	西区民センター	3月1日(土) 13:30~15:30	木藤 友実子	「認知症等高齢者支援地域連携事業」の市民対象の講演会

5. ボランティアの活動

年 / 月	主 な 内 容
4 月	ボランティア保険加入 (年度更新)
5 月	定例研修会 (5/9)
7 月	ボランティア協会定例研修会参加 (7/28) ホスピス緩和ケアボランティア研修会 (7/31)
8 月	日生病院ボランティア総会 (8/6)
9 月	定例研修会 (9/24)
10 月	日本病院ボランティア総会・集い参加 (10/29)
11 月	インフルエンザ予防接種 (任意)
12 月	健康診断 (任意)

(概要)

- ・平成13年ボランティア導入
- ・メンバー7名(月~金 各日2名ずつ活動)
- ・活動内容: 初診・再診手続き、患者輸送(車椅子輸送)、診察・検査等場所の案内、移動図書の管理

6. CS・ESへの取組

朝のあいさつNo.1活動	・「親切、丁寧、やさしい、わかりやすい」病院として定例的に朝のあいさつ活動 ・“あいさつNo.1” 標語の募集、優秀作品賞表彰
「患者様の声」への対応	・患者様から出されたご要望等の共有化と迅速対応
職員間の「ありがとうの声」	・「ありがとうの声カード」活用により院内コミュニケーションの活性化
その他の取組	・診療科前待合室の椅子リニューアル（H25/5・H26/1） ・患者様アンケート実施（H25/8・H26/2） ・「人間ドック受診企業」における受診者アンケート実施 ・「日生病院あったかサポート通信『SaiseiRimin』（済生利民）No.1」の発刊（H26/1） ・外国人患者様向けの内科英語問診票の作成 ・入院給食選択メニュー申込期日の増設及び期間短縮（H26/1） ・人間ドックのインターネット予約の開始（H26/2）

7. 院内行事

〈平成25年〉

4月1日	・新入職員入会式（原則各月第1水曜日）
4月1日	・進発式
4月4日	・看護部・臨床研修部新人宿泊研修（～4月5日）
4月18日	・緩和ケア講演会
4月27日	・あわぎ産業医セミナー（特別講演：近畿中央胸部疾患センター 林 清二院長）
5月10日	・医学セミナーUpdate（～3月7日迄全11回）
5月10日	・看護フェア
5月10日	・監査法人トーマツによる会計監査（～5月21日）
5月21日	・TQM研修会（～5月22日 講師：人材育成研究所 立川義博先生）
5月25日	・糖尿病センター公開セミナー
6月7日	・定時理事会
6月25日	・定時評議員会
6月25日	・理事会・評議員会報告会、TQMキックオフ
6月22日	・あわぎ産婦人科病診連携懇話会
7月7日	・日生病院ICLSコース（7月7日、11月17日）
7月20日	・あわぎフォーラム（特別講演：大阪大学 岸本忠三教授）
7月20日	・開放型病院運営委員会
7月20日	・開放型病院登録医総会
7月27日	・大阪乾癬患者友の会総会（7月27日、10月26日）
7月29日	・消防訓練（7月29日、11月29日）
8月2日	・ニッセイ夏休み子ども医療体験2013（8月2日、8月9日）
8月25日	・無料乳がん検診
9月3日	・院内感染対策教育講演会（9月3日、2月4日）

9月18日	・あわぎ認知症セミナー
9月28日	・日生病院緩和ケア研修会（～9月29日）
10月10日	・あわぎ糖尿病病診連携懇話会（10月10日、3月6日）
10月11日	・管理者向けメンタルヘルス研修
10月17日	・下期進発式、日生医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
10月18日	・糖尿病患者様の集い、糖尿病患者友の会「錦会」総会
11月2日	・ニッセイ産婦人科内視鏡研究会
11月6日	・篤志解剖者慰霊祭
11月9日	・フォーラム「医療の改善活動」全国大会発表（～11月10日）
11月9日	・病院連携ニッセイクリニカルカンファレンス
11月12日	・いい皮膚の日
11月13日	・花乃井中学校からの職場体験学習（～11月14日）
11月14日	・糖尿病フェア（～11月15日）
11月19日	・ボウリング大会（11月19日、11月21日）
11月21日	・堀江中学校からの職場体験学習（～11月22日）
11月28日	・クリティカルバス大会
11月29日	・医療安全講習会（11月29日、2月28日）
11月30日	・ニッセイ看護研究会
12月15日	・ニッセイ緑の財団との共催イベント「自然に学ぶ！自然に遊ぶ！健康キッズ」
12月20日	・クリスマス・ミニコンサート

〈平成26年〉

1月6日	・新年互礼会
1月17日	・接遇研修会
1月21日	・TQM大会
1月22日	・「金融コンシェルジュ」相談開始
1月24日	・ベーシック実践医療セミナー（～3月14日迄全2回）
1月30日	・輸血療法講演会
1月31日	・糖尿病ランチ&セミナー
2月19日	・専門・認定看護師実践報告会
2月27日	・低侵襲医療フェア（～2月28日）
3月1日	・看護研究発表会
3月11日	・研修医発表会
3月15日	・市民健康セミナー
3月19日	・臨時評議員会、定時理事会（平成26年度事業計画・予算）
3月25日	・人権研修会
3月28日	・診療報酬説明会

糖尿病教室	毎週／火～金曜日
母乳外来	毎週／木曜日
マタニティービクス アフタービクス ベビービクス マタニティーヨガ	毎週／火曜日・木曜日
両親学級	毎週／土曜日
大阪乾癬患者友の会「梯の会」	学習会・定例総会勉強会 年／2回 患者懇談会 年／3回 会報発行 年／4回 幹事会 毎月
糖尿病患者友の会「錦会」	総会 年／1回 患者懇談会 随時

公益財団法人 日本生命済生会付属

日生病院年報

公第2巻（通算第13巻） 平成26年10月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院 年報WG

発 行 公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

住 所 〒550-0012 大阪市西区立売堀6丁目3番8号

T E L 06 (6543) 3581 (代表)

<http://www.nissay-hp.or.jp>